男女共同参画に関する市民意識調査

報　告　書

平成28年1月

宇城市

目　　次

第１部　調査の概要

１．調査の目的 ……1
２．調査項目 ……1
３．調査設計 ……1
４．回答者のプロフィール ……3

第２部　調査結果の要点

１．男女平等について ……7
２．結婚観について ……7
３．家庭生活全般について ……7
４．子育て・教育について ……8
５．女性の社会参画について ……9
６．仕事、家庭、地域活動等の両立について ……9
７．配偶者などからの暴力について ……11
８．男女間でのセクハラについて ……11
９．人権の尊重について ……12
10．メディアにおける性・暴力表現に関する意識について ……12
11．男女共同参画に関するご意見やご要望……13
まとめ ……14

第３部　調査結果

１．男女平等について ……17
２．結婚観について ……24
３．家庭生活全般について ……27
４．子育て・教育について ……37
５．女性の社会参画について ……42
６．仕事、家庭、地域活動等の両立について ……49
７．配偶者などからの暴力について ……65
８．男女間でのセクハラについて ……76
９．人権の尊重について ……80
10．メディアにおける性・暴力表現に関する意識について ……84
11．男女共同参画に関するご意見やご要望……86
自由回答 ……95

資料編

調査票 ……107

第１部　調査の概要

第１部　調査の概要

１．調査の目的

男女共同参画に関する市民の意識や実態の変化を分析し、現状とこれからの取り組む課題を把握する。また、男女共同参画計画を見直すための基礎資料として活用し、今後の男女共同参画を効果的に推進することを目的とする。

２．調査項目

(1)回答者について
(2)男女平等について
(3)結婚観について
(4)家庭生活全般について
(5)子育て・教育について
(6)女性の社会参画について
(7)仕事、家庭、地域活動等の両立について
(8)配偶者などからの暴力について
(9)男女間のセクハラについて
(10)人権の尊重について
(11)メディアにおける性・暴力表現に関する意識について
(12)男女共同参画に関するご意見やご要望

３．調査設計

(1)調査対象地域

宇城市内全域

(2)調査対象

市内に在住する 20 歳以上の男女 3,000 人

(3)調査対象者の抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

(4)有効回収率

34.7%(回収数 1,042 票)

(5)調査方法

郵送による配布、回収

(6)調査期間

平成 27 年 7 月 2 日(木)から平成 27 年 7 月 27 日(月)

(7)調査結果利用上の留意事項

・文章や表、グラフ中の回答割合(相対度数)は百分比のポイント以下2位を四捨五入しているので、合計は必ずしも100%にならないことがある。
・2つ以上の回答を求めた(複数回答)質問の場合、その回答割合の合計は原則として100%を超える。
・数表等に記載された「n」は、回答割合算出上の基数(回答数)を示している。
・全問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問の回答割合は、層化された回答者を基数として算出している。
・文中では選択肢(変数)を「 」で示しており、選択肢の文章が長い場合は、一部省略したところがある。また、2つ以上の選択肢を合計して表す場合には『 』で示している。
・標本数が統計的な観点から過少の場合は、(標本数○件)と表示している。

なお、本報告書では、国や熊本県の調査結果と比較可能な項目の一部についてその内容を掲載し、今回本市の実施した調査結果との比較を行っている。

比較に使用した調査は以下のとおり。

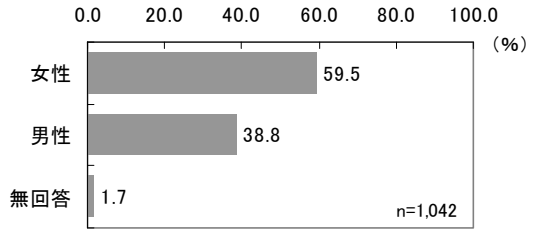
国:「男女共同参画社会に関する世論調査(平成24年度:内閣府)
熊本県:「男女共同参画に関する県民意識調査」(平成26年度:熊本県)

また、平成17年及び平成22年に実施した「宇城市男女共同参画市民意識調査」についても、必要に応じて比較を行っている。

4．回答者のプロフィール

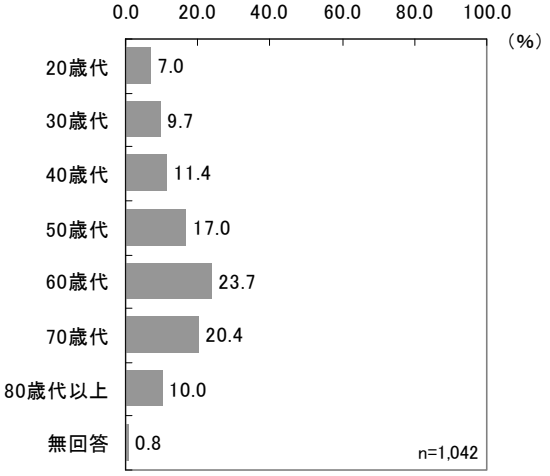
（1）性別

「男性」38.8%、「女性」59.5%で、女性の割合が高い。



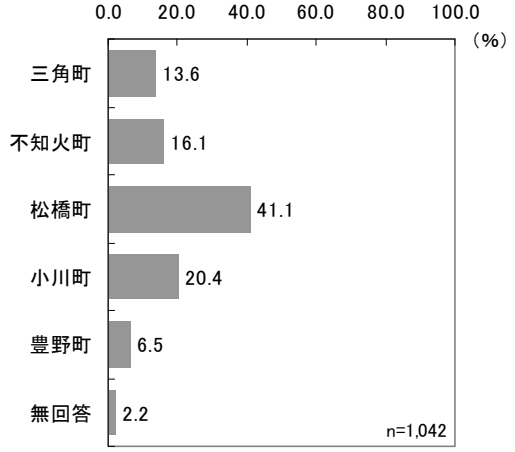
（2）年齢

「60 歳代」が 23.7%と最も多く、これに「70 歳代」の 20.4%が続く。『60 歳代以上』の高年齢層が全体の 54.1%を占めている。



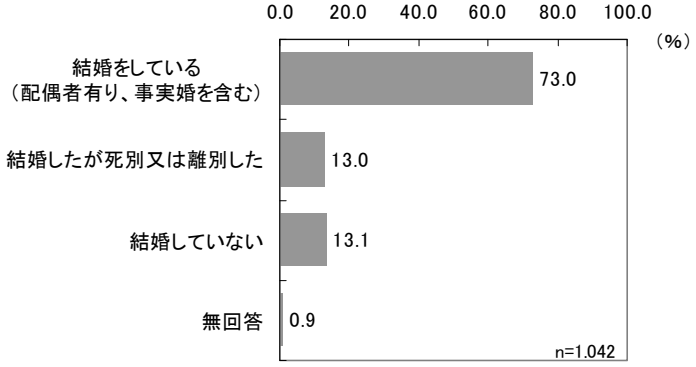
（3）居住地区

「松橋町」が 41.1%と最も多く、これに「小川町」の 20.4%、「不知火町」の 16.1%が続いている。



（4）婚姻状況

「結婚をしている（配偶者有り、事実婚を含む）」が 73.0%を占めている。「結婚していない」と「結婚したが死別又は離別した」はほぼ同率で 13%台となっている。

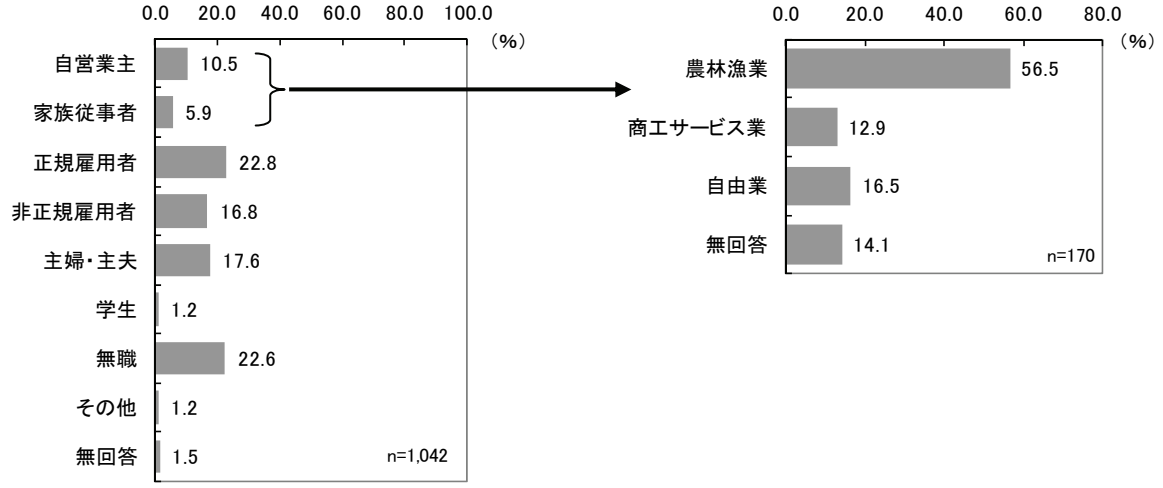


(5)職業

①本人

「正規雇用者」の 22.8%が最も多く、これとほぼ同率で「無職」の 22.6%が続く。以下、回答割合の高い方から「主婦・主夫」(17.6%)、「非正規雇用者」(16.8%)、「自営業主」(10.5%)の順となっている。

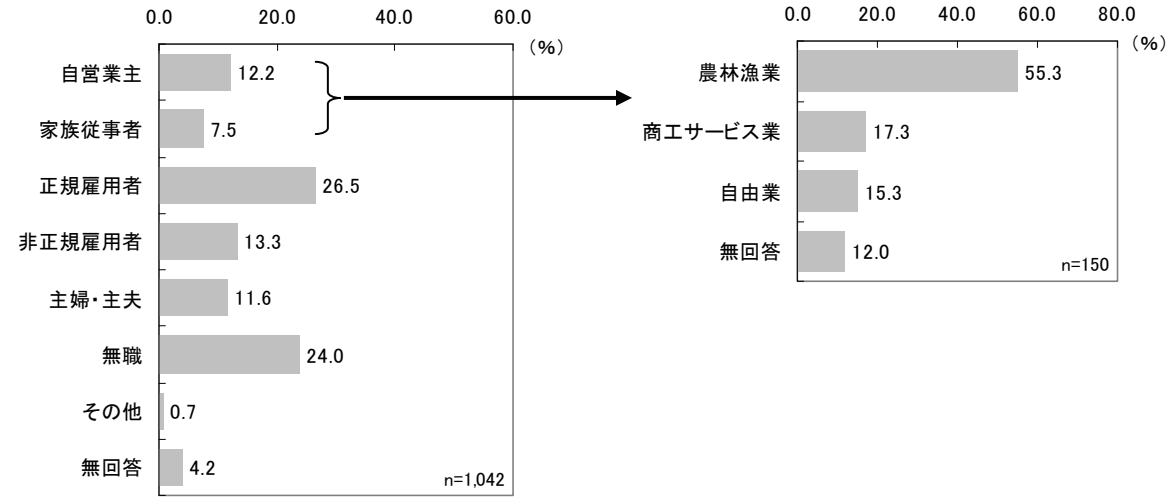
「自営業主」と「家族従事者」170 人の職業分類をみると、「農林漁業」96 人(構成比 56.5%)、「自由業」28 人(同 16.5%)、「商工サービス業」22 人(同 12.9%)となっている。



②配偶者の職業

「正規雇用者」の 26.5%が最も多く、これとほぼ同率で「無職」の 24.0%が続く。以下、回答割合の高い方から「非正規雇用者」(13.3%)、「自営業主」(12.2%)、「主婦・主夫」(11.6%)の順となっている。

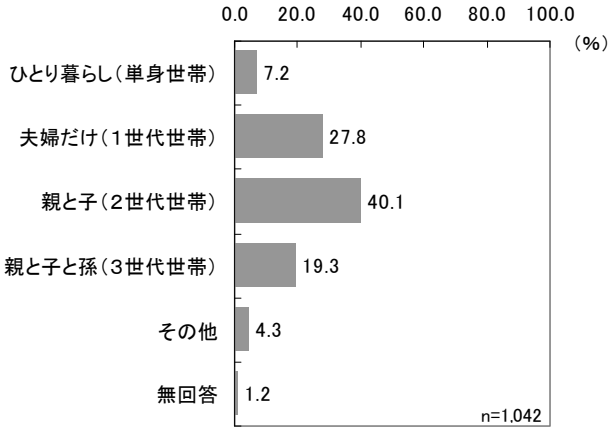
「自営業主」と「家族従事者」150 人の職業分類をみると、「農林漁業」83 人(構成比 55.3%)、「商工サービス業」26 人(同 17.3%)、「自由業」23 人(同 15.3%)の順となっている。



(6)家族構成

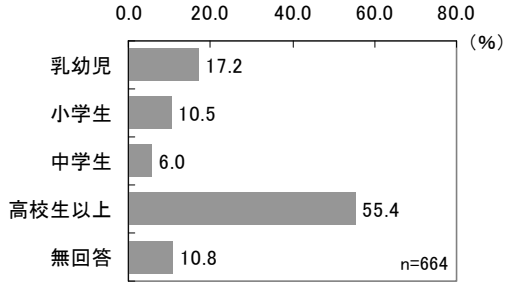
①家族形態

「親と子(2世代世帯)」が 40.1%を占め、次いで「夫婦だけ(1世代世帯)」の27.8%、「親と子と孫(3 世代世帯)」の 19.3%が続いている。



②「親と子」、「親と子と孫」、「その他」世帯で最年少の方の年齢

「親と子(2 世代世帯)」、「親と子と孫(3 世代世帯)」、「その他」を合わせた 664 世帯の最年少の方のライフステージをみると、「高校生以上」の 368 人(構成比 55.4%)が最も多く、これに「乳幼児」の 114 人(同 17.2%)が続いている。



第２部　調査結果の要点

第２部　調査結果の要点

ここでは、今回の調査結果を分野ごとに要点を抽出し、最後にその結果に基づく課題と、今後必要と考えられる取り組み等についてまとめた。

１．男女平等について

9つの分野について、男女平等に関する意識を聞いた結果は、以下のとおり。

▼平等と感じられる割合が高い分野

「学校教育の場」(65.5%)、「法律や制度の上」(41.0%)

これ以外の分野ではすべて『男性優遇感』(「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計)が高い割合となっており、女性で男性が優遇されていると意識している人の割合が高くなっている。特に「社会通念・慣習・しきたり」、「政治・施策決定の場」、「社会全体」では『男性優遇感』が60%を超えている。

この内容については、平成17年と平成22年に同様の質問をしており、前回、前々回と比較して、家庭生活で「平等である」とする人の割合が有意に増加しているが、政治・政策決定の場では「平等である」とする人の割合がやや減少している。他の項目については、ほとんど変化はみられない。

２．結婚観について

結婚に対する考え方についての結果は、以下のとおり。

▼『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)が60%を超える考え方

・「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい」

・「精神的にも経済的にも安定するから、結婚した方がよい」

つまり、①結婚は個人の意思により選択するべきとする考え方と②精神的かつ経済的な安定のために結婚する方が望ましいとする考え方のどちらについても、賛成する人の割合が高い。ただし、①の個人の自由を尊重する考え方は女性の割合が高く、②の結婚する方が望ましいとする考え方を持つ人は男性の割合が高い状況にある。

一方、「結婚したら、離婚すべきでない」とする、離婚を望ましくないとする考え方も過半数を占めており、結婚に関する自由意志の尊重と同時に、結婚した方が望ましい、結婚したら離婚はしない方がよいという価値観も、多くの人が支持している状況がうかがえる。

「夫婦が別々の姓(別姓)を名乗ってよい」という、夫婦別姓に対する考え方については反対する人が過半数を占めており、女性よりも男性で反対する人の割合が高くなっている。

３．家庭生活全般について

家庭生活での役割分担に関する11の項目について現状を聞いた。結果は、以下のとおり。

▼主に女性が担っている割合が高い項目

・「家計の管理」「掃除」「洗濯」「食事の準備」「食事のあとかたづけ」「育児、子どものしつけ」「親の世話(介護)」

▼主に男性が担っている割合が高い項目

・「家計を支えるための収入を得る」「家庭の問題における最終的な決定」

▼夫婦で同様に担っている割合が高い項目

・「子どもの教育方針の決定」「地区の行事などの地域活動」

前回調査でも同様の質問をしているが、傾向として大きな差はみられない。このことから、家庭内の役割分担についても、この5年間で大きく変化していないことがうかがえる。

一方、性別により固定的な役割分担をする考え方をどう思うか質問(「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という考え方に対する態度)しているが、ここでは前回と比べ反対意見がやや減少しているが、それでも反対が過半数を占めている。70 歳代以上の高年齢層を除き反対する意見の割合が賛成を上回っている。このことから、固定的な役割分担の考え方には反対する人の割合は高いものの、実際の行動をみると大きな変化がないという状況がうかがえる。

家事・育児に費やす時間についての質問をしており、この結果をみても、平日・休日とも女性の方の時間が長くなっている。

4. 子育て・教育について

最近、子どもの数が減少傾向にある理由を聞いており、結果は以下のとおり。

▼子ども数が減少傾向にある理由(回答が多かった項目)

・「女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないからから」(43.7%)
・「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」(41.8%)
・「子育てにお金がかかるから」(41.6%)
・「結婚年齢が上がっているから」(31.4%)
・「結婚を望んでも、相手が見つからずに結婚できない人が増えているから」(29.8%)
・「雇用の不安など、将来のくらしに希望が持てないから」(26.5%)

つまり、女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていない、生き方が多様化している、子育てにお金がかかるという回答が上位に挙げられている。このほか、結婚年齢が上がっているといった、ライフスタイルの多様化に伴う結婚・出産のありかたの変化という意見も多くみられた。また、将来に希望が持てないとする、近年の社会不安に起因するような問題も挙げられている。これらのうち、女性の就労環境に関する問題への指摘では女性、生き方の多様化、将来への希望のなさについては男性の割合が高くなっている。このほか、相手が見つからずに結婚できないという近年の実態もうかがうことができる。

子どもの教育やしつけについての考え方についての結果は、以下のとおり。

▼子どものしつけや教育に関する意識(『そう思う』割合)

・「男の子も女の子も、生まれ持った個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい」(89.8%)
・「女の子も男の子も、経済的な自立を目指した教育が必要」(89.2%)
・「女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術が必要」(89.2%)
・「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」(54.4%)
・「学校での出席簿など、男女混合にした方がよい」(34.7%)

男女ともに、個性や才能をいかす育て方、経済的な自立を目指す教育、生活に必要な技術の取得を目指す教育については、賛成意見が多数を占めている。一方で、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくという教育方針についても過半数が賛成となっており、この考え方が、半数の人には性別による固定的な観念として、否定的に受け止められてはいないことがうかがえる。また、学校での出席簿などを男女混合にするという考えについては、否定的な意見が多くなっている。これについては、男女平等の考え方と現場や当事者のみる実態との間に相違があるのか、今後確認をしていく必要があると思われる。

5．女性の社会参画について

女性が仕事をもつことについての考え方では、全体では「経済的自立のため、ずっと仕事をもっている方がよい」とする考えと、「子どもができたら仕事をいったん中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」とする考え方が拮抗している。これを性・年代別にみると、男女とも、若い年代ほど継続して仕事をもつことを支持する割合が高く、60 歳代と 70 歳代では、子どもができた時点で仕事を中断することを支持する割合が高くなっている。実際に就労している年代と多くの人が就労していない年代とで考え方に差があることがうかがえる。

なお、本市の子どもができて継続して就労することを支持する人の割合 47.4%は全国平均程度となっており、平成 26 年度の県民の結果よりも高くなっている。

継続就労に関する問題点として上位にあげられた項目は、以下のとおり。

▼女性が仕事を持ち続けるうえでの問題（割合の高い項目）

・「育児休業・介護休業制度が十分整備されていない」（45.3%）
・「育児休業や介護休業制度などを取りにくい雰囲気がある」（42.3%）
・「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」（24.4%）

つまり、制度上の不備や、制度があっても取得しやすい環境になかったり、そもそも待遇格差があるという実態が指摘されている。上記の割合が高い項目では、いずれも男性の割合が女性のそれを上回っており、性別にかかわらず女性が仕事を持ち続ける上での問題として認識されていることがうかがえる。この実態については、後段にある育児・介護休業の取得状況に関する質問の結果で、全体的な取得率の低くなっていることからもうかがえる。

また、地域の団体の代表や政治・行政・職場等の企画立案、決定の場に女性が少ない原因としては、「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」との回答が 60%台となっている。これは、社会通念・しきたりの中で男性の優遇感が強く感じられていたように、依然この分野では、男性優遇・優先の考え方や慣習が残っていることを示唆する結果となっている。

6．仕事、家庭、地域活動等の両立について

（1）育児休業・介護休業の取得について

育児休業や介護休業の取得経験をみると、全体では「ない」が 75.9%を占め、「ある」は 12.1%にとどまっているが、前回調査の 7.8%を上回っている。これを性別にみると、女性では取得経験が「ある」で 17.4%を占めるのに対し、男性は 4.1%となっている。

取得した制度の内訳をみると、全体では「育児休業」が 77.1%を占め、「介護休業」13.8%、「両方」5.5%となっている。性別でみた場合、取得者の 81.7%が女性であり、男性の取得者は、育児休業 7 人と介護休業 4 人、両方 3 人。

このように、育児休業や介護休業を取る男性が少ない理由について質問した結果は、以下のとおり。

▼育児休業や介護休業を取る男性が少ない理由（回答割合）

・「職場の理解が得られないと思う」（51.2%）
・「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」（40.9%）
・「休業補償が少なく、家計に影響する」（39.5%）
・「昇進や昇給に影響する恐れがある」（39.4%）
・「仕事の量や責任が大きい」（32.1%）
・「女性の方が育児・介護に向いている」（23.6%）

全体では「職場の理解が得られないと思う」で半数以上の回答を得ており、ほかにも「昇進や昇給に影響する恐れがある」、「休業補償が少なく、家計に影響する」、「仕事の量や責任が大きい」など、職場の現状や就労環境に理由があるとする人が多い。このほかには、「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」、「女性の方が育児・介護に向いている」といった固定的な性別役割分担意識も挙げられている。「女性の方が育児・介護に向いている」は 70 歳から 80 歳以上の年齢層で多くみられる。

(2)地域活動への参加状況・参加意向

現在参加している活動の結果は、以下のとおり。

▼現在参加している活動(回答割合)

・「参加していない」(35.5%)
・「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」(32.1%)
・「趣味・スポーツ・学習などの活動」(25.2%)
・「福祉ボランティアなどの活動」(10.2%)
・「PTAや子ども会などの活動」(9.8%)

性・年代別でみた活動率の高い項目は、以下のとおり。

▼女性

・30 歳代から 40 歳代・・・「PTAや子ども会などの活動」
・60 歳代から 70 歳代・・・「趣味・スポーツ・学習などの活動」
・70 歳代から 80 歳以上・・・「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」「福祉ボランティアなどの活動」

▼男性

・40 歳代から 80 歳以上・・・「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」
・40 歳代・・・「PTAや子ども会などの活動」
・20 歳代、40 歳代、70 歳代・・・「趣味・スポーツ・学習などの活動」

今後の参加意向の結果では、「趣味・スポーツ・学習などの活動」、「福祉ボランティアなどの活動」の参加意向が高く、特に女性の割合が高い傾向にある。

地域活動に参加する際に支障となること、または参加しない理由では、性・年代別にみて高齢者層は「健康・体力に不安がある」を理由にあげており、男性の 20 歳代から 60 歳代までは「仕事が忙しい」という理由が多い。女性の 20 歳代と 30 歳代では「参加するきっかけがない」「地域活動に関心がない」、30 歳代から 50 歳代ではで「仕事が忙しい」「家事や育児、介護で忙しい」という回答が多くなっている。

(3)仕事、家庭生活、地域・個人生活の両立に関する希望と実態

仕事、家庭生活、地域・個人生活の両立に関する希望を性・年代別にみると、男女ともに 20 歳代から 50 歳代までは、「仕事と家庭生活をともに優先したい」との回答が多く、女性の 60 歳代と 70 歳代では「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」、男性の 70 歳代と 80 歳以上は「家庭生活を優先したい」との回答が最も多くなっている。

一方、現実の状況は、女性の 30 歳代から 50 歳代までは「仕事と家庭生活をともに優先している」、60 歳代から 80 歳以上では「家庭生活を優先している」が多くなっている。男性では 20 歳代から 50 歳代にかけては「仕事を優先している」、40 歳代から 50 歳代では「仕事と家庭生活をともに優先している」、70 歳代以上では、「家庭生活を優先している」との回答が最も多くなっている。

希望としては、壮年期にかけて仕事と家庭生活をともに優先させたいとする考えが多い中、現実には、男性

の生産年齢層を中心に仕事を優先している現状がうかがえる。

このような状況を受けて、男性が女性と共に家事、子育て、介護、地域活動に参加していくために必要なこととしては、全体に「男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」で、いずれも半数以上の選択率となっている。続く「社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること」では特に女性の支持割合が高く、このほか労働時間短縮などの制度普及や、意識啓発・情報提供、まわりの人の意識の持ち方に関する項目もある程度あげられている。

7．配偶者などからの暴力について

（1）DV防止法の認知度

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（DV防止法）の認知度については、内容までは知らないが名前は知っている程度が過半数を占めており、法律の内容まで知っている人を含めた割合は80％台となっている。これを性・年代別にみると、男性で 20 歳代から 30 歳代、80 歳以上では「知らない」の割合が他の年代と比べ高くなっている。

（2）DVに関する被害・加害経験

DVに関する数種の例について、被害、加害の経験を質問した結果、全体では被害、加害経験の「どちらもない」の割合が高くなっているが、「手でたたく・突き飛ばす、足でける」（被害 10.7％、加害 5.7％）、「大声でどなって威嚇する」（被害 12.6％、加害 9.1％）では被害経験で1割台の回答となっている。また、「何を言っても、長時間無視し続ける」と「交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する」を除く項目で、男性は加害、女性では被害経験の割合が高くなっている。多くの項目で男性が加害者、女性が被害者になるケースが多いが、精神的な暴力では女性が加害者である場合もあることがうかがえる結果となっている。

1つでも被害経験のあった人を対象に、その際の対応方法を聞いた結果は、「我慢した」過半数を占め、次いで「どこ（だれ）にも相談しなかった」、「家族・親族・友人に相談した」が 20％前後で続いている。被害については相談しないケースが最も多く、相談した場合でも家族・親族などの身近な人が中心で、外部機関への相談については数パーセントの割合にとどまっている状況である。

相談しなかった理由をみると、「相談するほどのことではないと思った」（女性 48.6％、男性 58.1％）では男性の割合が高くなっており、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」（女性 37.1％、男性 25.8％）、「相談しても無駄だと思った」（女性 23.6％、男性 12.9％）では、女性の割合が高くなっている。男性では相談するほどのことではないとの考えが多い一方、女性では我慢した方が望ましいと考える人の割合が高いことがうかがえる。このほか、「恥ずかしくてだれにもいえなかったから」、「どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから」などの理由もあげられているが、相談することで適切な処置を施すことが可能なケース、状況が改善するケースも考えられるため、今後は被害の実態把握と相談のありかたについて、検討を進めていく必要があると考えられる。

8．男女間でのセクハラについて

セクハラに関する被害・加害経験や伝聞の状況を質問した結果では、「まったくない」との回答が最も多くなっているが、「男のくせに･･･女のくせに･･･など差別的な言葉を使う」「結婚はまだ、子どもはまだ、としつこく言う」「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」では、「見たり聞いたりしたことがある」との回答が 20％台となっている。「男のくせに、女のくせになど差別的な言葉を使う」「結婚はまだ、子どもはまだ、としつこく言う」「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」「接待や宴会で、酌やデュエット、ダンスを強要する」「触る、抱きつく、しつこく付きまとう」では、女性の被害経験者が 10％前後となっている。

1 回でも被害経験のあった人に相談の状況を質問した結果を性・年代別にみると、女性の 20 歳代から 60 歳代にかけては「家族、友人、知人に相談した」との回答が多くなっており、比較的若い年代で人に相談した割合が高くなっている。一方、男性では、いずれの年代でも「だれ(どこ)にも相談しなかった」が多くなっている。

セクハラの被害については、相談することへの抵抗感があるため、勇気等が必要な状況であることも推察される。職場などでは対応措置をとることも義務づけられていることから、発生の防止、被害者の救済の視点にもとづき、これらの周知と活用を進めていくことが必要である。

9. 人権の尊重について

ドメスティックバイオレンス(DV)やセクシャル・ハラスメントをなくすための方策について聞いた結果は、以下のとおり。

▼DVやセクハラなど人権侵害をあらゆる分野からなくすために必要なこと(回答割合)

・「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」(48.1%)
・「苦情や悩みに的確に対応できる組織体制の充実」(45.3%)
・「相手を対等なパートナーとしてみるような意識の啓発」(42.9%)
・「DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」(35.1%)
・「学校での男女平等教育の推進」(33.0%)

性・年代別にみると、女性では 30 歳代から 60 歳代で「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」との回答が多く、20 歳代と 40 歳代、50 歳代では「DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」との回答が多くなっている。男性では、20 歳代から 40 歳代では「警察や医師及び職場の役職者といった被害者を発見しやすい人たちへの研修・啓発、ネットワークの強化」が多くなっており、性・年代間で傾向に差がみられる。

実際に、男性及び女性の人権が尊重されていないと感じることでは、「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」(35.4%)との回答が最も多く、次いで「配偶者、パートナーからの暴力」(34.6%)、「セクシュアル・ハラスメント」(33.9%)、「就職の機会や賃金、昇進など男性との格差」(33.1%)、「職場や仲間による言葉の暴力」(30.9%)、「売春、買春」(23.6%)が続いている。

10. メディアにおける性・暴力表現に関する意識について

メディアにおける性・暴力表現に対する思いを聞いた結果は、以下のとおり。

▼メディアにおける性・暴力表現に対する意識(回答割合)

・「子どもの目に触れないような配慮が足りない」(42.5%)
・「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」(39.8%)
・「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」(35.9%)
・「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長する恐れがある」(29.8%)

これを性別にみると、「子どもの目に触れないような配慮が足りない」については男性に比べ女性の割合が高くなっている。また、性・年代別にみると、女性の 60 歳代から 70 歳代までは「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が多くなっている。一方、男性の 50 歳代から 80 歳以上では「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が他の年代と比べ高くなっている。

11. 男女共同参画に関するご意見やご要望

(1)男女共同参画をテーマにする話題への関心

男女平等や男女共同参画をテーマにする話題への関心については、「まあまあ関心がある」が 47.7%で最も多く、次いで「あまり関心が無い」(28.9%)、「ほとんど関心が無い」(8.2%)、「非常に関心がある」(7.2%)、「まったく関心がない」(3.6%)となっている。『関心がある』(「非常に関心がある」+「まあまあ関心がある」)の割合は、全体の 54.9%を占めている。これを性別にみると、『関心がある』は女性の 56.3%に対し、男性は 52.5%と、女性の割合がわずかに高くなっている。また、性・年代別にみると、女性ではいずれの年代も「まあまあ関心がある」との回答が多いが、20 歳代では「あまり関心がない」との回答が他の年代よりも高くなっている。一方、男性では、30 歳代で「ほとんど関心がない」との回答が最も多くなっており、『関心がない』(「あまり関心がない」+「ほとんど関心がない」+「全く関心がない」)の割合が 60.6%と過半数を超えている。このほかの年代では、いずれも「まあまあ関心がある」との回答が多く、『関心がある』の割合は、80 歳以上で 47.7%と半数を下回っているほかは、いずれも 50%以上を占めている。

(2)農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なこと

農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なことの結果は、以下のとおり。

▼農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なこと(回答割合)

- 「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」(51.9%)
- 「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」(36.8%)
- 「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくる」(36.4%)

性別にみると、「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」と「委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること」では男性の割合が高い。一方、「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」と「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくる」では女性の割合がやや高くなっている。

(3)男女共同参画に関する用語の認知度

男女共同参画に関する用語について8項目の認知度をたずねた。

『認知度』(「よく知っている」+「内容(意味)を多少は知っている」+「名称(言葉)は知っている」)をみると、「育児・介護休業法」が 82.8%で最も高く、これに次ぐ「男女雇用機会均等法」(75.3%)、「男女共同参画社会基本法」(60.1%)、「宇城市男女共同参画推進条例」(51.4%)では、いずれも過半数の回答を得ている。一方、認知度が低いもの(「全く知らない」)では、「アンペイド・ワーク」(77.4%)、「ジェンダー」(57.6%)、「家族経営協定」(55.1%)、「ワーク・ライフ・バランス」(54.4%)となっている。性別にみると、全体的に男性の方で認知度がやや高くなっているが、「ジェンダー」については、女性の認知度が高くなっている。

(4)宇城市の施策に望むもの

男女共同参画社会を実現していくために、宇城市の施策に望まれていることは、以下のとおり。

▼男女共同参画実現にために望まれている市の施策(回答割合)

- 「子育て支援サービスの充実」(32.9%)
- 「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実」(29.5%)

・「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」(28.2%)
・「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」(23.8%)
・「職場における賃金・女性の管理職登用など、男女均等な扱いについての周知徹底」(19.9%)
・「リーダー養成など女性の人員育成の推進」(15.9%)

これを性・年代別にみると、女性の 20 歳代から 60 歳代では「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」との回答が他の年代層よりも多い。20 歳代から 30 歳代までは「職場における賃金・女性の管理職登用など、男女均等な扱いについての周知徹底」、20 歳代から 40 歳代までは「子育て支援サービスの充実」が多くなっている。一方、男性の 20 歳代から 50 歳代までは「子育て支援サービスの充実」が他の年代と比べ高くなっている。「女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する」に関しては、20 歳代と 30 歳代での回答が多くなっている。このほか、40 歳代と 50 歳代では「リーダー養成など女性の人員育成の推進」、40 歳代と 70 歳代では「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」が他の年代と比べ高くなっている。

まとめ

(1)家庭・地域・就労における課題

今回の調査の結果から、以下の点が現状と課題としてあげられる。

▼男性が優遇されているという意識

・依然として多くの分野で男性が優遇されている観が強く、実際に、地域の団体の代表、政治・行政、職場等の様々な分野における企画立案、決定の場に女性が少ないのは、最も男性優遇感の強い「社会通念・しきたり」によるものとする意見が多くなっている。
・こうした傾向は、家庭、地域の中だけでなく、就労の場についても同様で、職場でも男性の優遇感は強くもたれており、実際に待遇の差なども調査結果からは指摘されているところである。

▼家庭生活での役割は主に女性が担っている

・家庭生活全般においても、家事・育児または介護などの役割を主に女性が担うという傾向は、前回調査時点と傾向をほぼ同じくする結果となっている。

▼男女間の固定的な役割分担意識は反対意見が増加

・前々回の調査と比べ男女間の固定的な役割分担意識に対しては反対意見が多くなっており、男女共同参画の推進に関する意識は高まっているとみることができる。

▼結婚・出産と就労についての希望と現実の乖離

・女性の就労のありかたについても、若い年代では結婚・出産にかかわらず、継続して就労することが望ましいと考える人が多い一方で、それが困難な理由として、育児介護休業法などの不備や、取得が難しい雰囲気があるという事由が挙げられていることからも、希望(意識)と実態(現状)が乖離している状況を表している。

こうした傾向からは、宇城市を含め、近年の男女共同参画に関する様々な取り組みが進められる中で、市民の意識・関心については少しずつではあるが高まってきていることがうかがえる。しかし、家庭での役割分担や家庭や地域、職場等での男性の優遇観は解消されておらず、意識の変化ほどには市民の行動や実態についての変化はみられないというのが現状である。

また、調査結果からは結婚・出産と就労についての希望と現実の乖離が認められており、市に望む施策として子育て支援サービスが多く挙げられていることや、近年子どもの数が減少している原因のひとつとして、女性が働きながら子どもを育てる条件がそろっていないことが指摘されていることとも無関係ではないことが示唆されている。

（2）DV・セクハラ、メディア等を通した男女の人権における課題

調査結果から、近年社会問題として注目されているDVやセクハラ等の問題は、多くの場合、女性が被害者、男性が加害者となる構図となっていることが示された。また、精神的な暴力では女性が加害者であるケースもうかがえる結果となっている。

ただ、このように深刻な社会問題として注目を集めてはいるが、調査結果にもみられるように、被害をどこ（だれ）にも相談しないケースが多く、我慢した方がよい、相談することが恥ずかしい、相談してもどうにもならないという意見が多いことが示唆されている。その結果、周りが重大な問題に気づかないまま、状況が悪化していくような環境が放置されている可能性もないとは言えない。

このように表に出てこないケースも多く、外部からは発見しにくい問題でもあるため、第三者による早期の発見や、解決に向けた相談体制の整備が重要であることは指摘されながらも、実際にこれを機能させていくためには、多くの課題があると考えられる。これは男女共同参画の部署だけでなく全市的な対応として、問題が深刻化する前に、相談機関等を通じた早期の発見・解決に向けた見守り、相談体制のあり方を今後も検討していくことが重要である。

また、長年、メディアによる性的に偏った表現、過度な表現などは問題視されてきているにもかかわらず、調査結果では、依然さまざまな問題と思われるような事例が指摘されている。各々が専用の携帯電話やスマートフォンをほとんどが所有する時代であり、情報の量と利便性が格段に向上する中、同時に危険性も格段に増加している。このような環境の中で、男女平等の視点による人権問題を明確にし、その重要性の認識や具体的方策を示していくための啓発や情報提供、教育の場の提供などが以前にもまして重要になっていくものと考えられる。

以上のことから、今後の取り組みとして必要なこととしては、人権の尊重を含めてさまざまな場面での男女共同参画の推進に向けた啓発事業や情報提供は今後とも継続する。併せて就労（農林漁業の視点も含む）や地域社会、家庭の状況を現実面で改善していくことのできる、実効性のある施策の推進が必要である。そのために市に求められることは、宇城市男女共同参画計画に示されているさまざまな分野での施策事業について、その目的を再度明確にし、これまでの取り組みの成果に対する評価を行い、今後より具体的な部分で効果をあげていくことができるような方向性を、新たに示していくことである。

また、課題や問題が複雑かつ深刻化する中で、これらを解決していくために子ども・子育て、健康づくり、生涯学習、高齢者施策等の関係部署との連携だけでなく、警察や防犯関係の団体や地域活動の団体と連携した効果的な取り組みが求められる。

第３部　調査結果

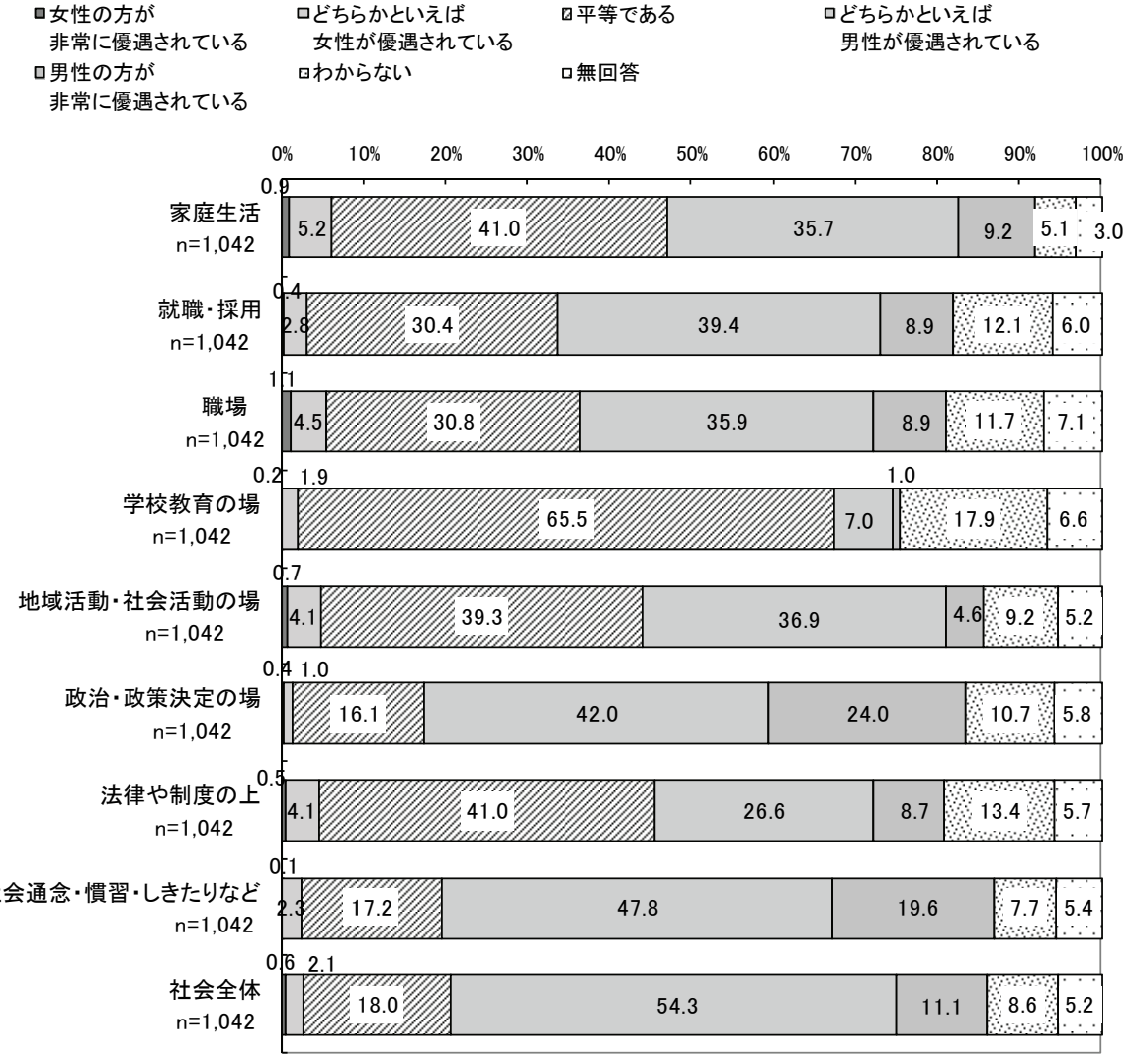
第３部　調査結果

１．男女平等について

問2　あなたは、男性と女性は平等であると思いますか。(1)～(9)のそれぞれについて、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

「家庭生活」「就職・採用」「職場」「学校教育の場」「地域活動・社会活動の場」「政治・施策決定の場」「法律や制度」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体」の9つの分野について、男女平等に関する意識を聞いた。

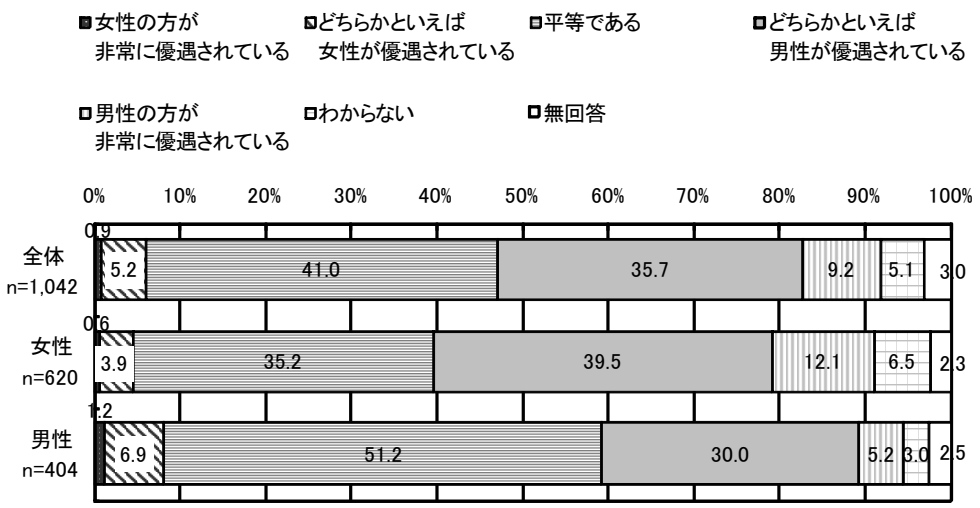
「平等である」との回答が最も多い項目は「学校教育の場」の 65.5%となっており、これに「家庭生活」と「法律や制度」の 41.0%が続いている。「学校教育の場」と「法律や制度」以外の分野ではすべて『男性優遇感』(「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計)が高い割合となっており、特に「社会通念・慣習・しきたり」(67.4%)、「政治・施策決定の場」(66.0%)、「社会全体」(65.4%)で高くなっている。



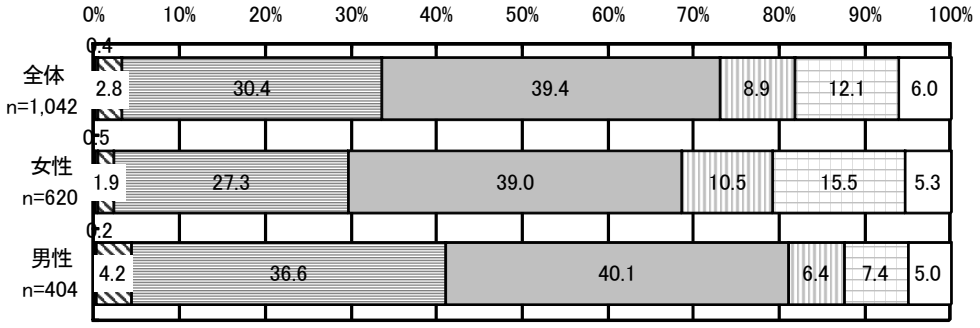
【性別】

性別にみると、男性はいずれの分野でも「平等である」と考える人の割合が女性に比べて高い。特に男女差の大きい分野は、「法律や制度」（女性 32.4%、男性 54.5%）、「家庭生活」（女性 35.2%、男性 51.2%）、「政治・施策決定の場」（女性 10.3%、男性 25.2%）、「地域活動・社会活動の場」（女性 34.5%、男性 47.8%）、「社会全体」（女性 13.1%、男性 26.2%）と大きくなっている。

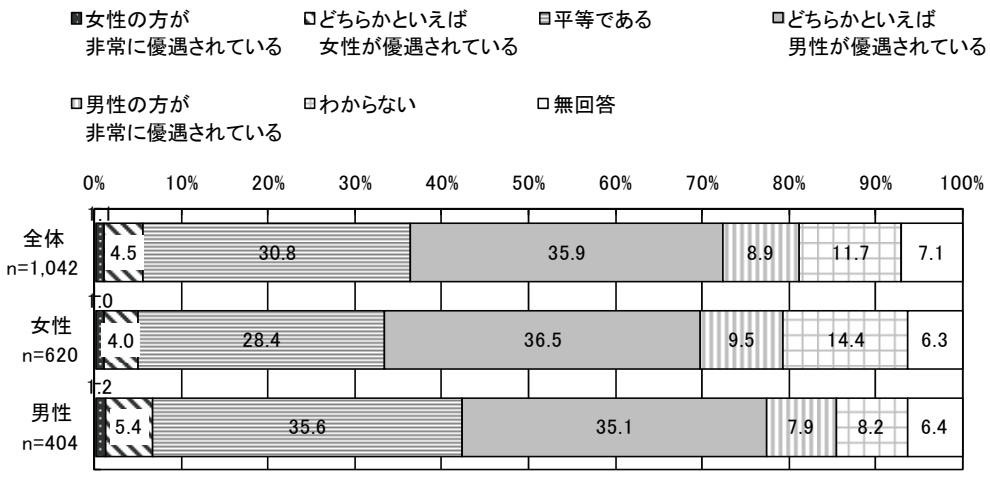
○家庭生活



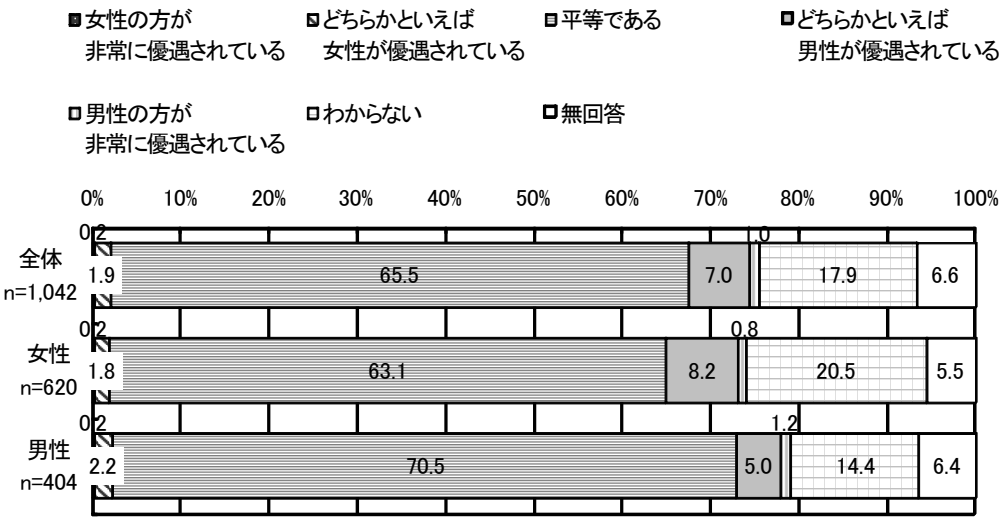
○就職・採用



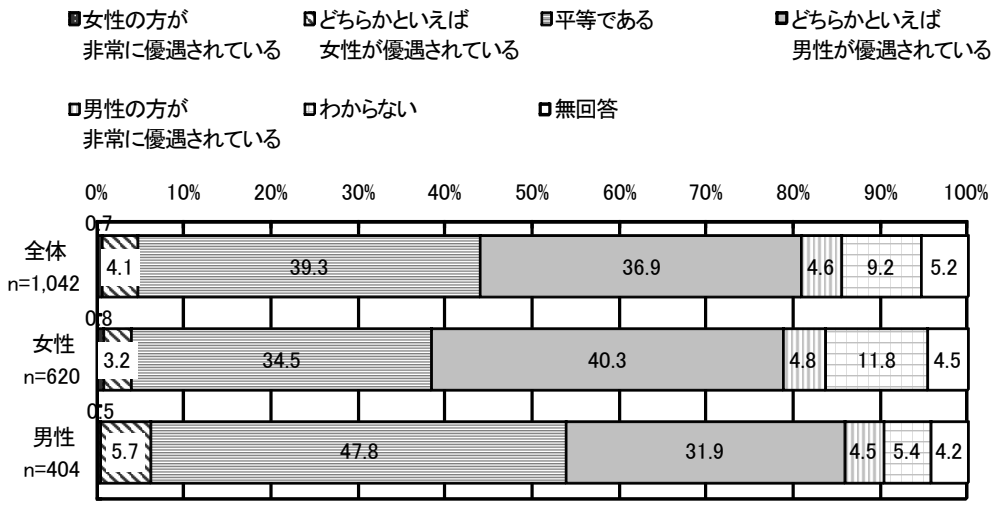
○職場



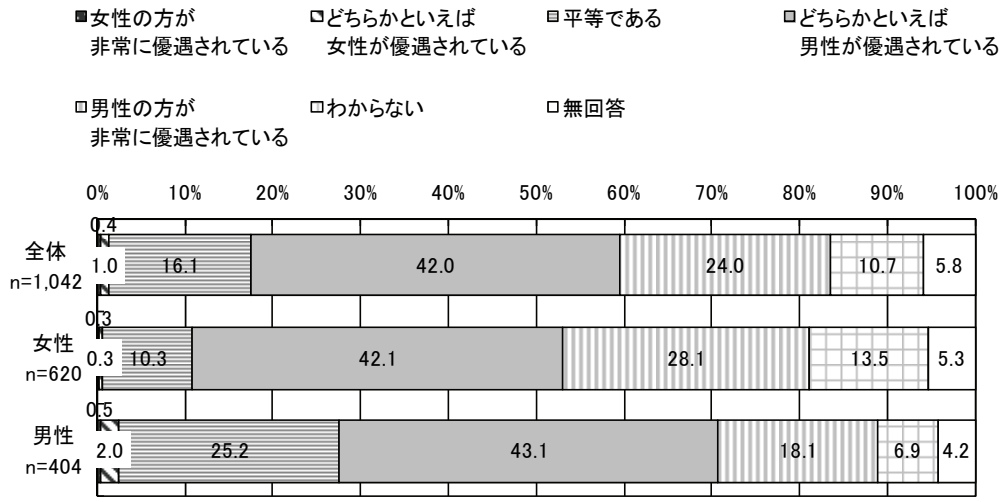
○学校教育



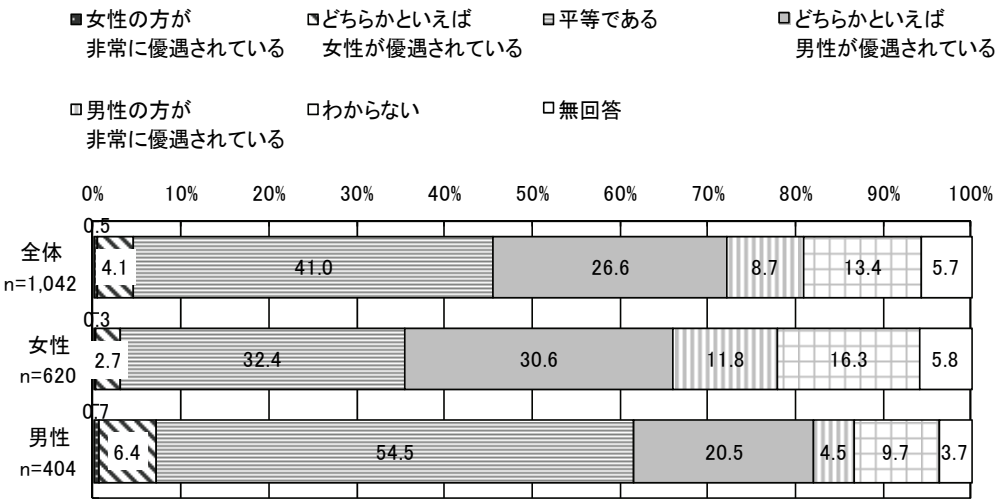
○地域・社会活動



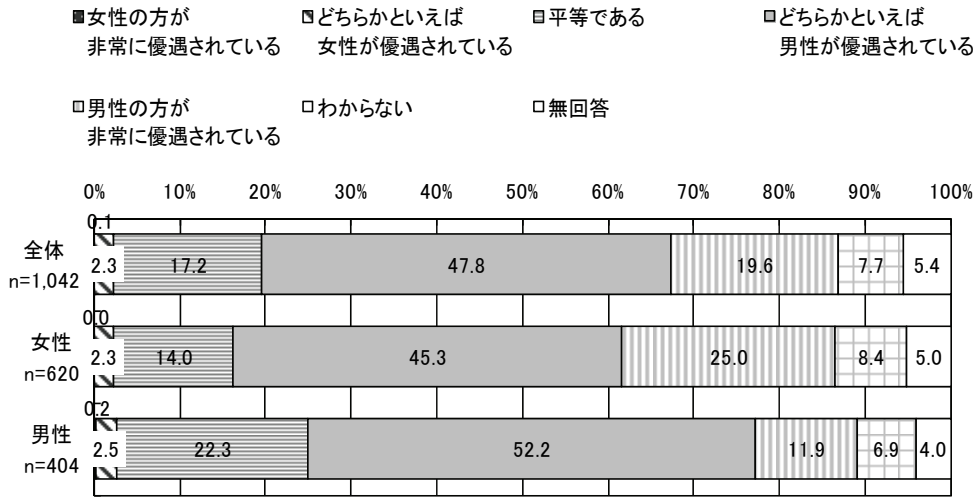
○政治・政策決定



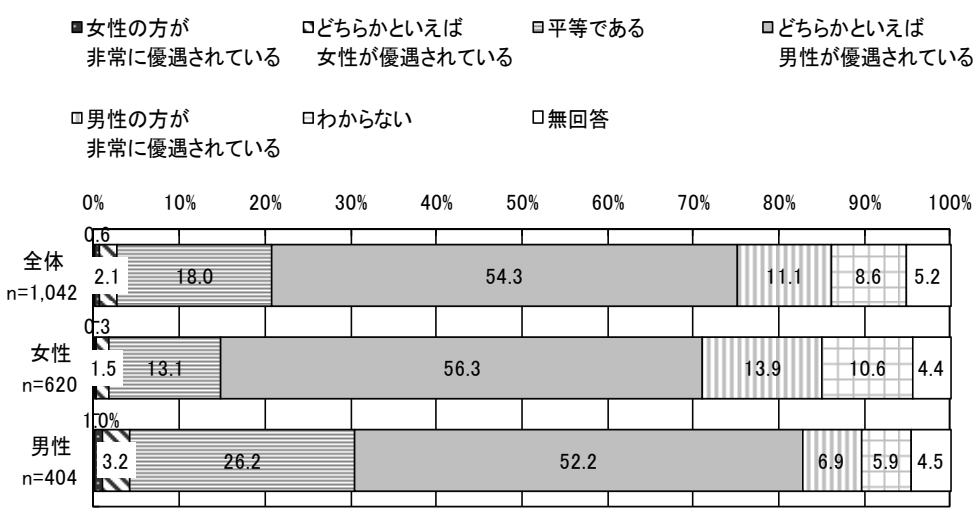
○法律・制度の上



○社会通念・慣習・しきたり



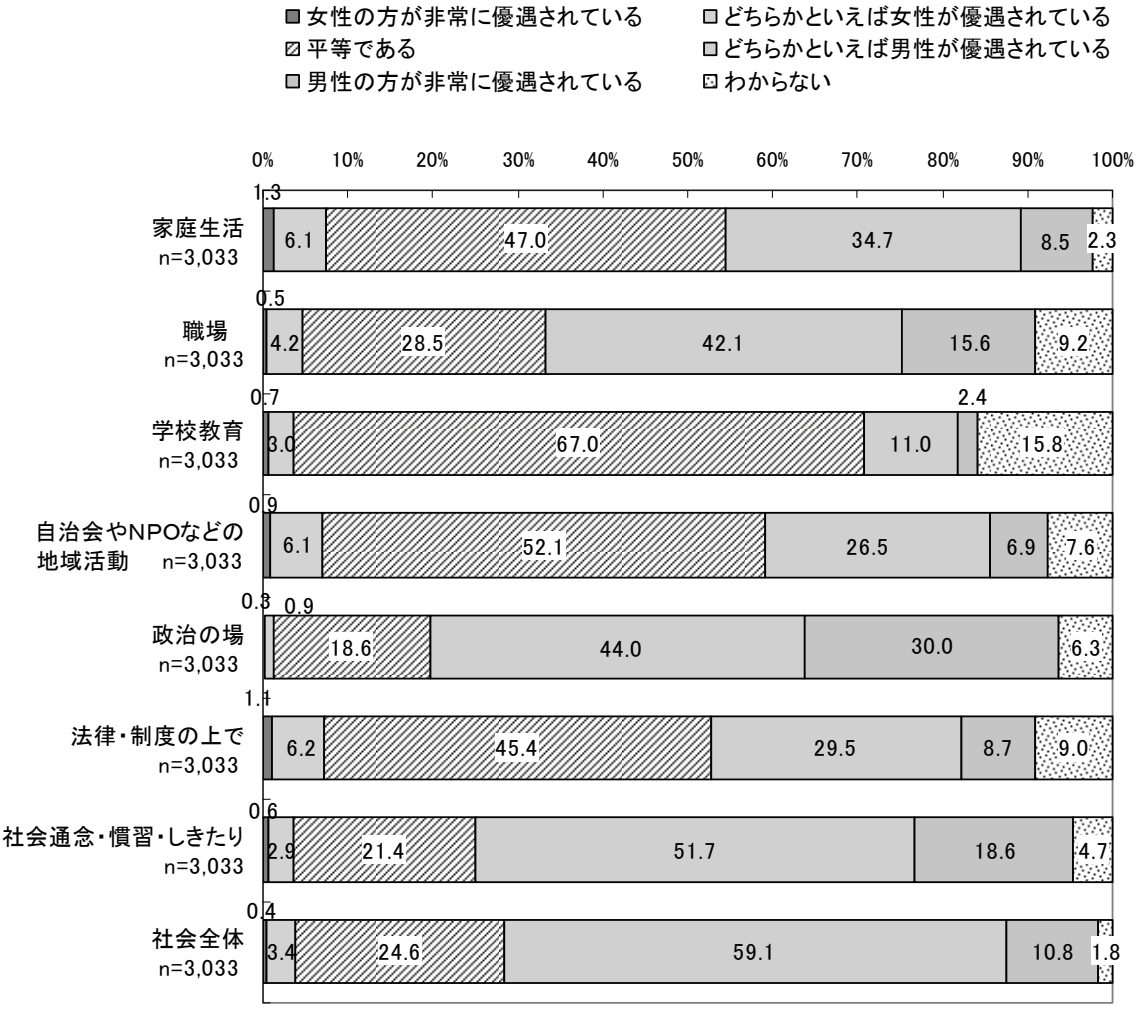
○社会全体



【国・県調査との比較】

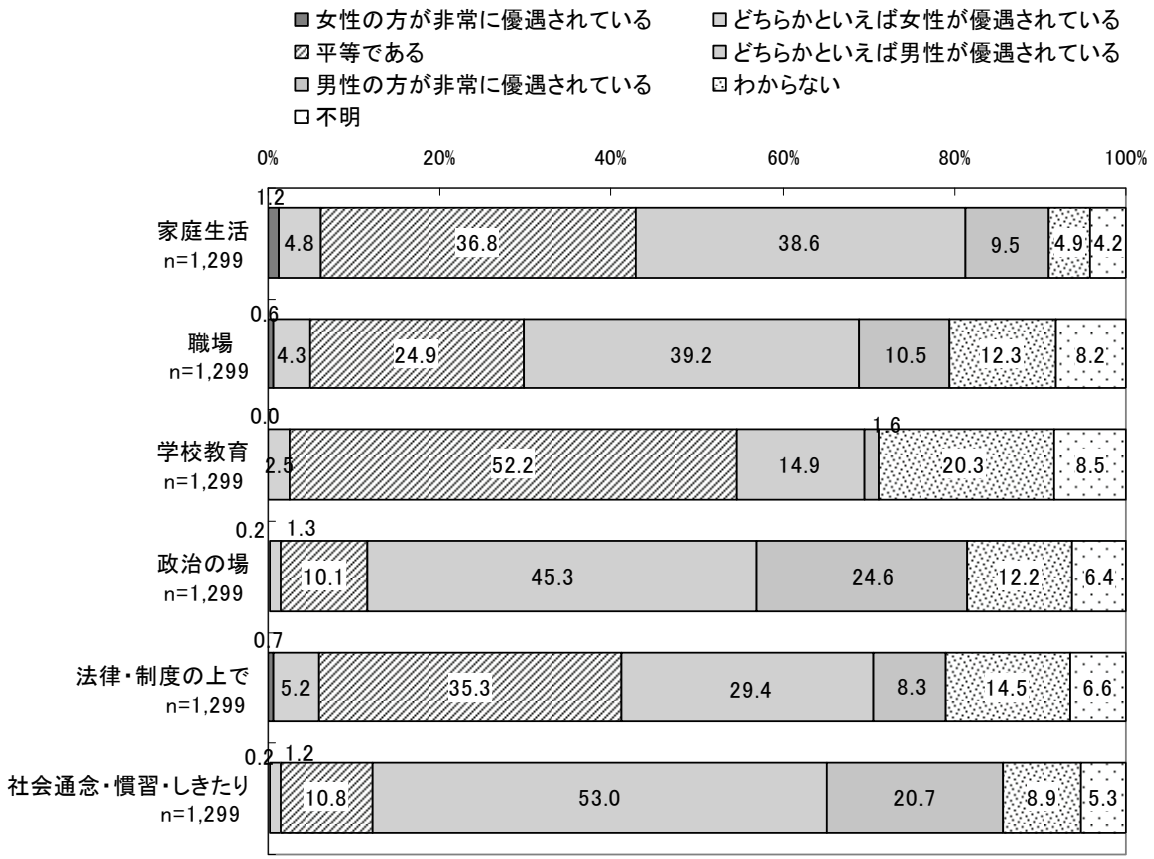
〇内閣府男女共同参画に関する世論調査（平成 24 年度）

本市と同様に学校教育、法律・制度のうえでの平等のほか、自治会やNPOなどの地域活動や家庭生活での割合が高くなっている。このほかではいずれも男性の優遇感が強くなっている傾向は本市と同じであるが、職場、法律・制度の上で、政治の場、社会全体では、国の方で男性優遇感が強くなっている。



○平成 21 年度　男女共同参画に関する県民意識調査（熊本県）

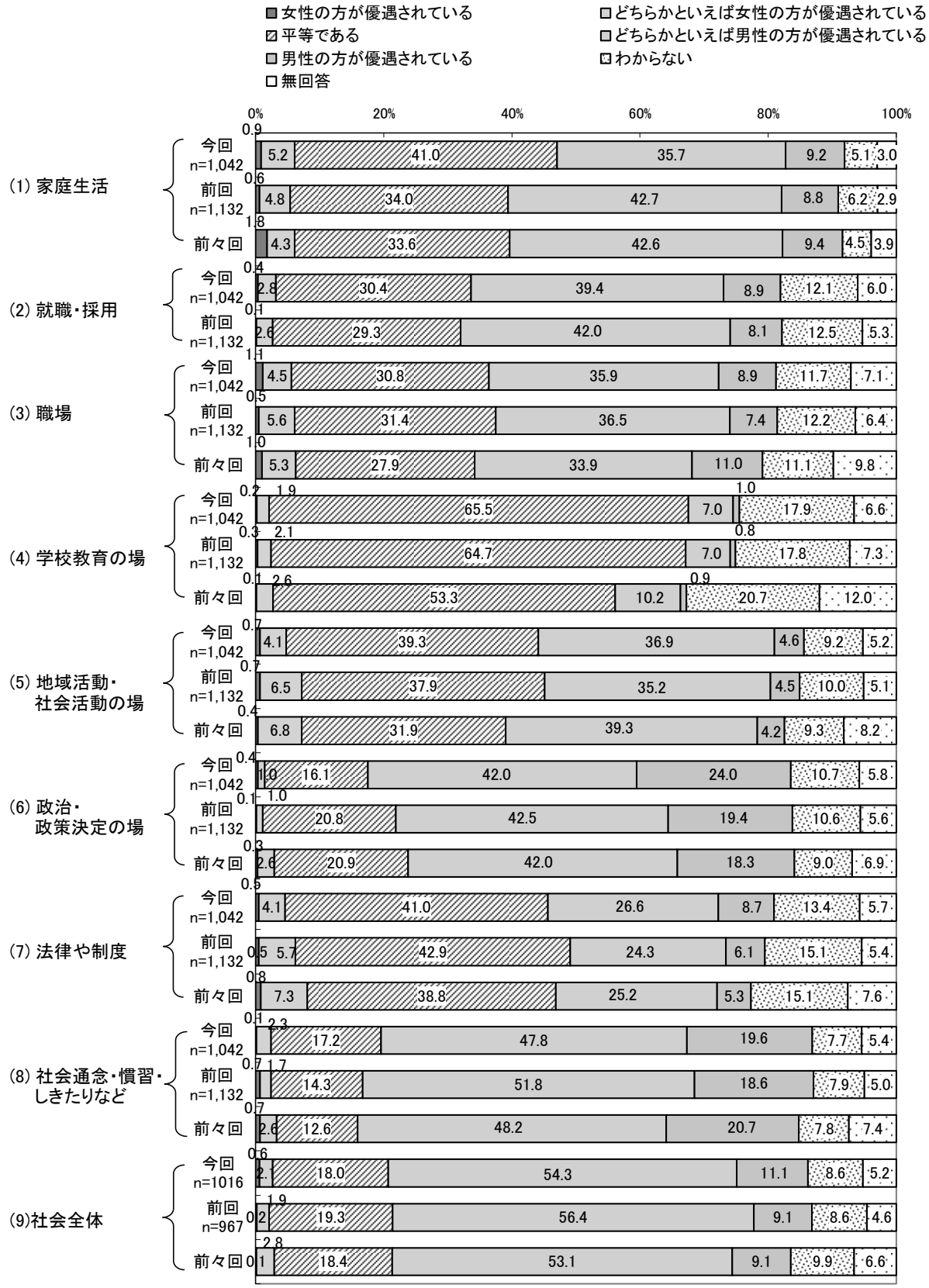
県の結果との比較では、本市の方がすべての項目で「平等である」の割合が高い。



【前回調査との比較】

○平成 17 年度及び平成 22 年度　宇城市男女共同参画市民意識調査

前回、前々回と比較して、家庭生活で「平等である」とする人の割合が有意に増加しているが、政治・政策決定の場では「平等である」とする人の割合がやや減少している。他の項目については、ほとんど変化はみられない。



2．結婚観について

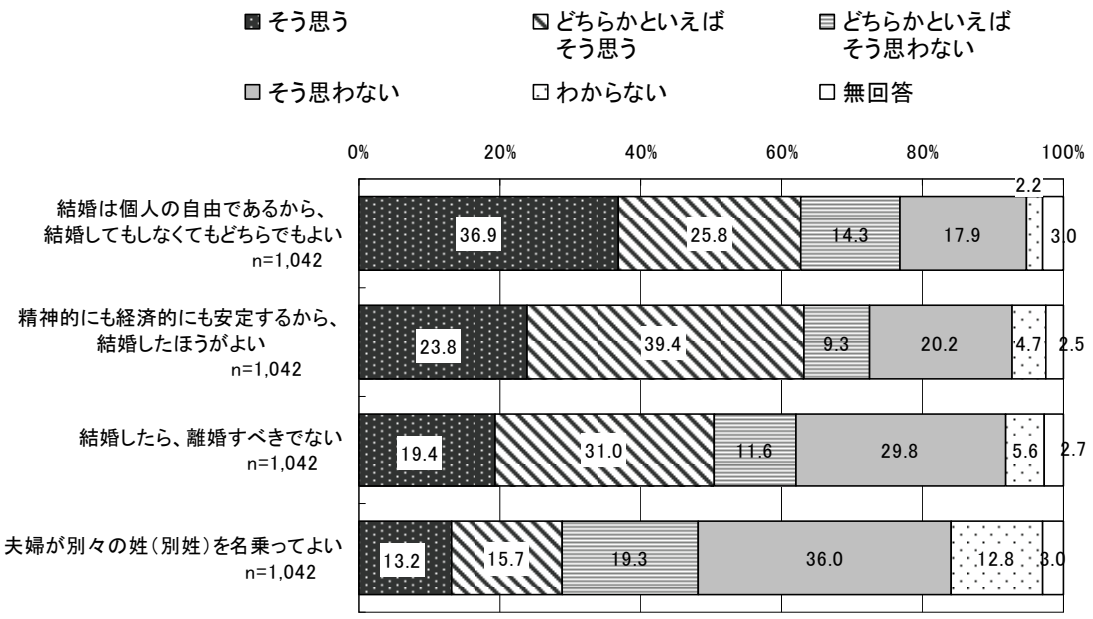
問3　次に掲げる(1)～(4)のそれぞれについて、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

結婚に関する4つの考え方についての意識を聞いた。

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい」については、「そう思う」（36.9％）との回答が最も多く、『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が 62.7％を占めている。

「精神的にも経済的にも安定するから、結婚した方がよい」についても、『そう思う』が 63.2％と高い割合を占めている。また、「結婚したら離婚すべきでない」という考え方も、『そう思う』が 50.4％と過半数を占める。

一方、「夫婦が別々の姓（別姓）を名乗ってよい」については、「そう思わない」（36.0％）との回答が最も多く、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）が 55.3％を占める。

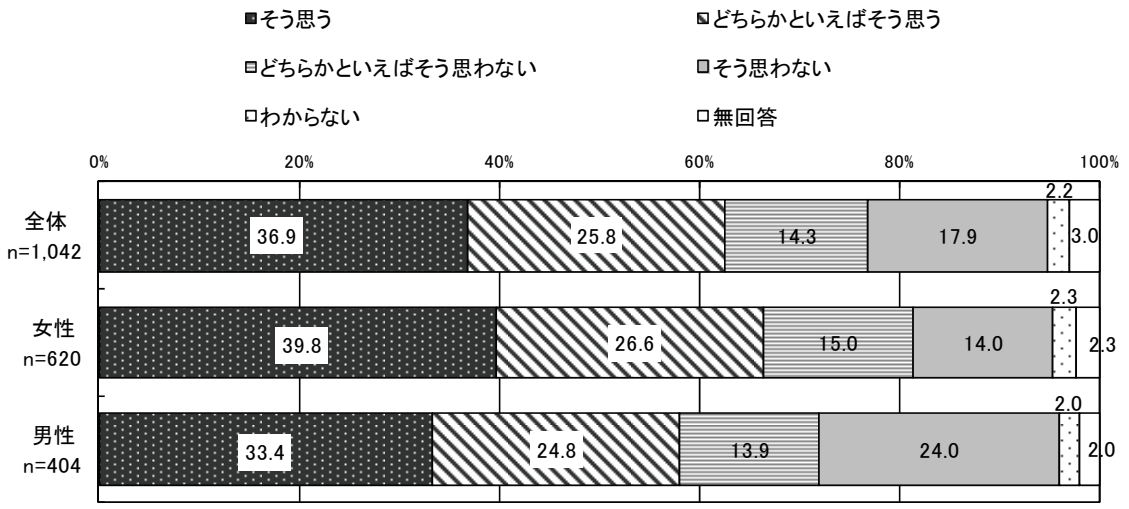


【性別】

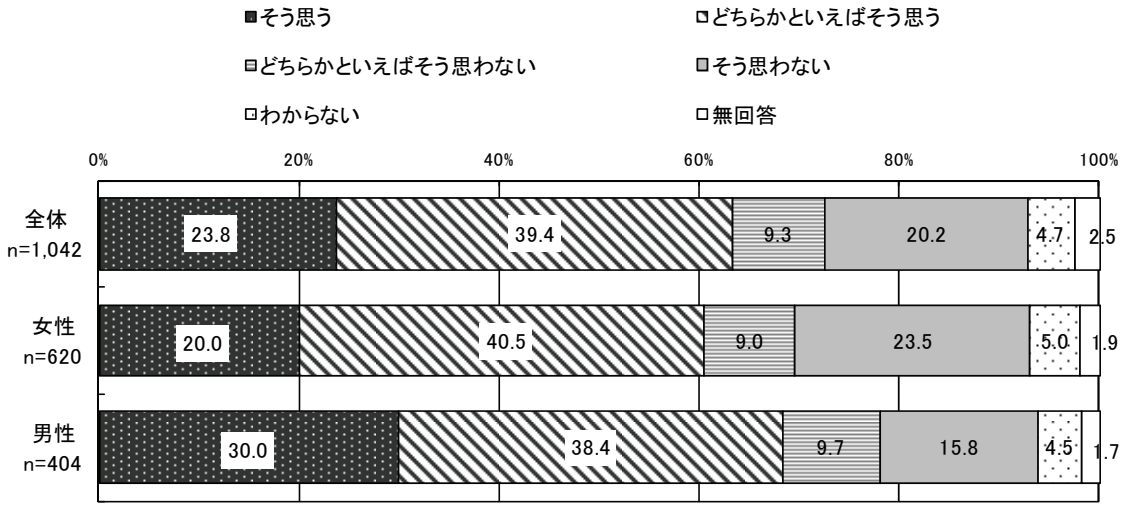
性別にみても全体と同じような傾向にあるが、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい」では女性は男性に比べ『そう思う』の割合が高く、「精神的にも経済的にも安定するから、結婚した方がよい」「結婚したら離婚すべきでない」については、男性の割合が高くなっている。

また、「夫婦が別々の姓（別姓）を名乗ってよい」という考えについては、女性よりも男性の『そう思わない』の割合が高くなっている。

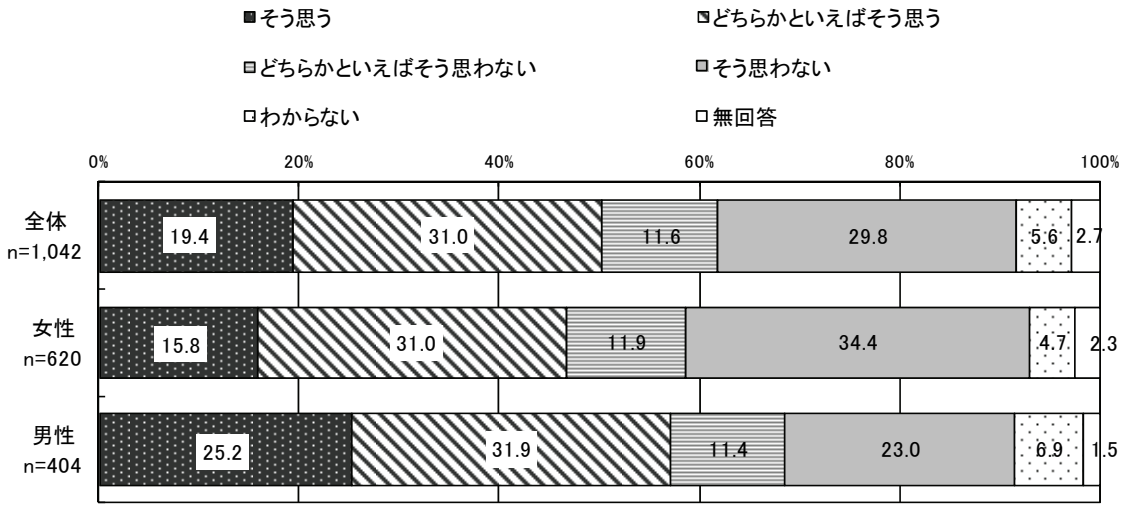
○結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



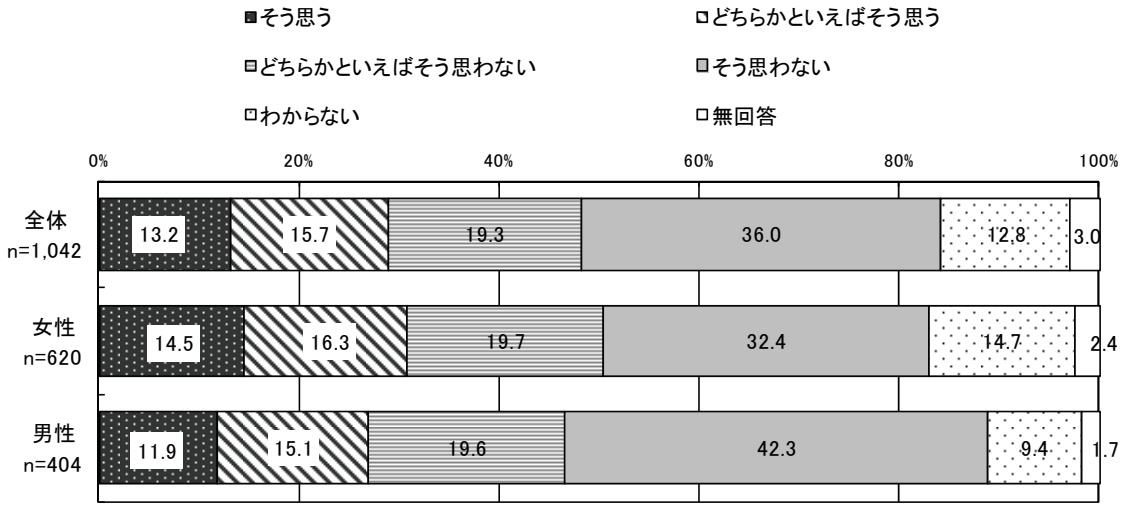
○精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい



○結婚したら、離婚すべきでない



○夫婦が別々の姓（別姓）を名乗ってよい



3．家庭生活全般について

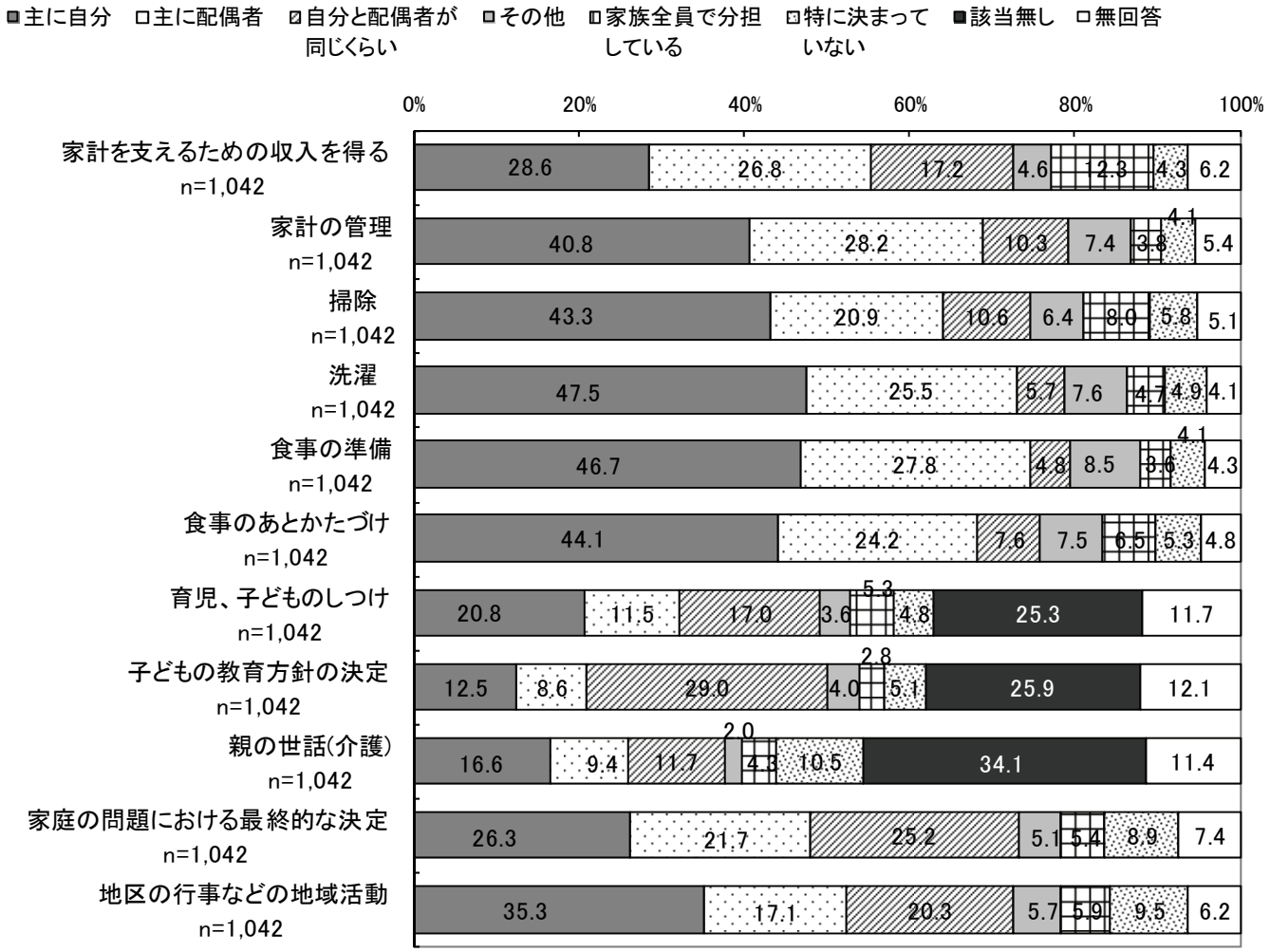
（1）家庭での役割分担

問4　あなたのご家庭では、次に掲げるようなことは、主にどなたの役割ですか。(1)～(11)のそれぞれについて、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

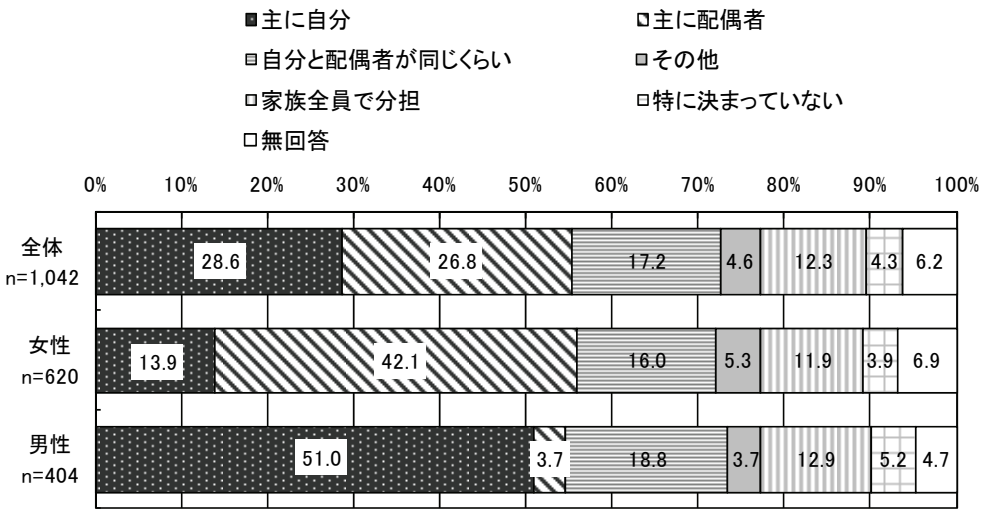
家庭生活での役割分担について 11 の項目についての現状を聞いた。

この結果を性別にみると、「家計を支えるための収入を得る」では、男性の場合「主に自分」（51.0％）、女性では「主に配偶者」（42.1％）の割合が高いが、「家計の管理」「掃除」「洗濯」「食事の準備」「食事のあとかたづけ」といった家事に関しては、男性の場合「主に配偶者」、女性の場合は「主に自分」との回答が最も多く、これらの役割は、女性が中心となって担っていることがうかがえる。また、同様に「育児、子どものしつけ」「親の世話（介護）」についても、女性への依存が高い傾向がみられる。

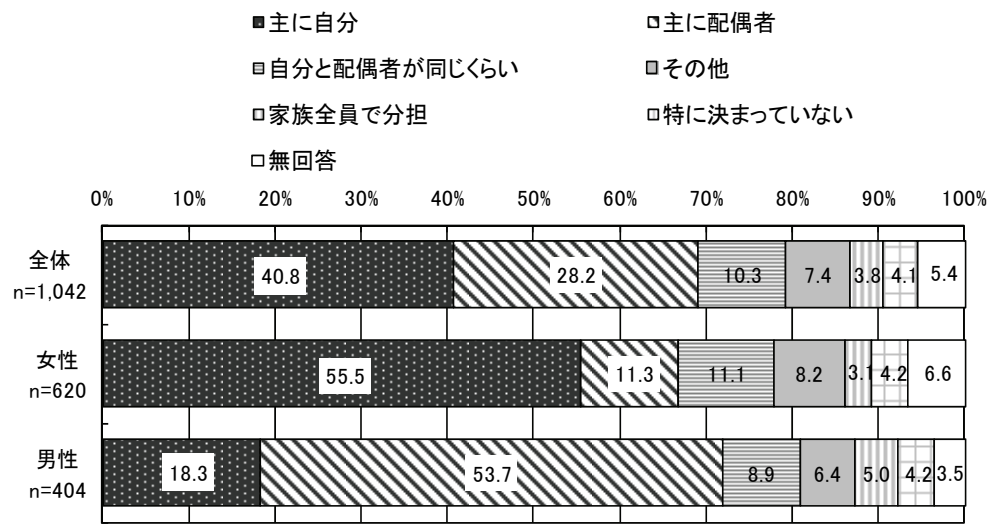
一方、「子どもの教育方針の決定」については、男女ともに「自分と配偶者が同じくらい」との回答が多くなっており、「家庭の問題における最終的な決定」については、女性では「主に配偶者」、男性では「主に自分」の割合が高く、男性が中心となっていることがうかがえる。「地区の行事などの地域活動」については、男女とも「主に自分」が最も高い。



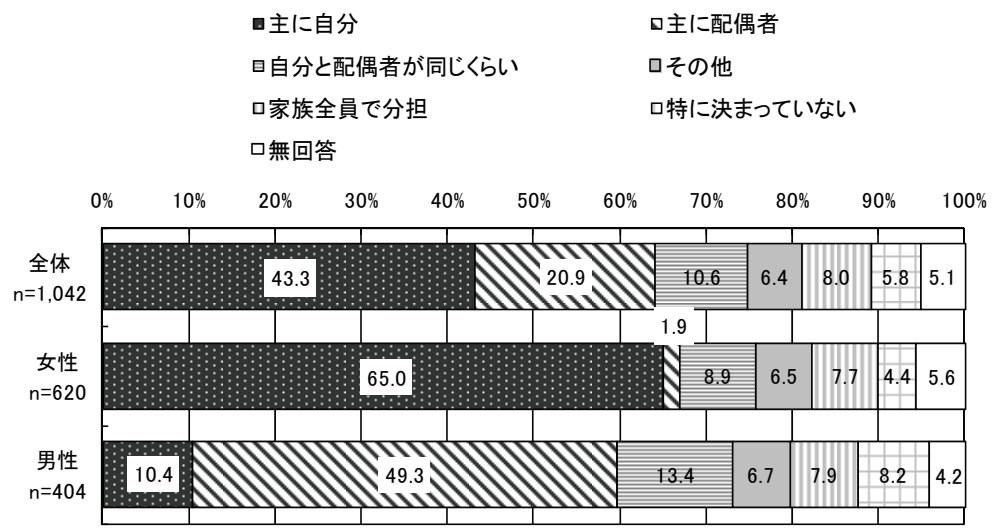
○家計を支えるための収入を得る



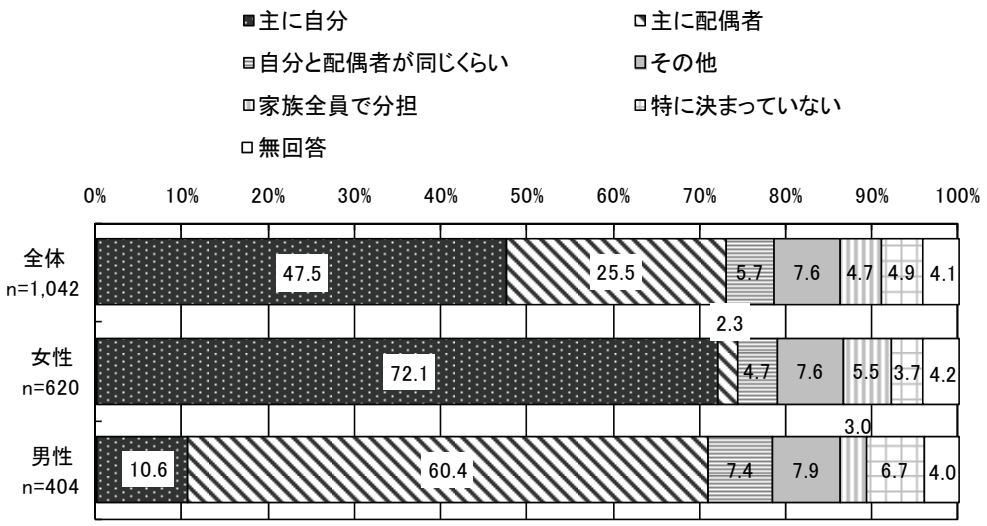
○家計の管理



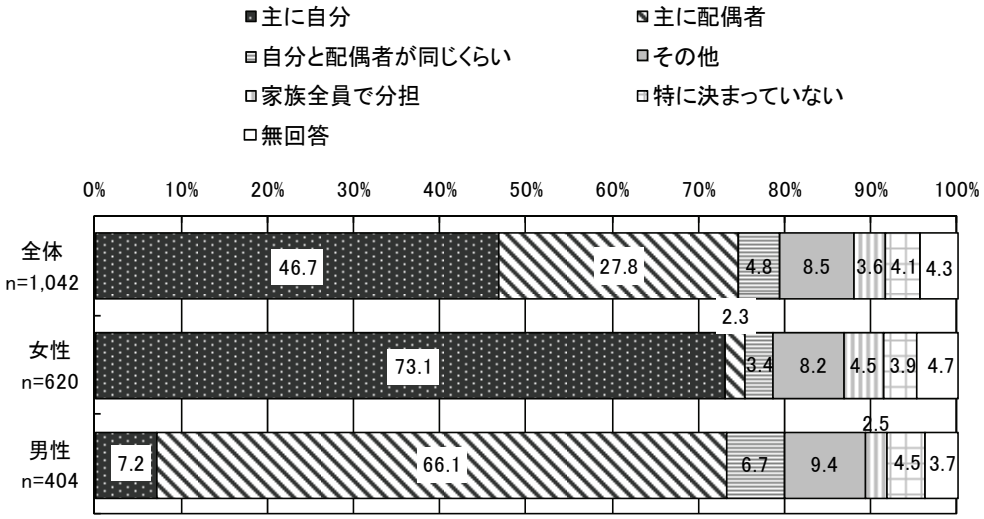
○掃除



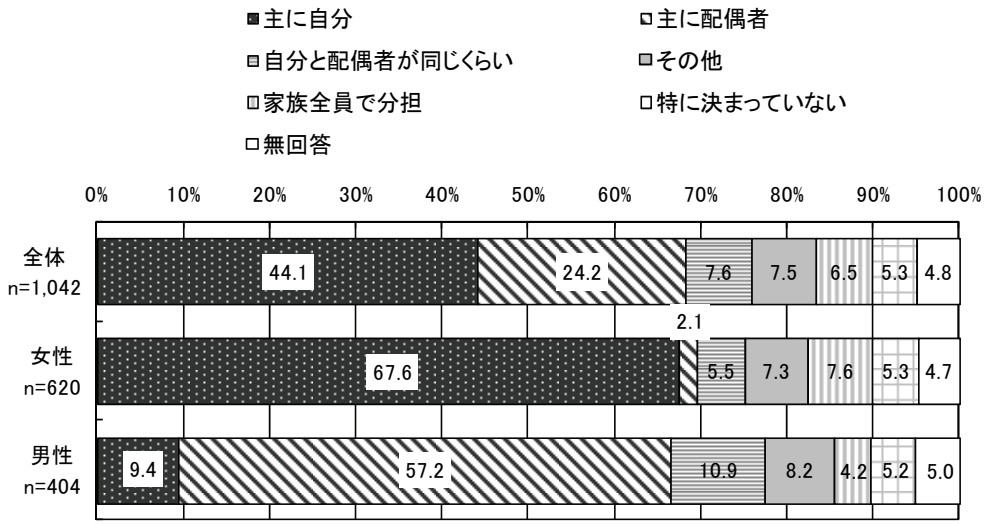
○洗濯



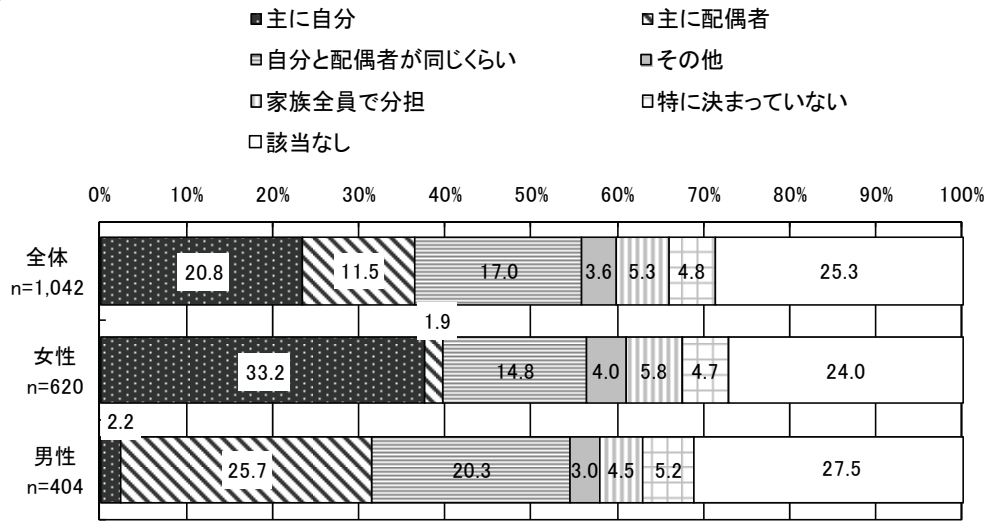
○食事の準備



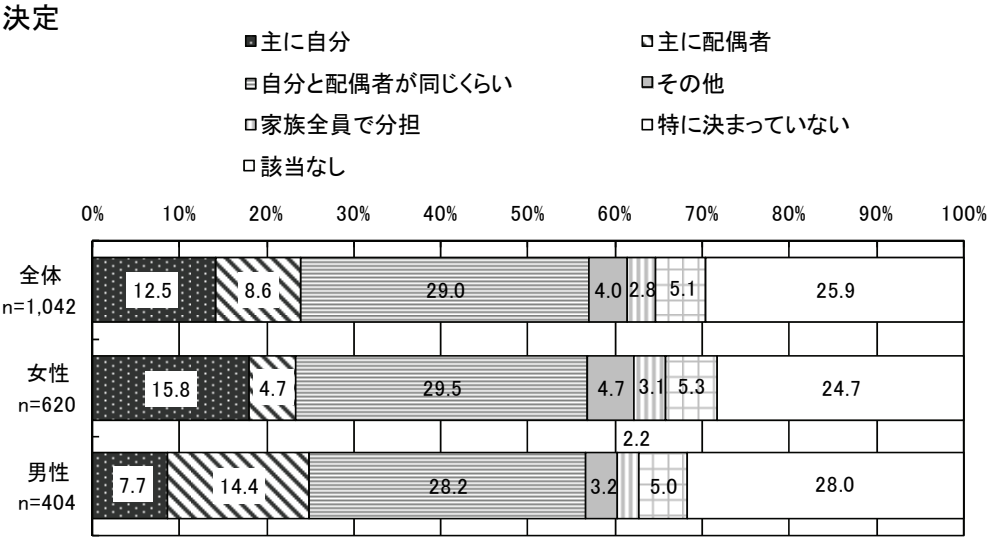
○食事のあとかたづけ



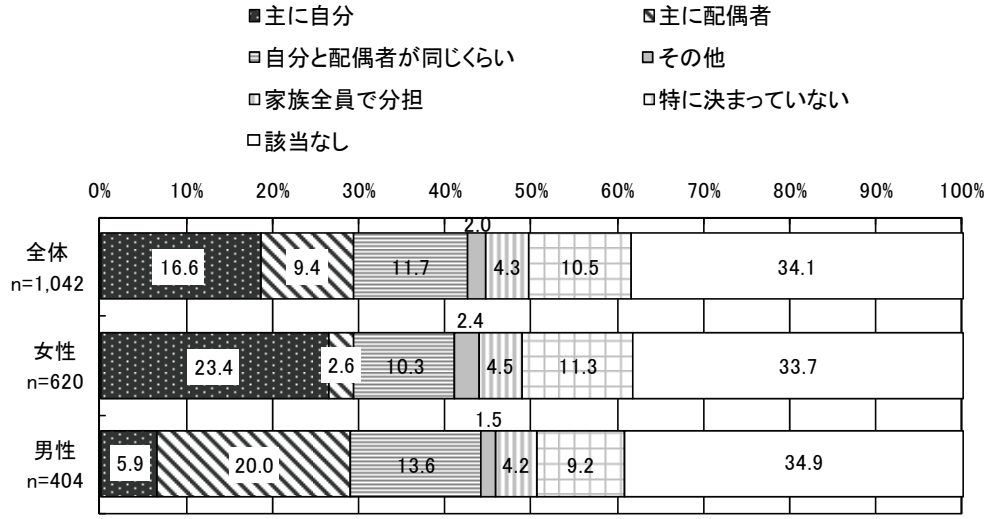
○育児、子どものしつけ



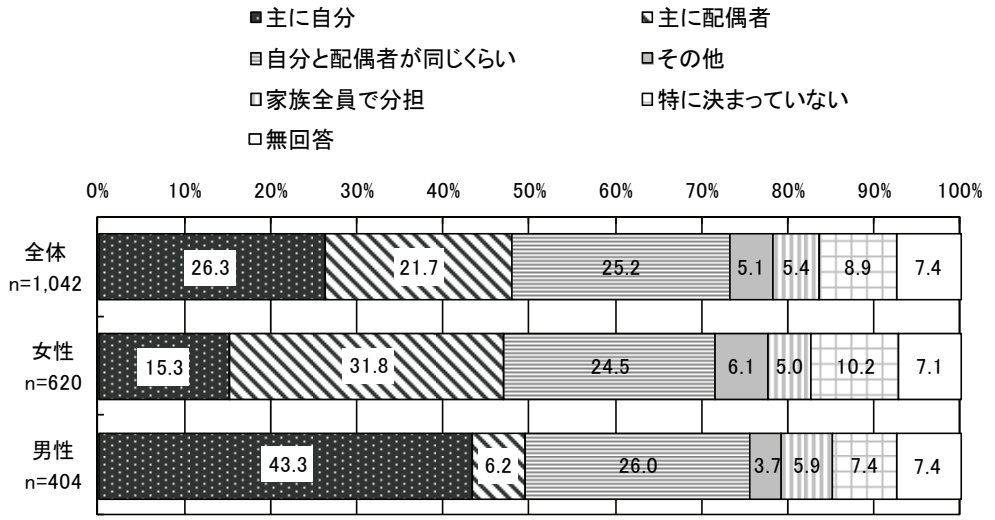
○子どもの教育方針の決定



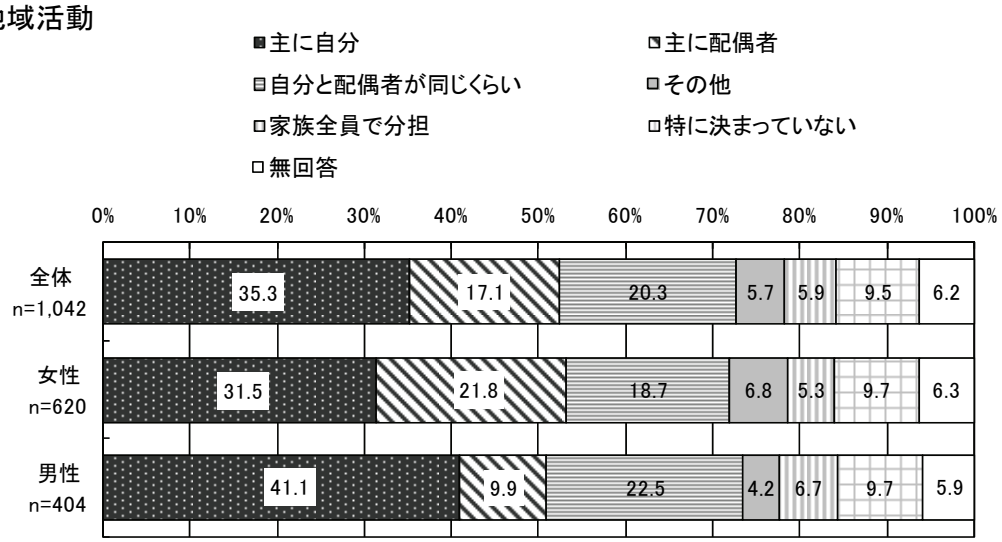
○親の世話(介護)



○家庭の問題における最終的な決定



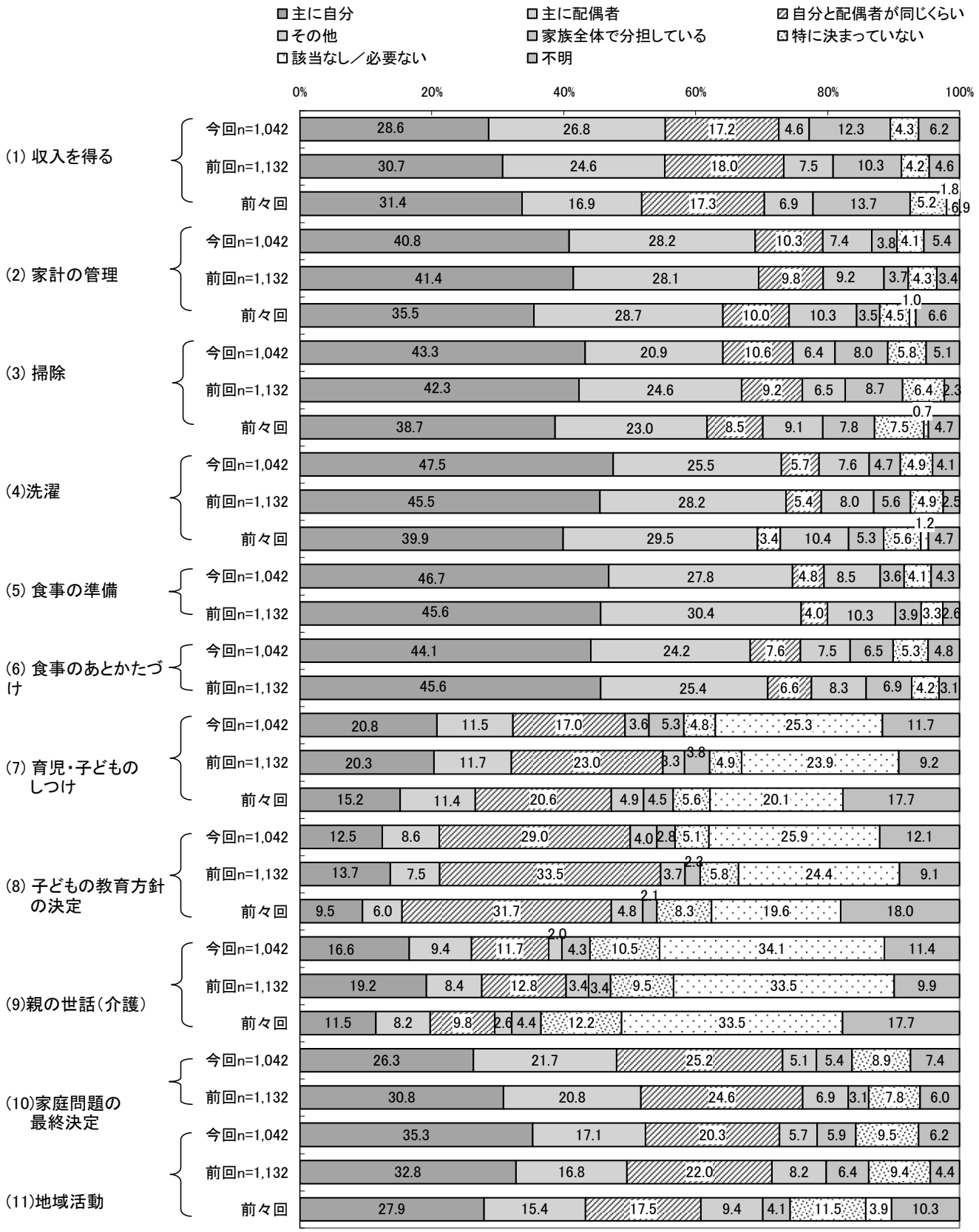
○地区の行事などの地域活動



【前回調査との比較】

〇平成 17 年度及び平成 22 年度　宇城市男女共同参画市民意識調査

今回の調査とは一部選択肢が異なっているが、全体の傾向はほぼ同じである。特に前回の平成 22 年度の結果と比べほぼ同様の傾向となっている。

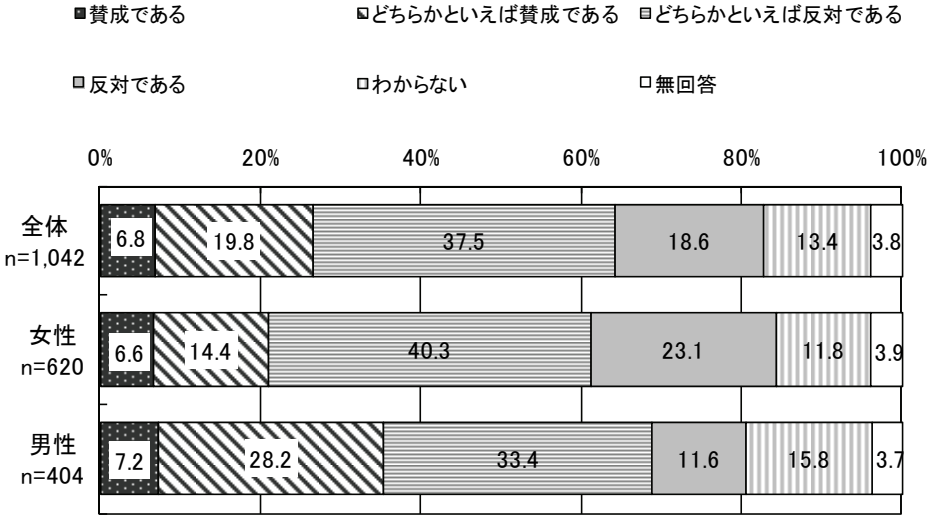


(2)性別による固定的役割分担の考え方について

問5　あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○は1つ)

全体での結果をみると、「どちらかといえば反対である」の 37.5%が最も多く、これに「どちらかといえば賛成である」の 19.8%、「反対である」の 18.6%が続いている。「反対である」と「どちらかといえば反対である」を合わせた『反対』は 56.1%と過半数を超えており、「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」を合わせた『賛成』は 26.6%となっている。

性別にみると、男女いずれも『反対』(女性 63.4%、男性 45.0%)が多くなっているが、男性に比べ女性でその割合が高くなっている。



【性・年代別】

性・年代別にみると、70 歳代以上の男性を除き男女いずれの年代でも『反対』が多い。

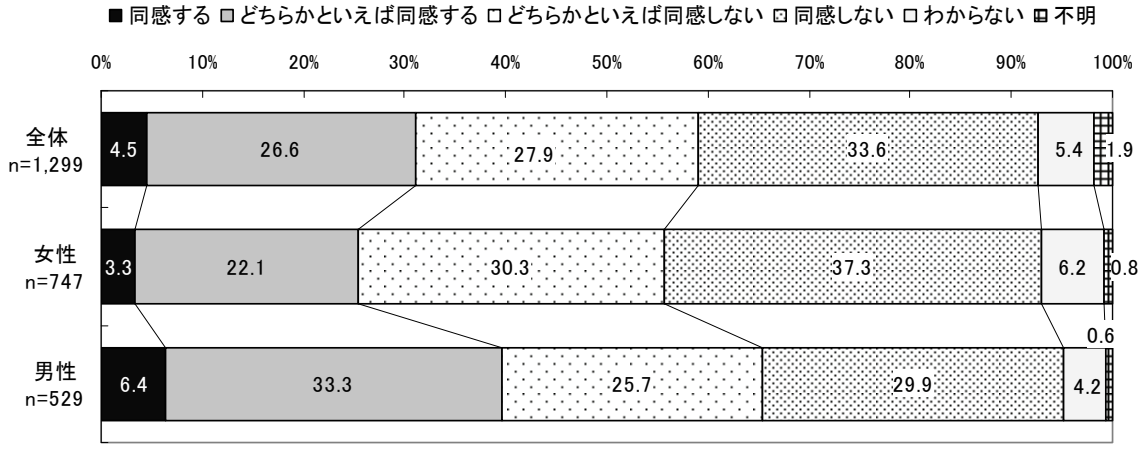
		合計	賛成である	どちらかといえば賛成である	どちらかといえば反対である	反対である	わからない	無回答
全体		1,042	6.8%	19.8%	37.5%	18.6%	13.4%	3.8%
■性年代別								
女性	20歳代	44	2.3%	11.4%	38.6%	25.0%	20.5%	2.3%
	30歳代	67	3.0%	7.5%	35.8%	32.8%	14.9%	6.0%
	40歳代	79	2.5%	8.9%	40.5%	36.7%	10.1%	1.3%
	50歳代	109	3.7%	8.3%	48.6%	20.2%	14.7%	4.6%
	60歳代	142	5.6%	14.1%	45.8%	23.9%	7.0%	3.5%
	70歳代	122	13.1%	26.2%	37.7%	11.5%	7.4%	4.1%
	80歳以上	56	14.3%	19.6%	23.2%	17.9%	19.6%	5.4%
男性	20歳代	29	10.3%	27.6%	27.6%	10.3%	20.7%	3.4%
	30歳代	33	0.0%	9.1%	36.4%	24.2%	24.2%	6.1%
	40歳代	39	2.6%	12.8%	43.6%	25.6%	12.8%	2.6%
	50歳代	66	3.0%	28.8%	33.3%	15.2%	16.7%	3.0%
	60歳代	103	7.8%	30.1%	35.0%	8.7%	14.6%	3.9%
	70歳代	90	7.8%	36.7%	31.1%	5.6%	15.6%	3.3%
	80歳以上	44	18.2%	34.1%	25.0%	4.5%	13.6%	4.5%
無回答		19	5.3%	15.8%	36.8%	26.3%	10.5%	5.3%

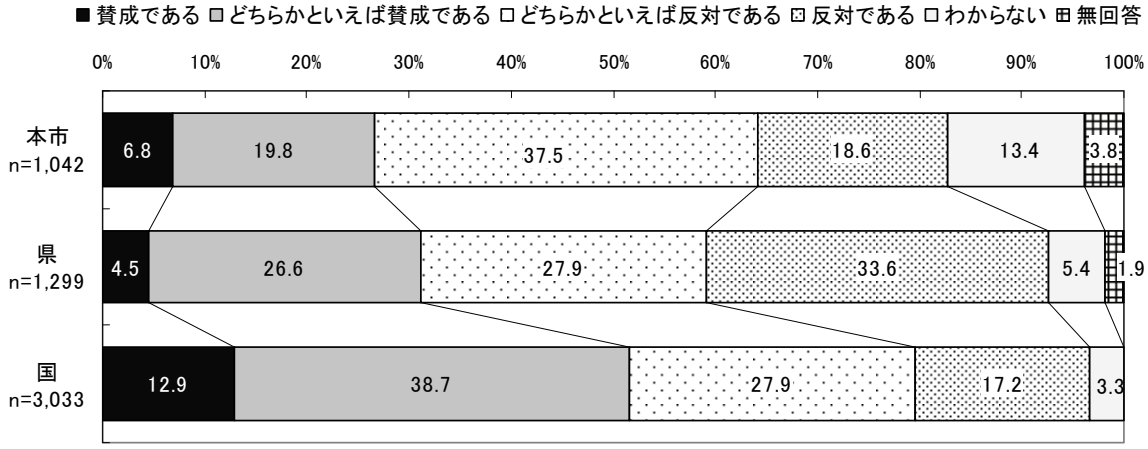
【国・県調査との比較】

○平成 26 年度　男女共同参画に関する県民意識調査（熊本県）

男女いずれも『反対』の割合が多いのは共通であるが、本市では男女ともに「どちらかといえば同感しない（反対である）」というやや消極的な反対意見が多かったのに対し、県の結果では、女性で積極的な反対意見が多く、男性では消極的ながら賛成する意見の割合が高くなっている。また、本市の場合は「わからない」の割合が県や国と比べて高い。

国の結果は本市や県と比べて『賛成』の割合が高くなっている。

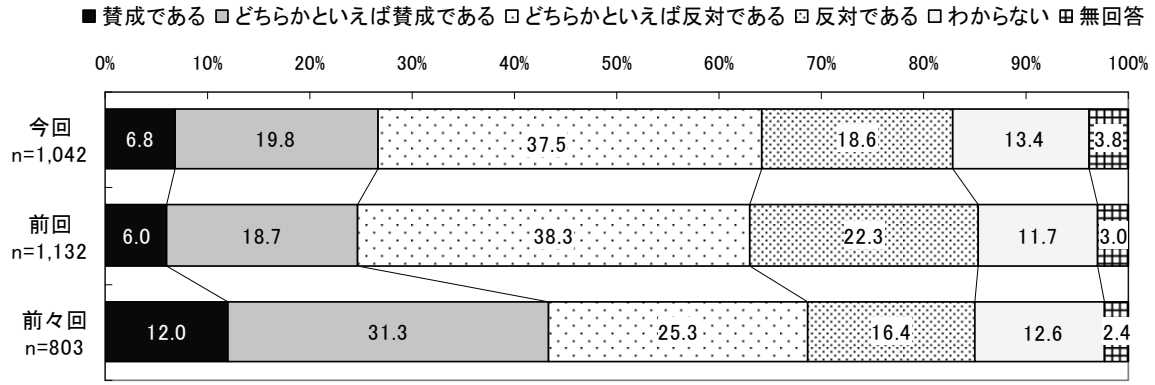




【前回調査との比較】

○平成 17 年度及び平成 22 年度　宇城市男女共同参画市民意識調査

今回の調査では、『賛成』は 26.6%、『反対』は 56.1%と過半数を占めている。前々回と比べ反対意見が多くなっているが、前回と比べると、『反対』がやや減少している。

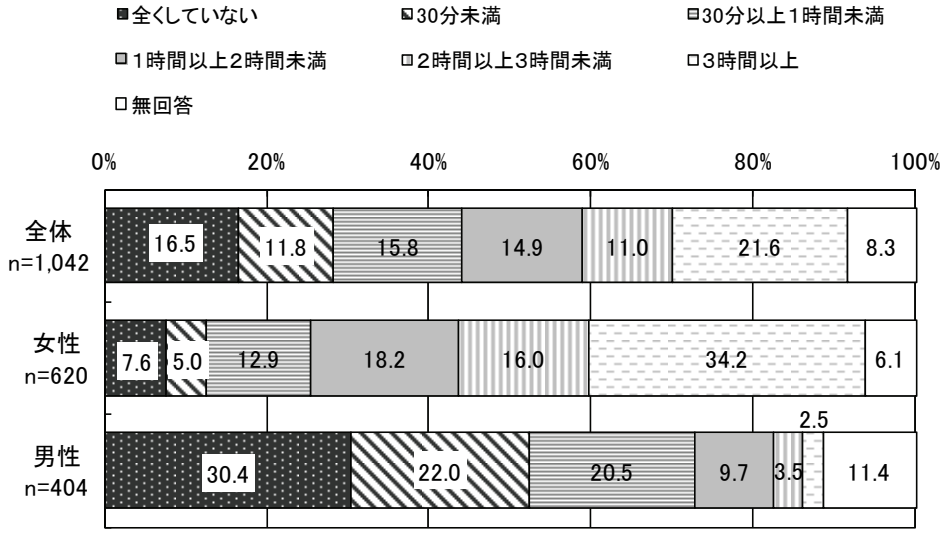


(3)家事に費やす時間

問6　あなたが家事(育児・介護を含む)に費やす時間は1日どれくらいですか。次のA・Bについて、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

①「A 平日」

平日の家事(育児・介護を含む)に費やす時間をみると、全体では「3時間以上」(21.6%)が最も多く、これに「全くしていない」の 16.5%、「30 分以上 1 時間未満」の 15.8%が続いている。



【性別】

性別にみると、女性は「3時間以上」(34.2%)が最も多いのに対し、男性では「全くしていない」が 30.4%で最も多くなっている。

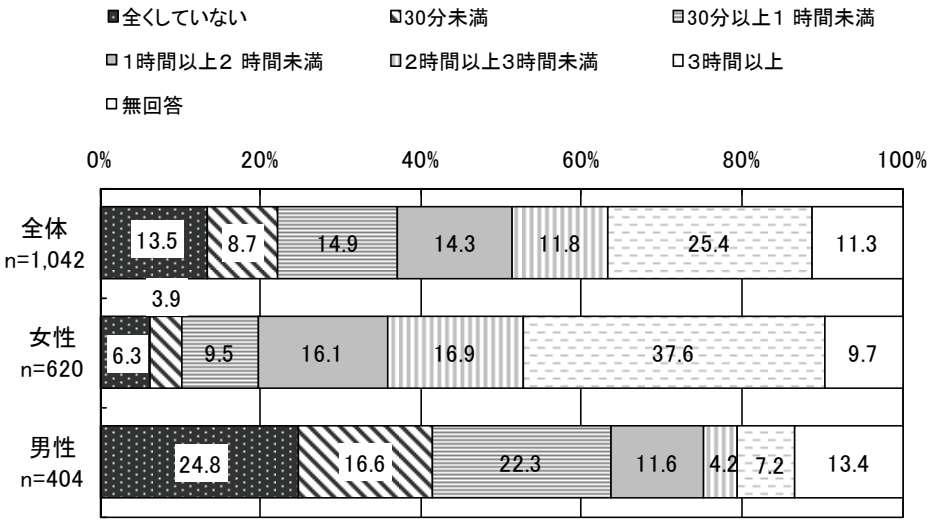
【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は 20 歳代と 80 歳以上を除くいずれの年代でも「3時間以上」との回答が最も多い。男性では、20 歳代と 50 歳代を除くすべての年代で「全くしていない」(40 歳代は「30 分未満」と同率)との回答が最も多くなっている。

			全くしていない	30分未満	1時間30分以上	2時間1時間未満	3時間2時間未満	3時間以上	無回答
全体		1,042	16.5%	11.8%	15.8%	14.9%	11.0%	21.6%	8.3%
■性年代別									
女性	20歳代	44	27.3%	20.5%	29.5%	6.8%	2.3%	13.6%	0.0%
	30歳代	67	3.0%	4.5%	13.4%	4.5%	13.4%	58.2%	3.0%
	40歳代	79	6.3%	2.5%	2.5%	19.0%	15.2%	51.9%	2.5%
	50歳代	109	2.8%	5.5%	12.8%	22.9%	20.2%	32.1%	3.7%
	60歳代	142	4.9%	0.0%	12.7%	23.9%	17.6%	36.6%	4.2%
	70歳代	122	9.8%	6.6%	12.3%	17.2%	20.5%	21.3%	12.3%
	80歳以上	56	10.7%	5.4%	16.1%	23.2%	8.9%	21.4%	14.3%
男性	20歳代	29	17.2%	24.1%	24.1%	17.2%	3.4%	0.0%	13.8%
	30歳代	33	42.4%	27.3%	12.1%	3.0%	9.1%	0.0%	6.1%
	40歳代	39	25.6%	25.6%	17.9%	17.9%	5.1%	5.1%	2.6%
	50歳代	66	30.3%	34.8%	22.7%	6.1%	0.0%	1.5%	4.5%
	60歳代	103	32.0%	19.4%	22.3%	8.7%	1.9%	2.9%	12.6%
	70歳代	90	33.3%	17.8%	17.8%	6.7%	5.6%	2.2%	16.7%
	80歳以上	44	27.3%	9.1%	25.0%	13.6%	2.3%	4.5%	18.2%
無回答		19	5.3%	15.8%	10.5%	15.8%	10.5%	21.1%	21.1%

②「B 休日」

休日については、全体で「3時間以上」(25.4%)が最も多く、これに「30 分以上 1 時間未満」の 14.9%、「1 時間以上 2 時間未満」の 14.3%が続いている。「全くしていない」は 13.5%。



【性別】

性別にみると、女性は「3時間以上」(37.6%)が最も多いのに対し、男性では「全くしていない」(24.8%)が最も多いほか、これに「30 分以上 1 時間未満」(22.3%)、「30 分未満」(16.6%)が続いており、女性に比べ短い時間となっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は 20 歳代と 80 歳以上を除くいずれの年代でも「3時間以上」との回答が最も多い。男性では、40 歳代で「3時間以上」が「30 分以上 1 時間未満」と同率で最も多くなっている。他の年代では「30 分以上 1 時間未満」「30 分未満」「全くしていない」のいずれかが最も多くなっており、平日に比べるとやや多いものの、女性に比べ家事・育児に携わる時間が短くなっている。

			全くしていない	30分未満	1時間30分未満	2時間以上	3時間以上	3時間以上	無回答
全体		1,042	13.5%	8.7%	14.9%	14.3%	11.8%	25.4%	11.3%
■性年代別									
女性	20歳代	44	25.0%	18.2%	22.7%	13.6%	2.3%	18.2%	0.0%
	30歳代	67	1.5%	1.5%	6.0%	10.4%	7.5%	68.7%	4.5%
	40歳代	79	5.1%	2.5%	2.5%	6.3%	16.5%	64.6%	2.5%
	50歳代	109	1.8%	1.8%	4.6%	19.3%	22.9%	43.1%	6.4%
	60歳代	142	3.5%	0.7%	9.9%	20.4%	23.9%	31.0%	10.6%
	70歳代	122	9.0%	4.9%	14.8%	17.2%	17.2%	21.3%	15.6%
	80歳以上	56	8.9%	7.1%	10.7%	19.6%	10.7%	19.6%	23.2%
男性	20歳代	29	20.7%	13.8%	27.6%	10.3%	3.4%	10.3%	13.8%
	30歳代	33	21.2%	27.3%	18.2%	15.2%	3.0%	9.1%	6.1%
	40歳代	39	15.4%	10.3%	23.1%	15.4%	7.7%	23.1%	5.1%
	50歳代	66	16.7%	30.3%	22.7%	21.2%	0.0%	4.5%	4.5%
	60歳代	103	29.1%	15.5%	22.3%	5.8%	5.8%	5.8%	15.5%
	70歳代	90	34.4%	11.1%	21.1%	7.8%	5.6%	2.2%	17.8%
	80歳以上	44	20.5%	9.1%	25.0%	13.6%	2.3%	4.5%	25.0%
無回答		19	10.5%	0.0%	26.3%	10.5%	5.3%	21.1%	26.3%

4．子育て・教育について

（1）子どもの数が減少傾向にある理由

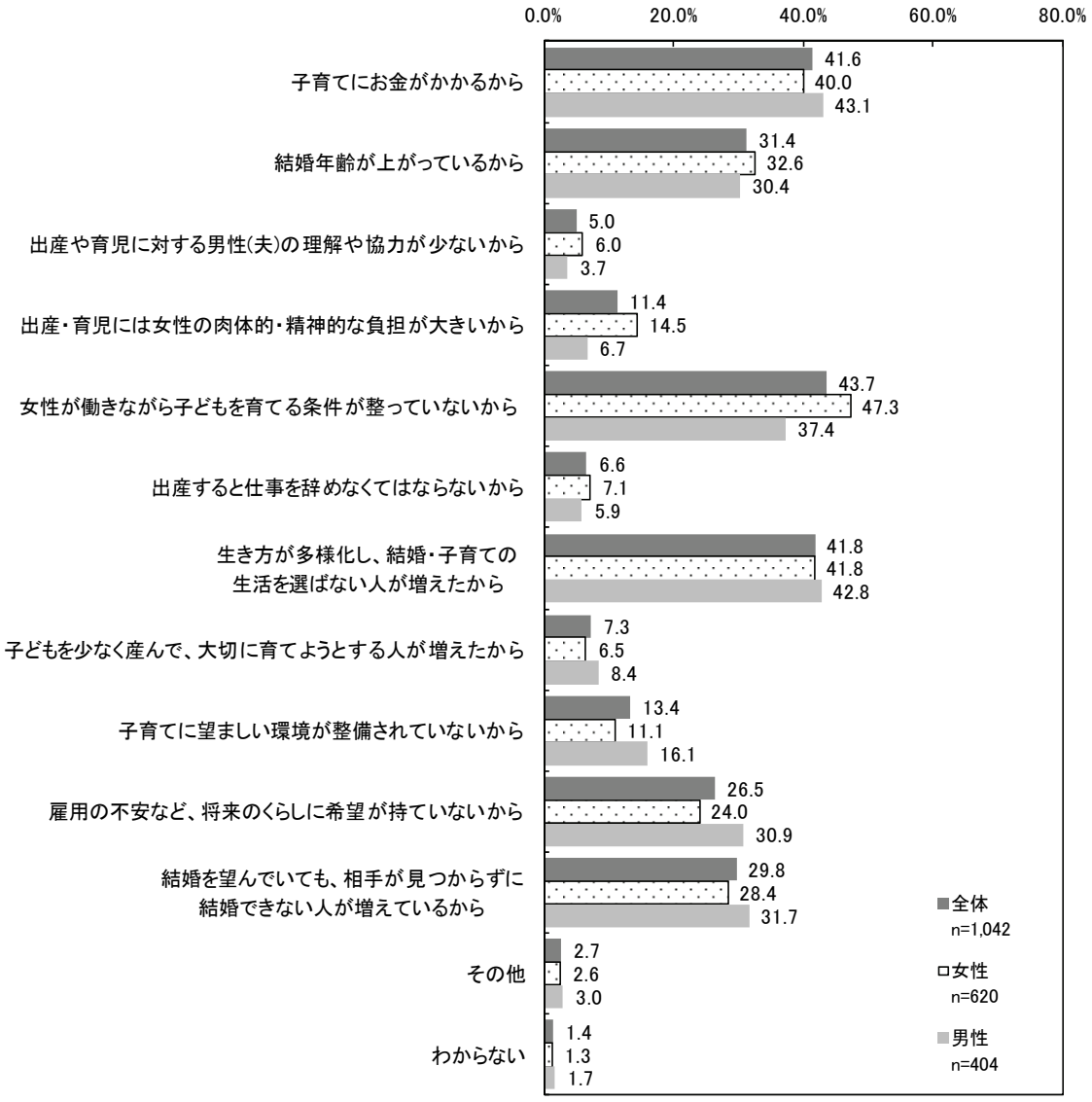
問7　最近、子どもの数が減少傾向にありますが、その理由は何だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○は3つまで）

子どもの数が減少傾向にある理由をあげてもらった。

全体の結果は「女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないからから」（43.7％）が最も多く、次いで「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」（41.8％）、「子育てにお金がかかるから」（41.6％）、「結婚年齢が上がっているから」（31.4％）、「結婚を望んでも、相手が見つからずに結婚できない人が増えているから」（29.8％）、「雇用の不安など、将来のくらしに希望が持てないから」（26.5％）が続いている。

【性別】

性別にみると、「女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないからから」では男性に比べ女性の割合が高く、男性では「雇用の不安など、将来のくらしに希望が持てないから」の割合が高くなっている。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では 20 歳代から 60 歳代で「女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」との回答が多く、20 歳代と 80 歳以上では「子育てにお金がかかるから」、50 歳代では「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」との回答が多くなっている。男性では、20 歳代と 30 歳代で「子育てにお金がかかるから」、20 歳代から 60 歳代で「雇用の不安など、将来のくらしに希望が持てないから」との回答が多く、40 歳代と 50 歳代では「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」との回答が多くなっている。

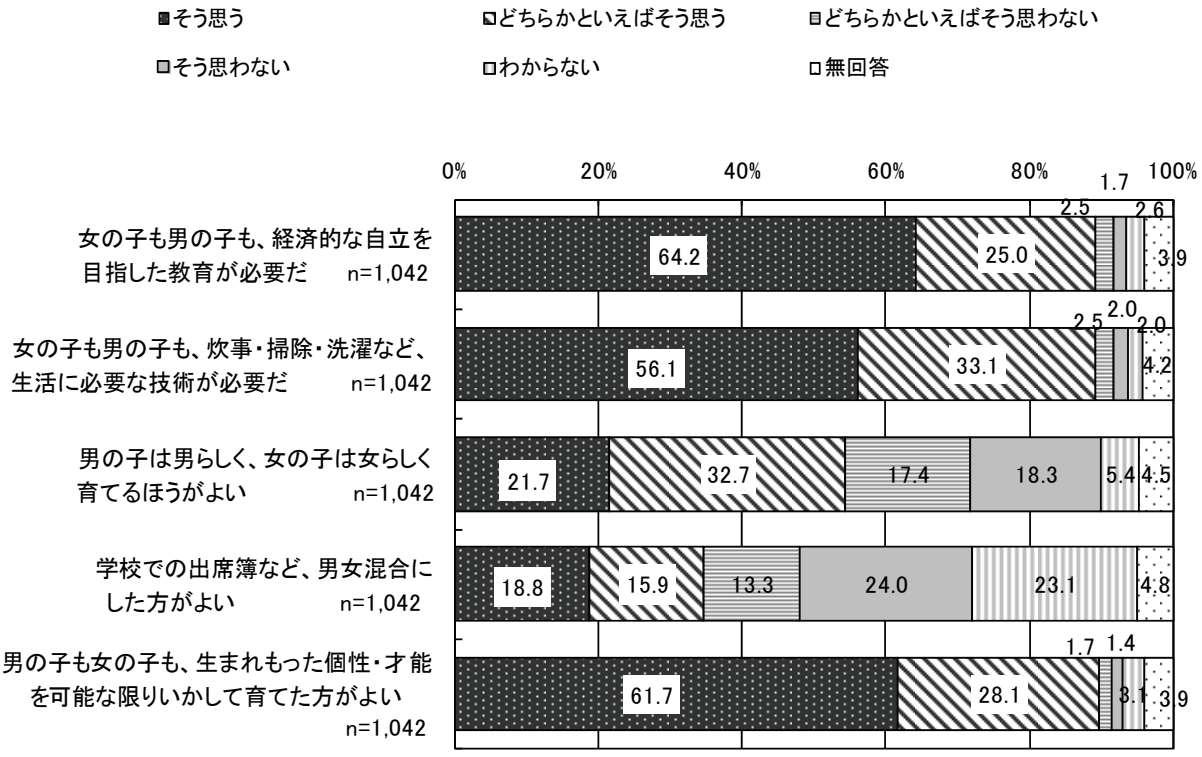
		合計	子育てにお金がかかるから	結婚年齢が上がっているから	出産や育児に対する男性（夫）の理解や協力が少ないから	出産・育児には女性の肉体的・精神的な負担が大きいから	女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないから	出産すると仕事を辞めなくてはならないから	生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから	子どもを少なく産んで、大切に育てようとする人が増えたから	子育てに望ましい環境が整備されていないから	雇用の不安など、将来のくらしに希望が持てないから	結婚を望んでいても、相手が見つからずに結婚できない人が増えているから	その他	わからない
全体		1,042	41.6%	31.4%	5.0%	11.4%	43.7%	6.6%	41.8%	7.3%	13.4%	26.5%	29.8%	2.7%	1.4%
■性年代別															
女性	20歳代	44	52.3%	25.0%	11.4%	11.4%	52.3%	4.5%	47.7%	2.3%	27.3%	22.7%	15.9%	2.3%	0.0%
	30歳代	67	44.8%	37.3%	11.9%	17.9%	58.2%	6.0%	37.3%	6.0%	10.4%	23.9%	19.4%	3.0%	0.0%
	40歳代	79	46.8%	41.8%	3.8%	15.2%	55.7%	8.9%	39.2%	5.1%	11.4%	17.7%	15.2%	6.3%	1.3%
	50歳代	109	39.4%	30.3%	3.7%	16.5%	56.0%	6.4%	52.3%	5.5%	8.3%	27.5%	22.9%	4.6%	0.0%
	60歳代	142	34.5%	29.6%	5.6%	14.8%	50.7%	4.9%	44.4%	3.5%	13.4%	31.7%	33.8%	0.7%	2.1%
	70歳代	122	32.0%	33.6%	5.7%	13.1%	30.3%	9.8%	44.3%	9.0%	6.6%	20.5%	40.2%	1.6%	3.3%
	80歳以上	56	48.2%	30.4%	3.6%	10.7%	28.6%	8.9%	16.1%	16.1%	8.9%	14.3%	37.5%	0.0%	0.0%
男性	20歳代	29	69.0%	27.6%	6.9%	6.9%	31.0%	10.3%	37.9%	3.4%	10.3%	31.0%	27.6%	6.9%	0.0%
	30歳代	33	54.5%	27.3%	6.1%	6.1%	42.4%	3.0%	36.4%	0.0%	21.2%	36.4%	21.2%	3.0%	3.0%
	40歳代	39	41.0%	38.5%	5.1%	5.1%	30.8%	5.1%	61.5%	2.6%	15.4%	43.6%	25.6%	2.6%	2.6%
	50歳代	66	48.5%	34.8%	3.0%	3.0%	42.4%	1.5%	51.5%	3.0%	19.7%	33.3%	27.3%	4.5%	0.0%
	60歳代	103	35.9%	30.1%	4.9%	3.9%	42.7%	3.9%	38.8%	10.7%	18.4%	35.0%	37.9%	1.9%	1.0%
	70歳代	90	40.0%	22.2%	2.2%	11.1%	33.3%	6.7%	40.0%	12.2%	17.8%	24.4%	30.0%	2.2%	2.2%
	80歳以上	44	34.1%	36.4%	0.0%	11.4%	34.1%	15.9%	34.1%	18.2%	4.5%	15.9%	43.2%	2.3%	4.5%
無回答		19	57.9%	15.8%	0.0%	10.5%	57.9%	5.3%	21.1%	10.5%	26.3%	15.8%	36.8%	0.0%	0.0%

(2)子どものしつけや教育について

問8　あなたは、子どものしつけや教育について、どのように思いますか。(1)～(5)のそれぞれについて、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)。
※子どもがいない方、またすでに養育が終了している方も、仮に「子どもをもつとしたら」として、お答えください。

子どものしつけや教育に関する5項目の意識をみると、「女の子も男の子も、経済的な自立を目指した教育が必要」「女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術が必要」「男の子も女の子も、生まれ持った個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい」に関しては8割以上が『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)となっている。「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」については『そう思う』が 54.4%を占めているが、『そう思わない』も 35.7%となっている。

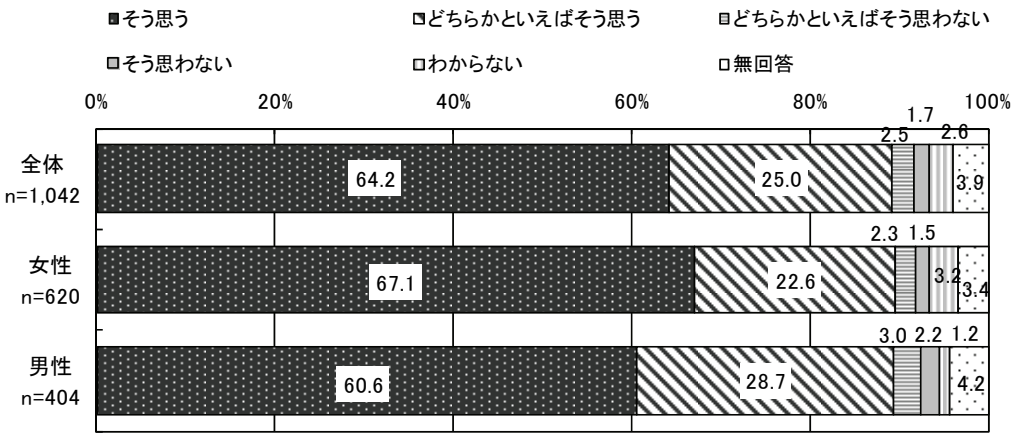
一方、「学校での出席簿など、男女混合にした方がよい」は、『そう思う』が 34.7%、『そう思わない』が 37.3%と、賛否がほぼ同率となっている。



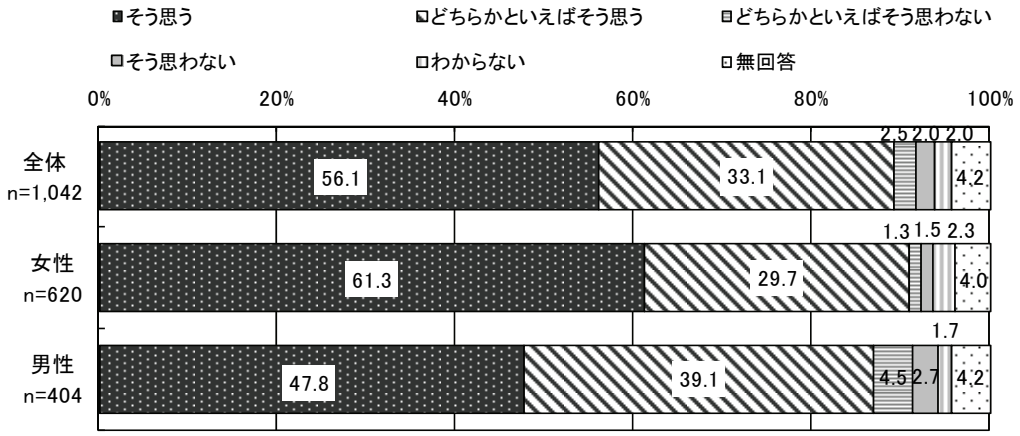
【性別】

性別にみると、ほぼ全体と同様の傾向にあるが、「女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術が必要」では、男性に比べ、女性の「そう思う」との回答割合が高くなっている(女性 61.3%、男性 47.8%)、一方、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」に関しては、男性の「そう思う」が 30.0%と高く、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(肯定的な意識)』が 66.9%を占めるが、女性は 46.3%と低くなっている。

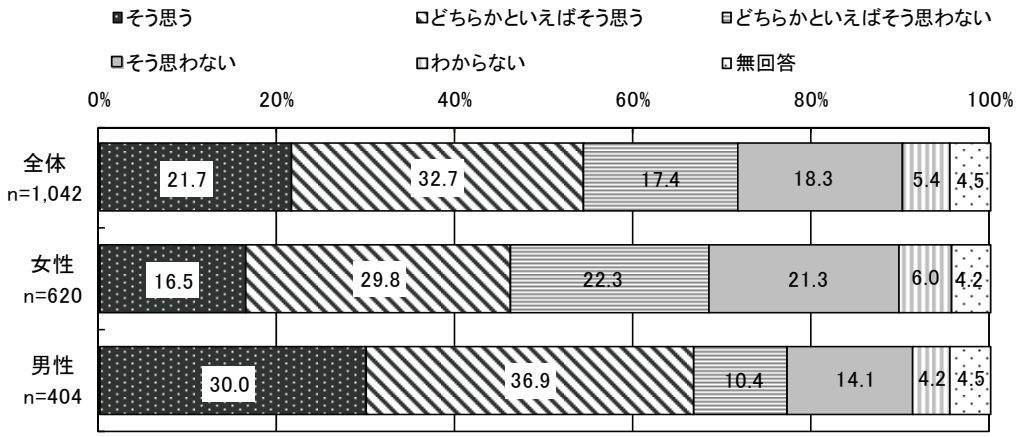
○女の子も男の子も、経済的な自立を目指した教育が必要だ



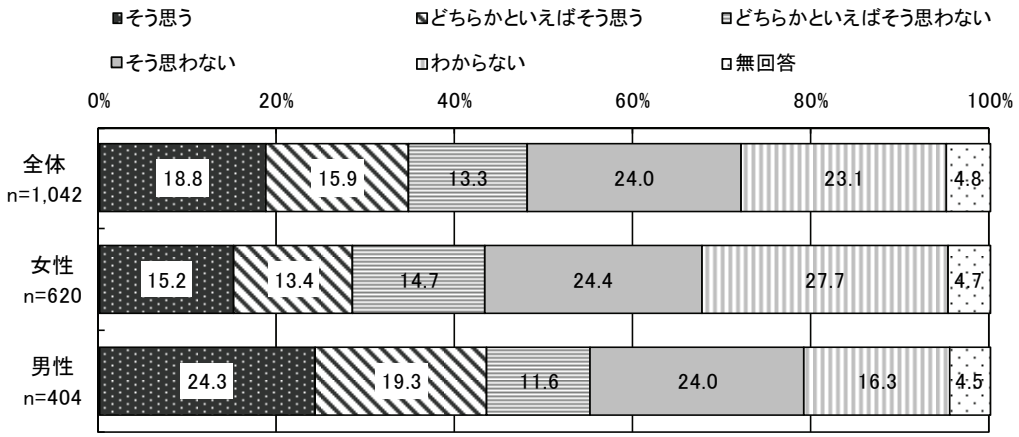
○女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術が必要だ



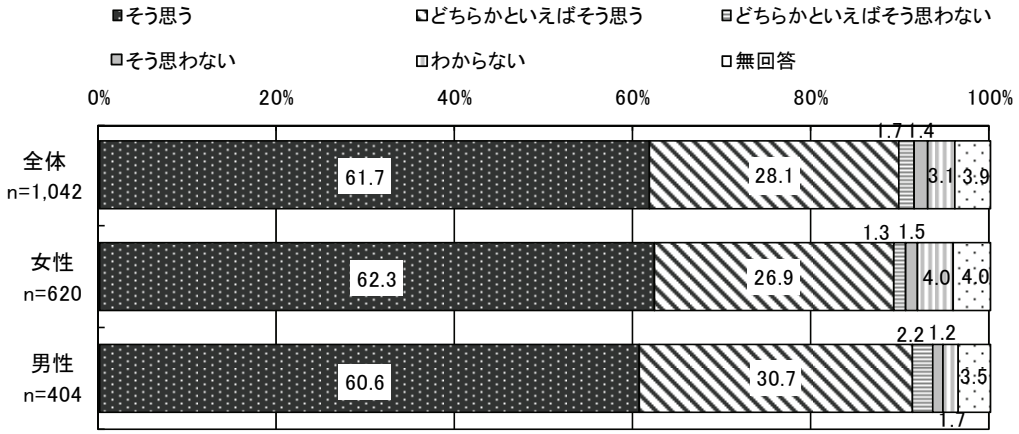
○男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい



○学校での出席簿など、男女混合にした方がよい



○男の子も女の子も、生まれもった個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい

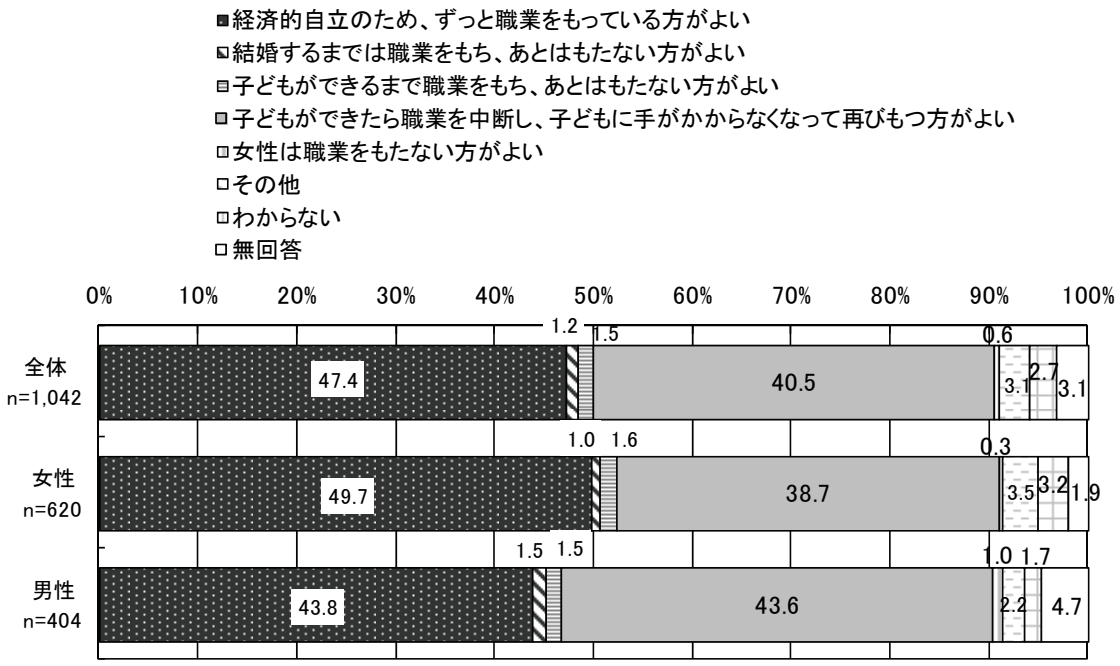


５．女性の社会参画について

（1）女性が仕事を持つことについて

問9　あなたは、女性が職業を持つことについて、どう思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○は1つ）

全体では、「経済的自立のため、ずっと職業をもっていた方がよい」（47.4%）との回答が最も多く、次いで「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」（40.5%）がこれに続いている。



【性別】

性別にみても、ほぼ同様の傾向がみられる。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の 20 歳代から 50 歳代までは「経済的自立のため、ずっと職業をもっている方がよい」との回答が多く、60 歳代と 70 歳代では、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」との回答が多くなっている。男性では 30 歳代、60 歳代、70 歳代で「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」との回答がやや多くなっている。

【本人の職業別】

本人の職業別にみると、自営業主と家族従事者では「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」との回答が他の職業層よりも多くなっている。正規雇用者では、「経済的自立のため、ずっと職業をもっている方がよい」との回答が他の職業層と比べて多くなっている。

		合計	経済的自立のため、ずっと職業をもっている方がよい	結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい	子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい	子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい	女性は職業をもたない方がよい	その他	わからない	無回答
全体		1,042	47.4%	1.2%	1.5%	40.5%	0.6%	3.1%	2.7%	3.1%
■性年代別										
女性	20歳代	44	38.6%	0.0%	0.0%	43.2%	0.0%	9.1%	6.8%	2.3%
	30歳代	67	71.6%	1.5%	0.0%	20.9%	0.0%	3.0%	3.0%	0.0%
	40歳代	79	53.2%	0.0%	0.0%	35.4%	1.3%	6.3%	2.5%	1.3%
	50歳代	109	58.7%	0.0%	0.0%	32.1%	0.0%	5.5%	2.8%	0.9%
	60歳代	142	39.4%	0.0%	2.1%	51.4%	0.7%	2.8%	2.8%	0.7%
	70歳代	122	43.4%	2.5%	0.8%	46.7%	0.0%	0.8%	2.5%	3.3%
	80歳以上	56	50.0%	3.6%	8.9%	25.0%	0.0%	0.0%	5.4%	7.1%
男性	20歳代	29	41.4%	0.0%	6.9%	44.8%	0.0%	3.4%	0.0%	3.4%
	30歳代	33	42.4%	0.0%	0.0%	51.5%	3.0%	0.0%	3.0%	0.0%
	40歳代	39	56.4%	0.0%	0.0%	30.8%	0.0%	5.1%	2.6%	5.1%
	50歳代	66	47.0%	0.0%	0.0%	42.4%	0.0%	4.5%	0.0%	6.1%
	60歳代	103	45.6%	0.0%	0.0%	47.6%	1.9%	2.9%	1.0%	1.0%
	70歳代	90	35.6%	4.4%	2.2%	45.6%	0.0%	0.0%	3.3%	8.9%
	80歳以上	44	40.9%	4.5%	4.5%	38.6%	2.3%	0.0%	2.3%	6.8%
無回答		19	52.6%	0.0%	5.3%	26.3%	0.0%	5.3%	5.3%	5.3%
■本人の職業別										
自営業主		109	41.3%	0.0%	1.8%	45.9%	0.0%	3.7%	1.8%	5.5%
家族従事者		61	29.5%	1.6%	0.0%	60.7%	1.6%	1.6%	3.3%	1.6%
正規雇用者		238	57.1%	0.0%	0.8%	33.6%	0.4%	3.8%	2.1%	2.1%
非正規雇用者		175	49.7%	1.1%	0.0%	40.0%	1.1%	3.4%	3.4%	1.1%
主婦・主夫		183	42.6%	1.6%	2.7%	44.3%	0.5%	3.8%	2.7%	1.6%
学生		12	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無職		235	46.0%	2.6%	2.6%	38.7%	0.4%	2.1%	3.4%	4.3%
その他		13	61.5%	0.0%	0.0%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%
無回答		16	50.0%	0.0%	6.3%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	18.8%

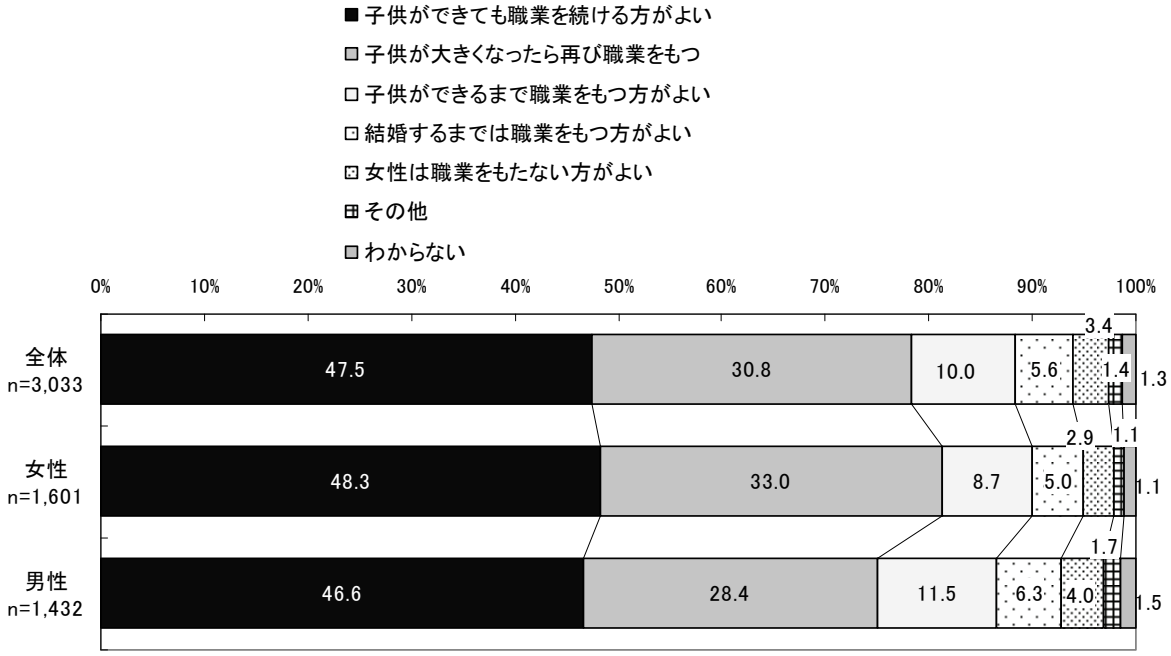
【国・県調査との比較】

○内閣府男女共同参画に関する世論調査（平成 24 年度）

本市の結果では、「子どもができても、ずっと働き続ける方がよい」と、「子どもができたら働くことをやめ、大きくなったら再び働く方がよい」がどちらも 40％台となっている。

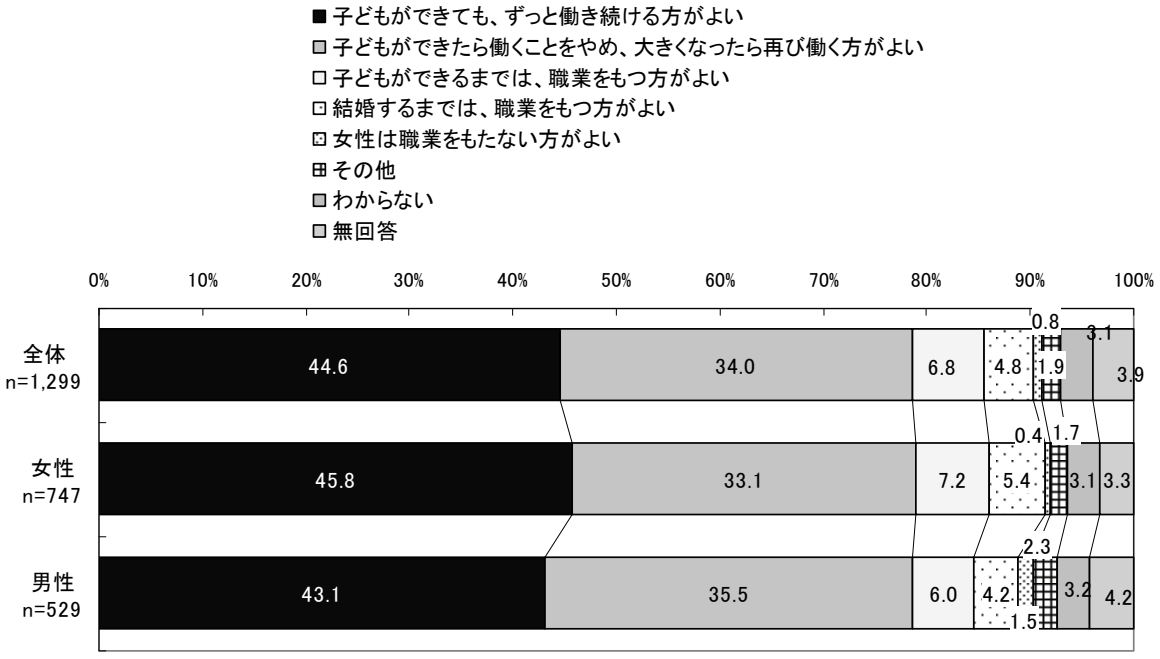
国の結果では「子どもができても、ずっと働き続ける方がよい」は市の結果と同率だが、「子どもができたら働くことをやめ、大きくなったら再び働く方がよい」は 30.8％にとどまっており、その分、「子どもができたら働くことをやめ、そのまま子育てなどに従事する方がよい」が 10.0％となっている。

つまり、市の子どもができても継続して就労することを支持する人の割合は、国の平均程度となっている。



○平成 26 年度　男女共同参画に関する県民意識調査（熊本県）

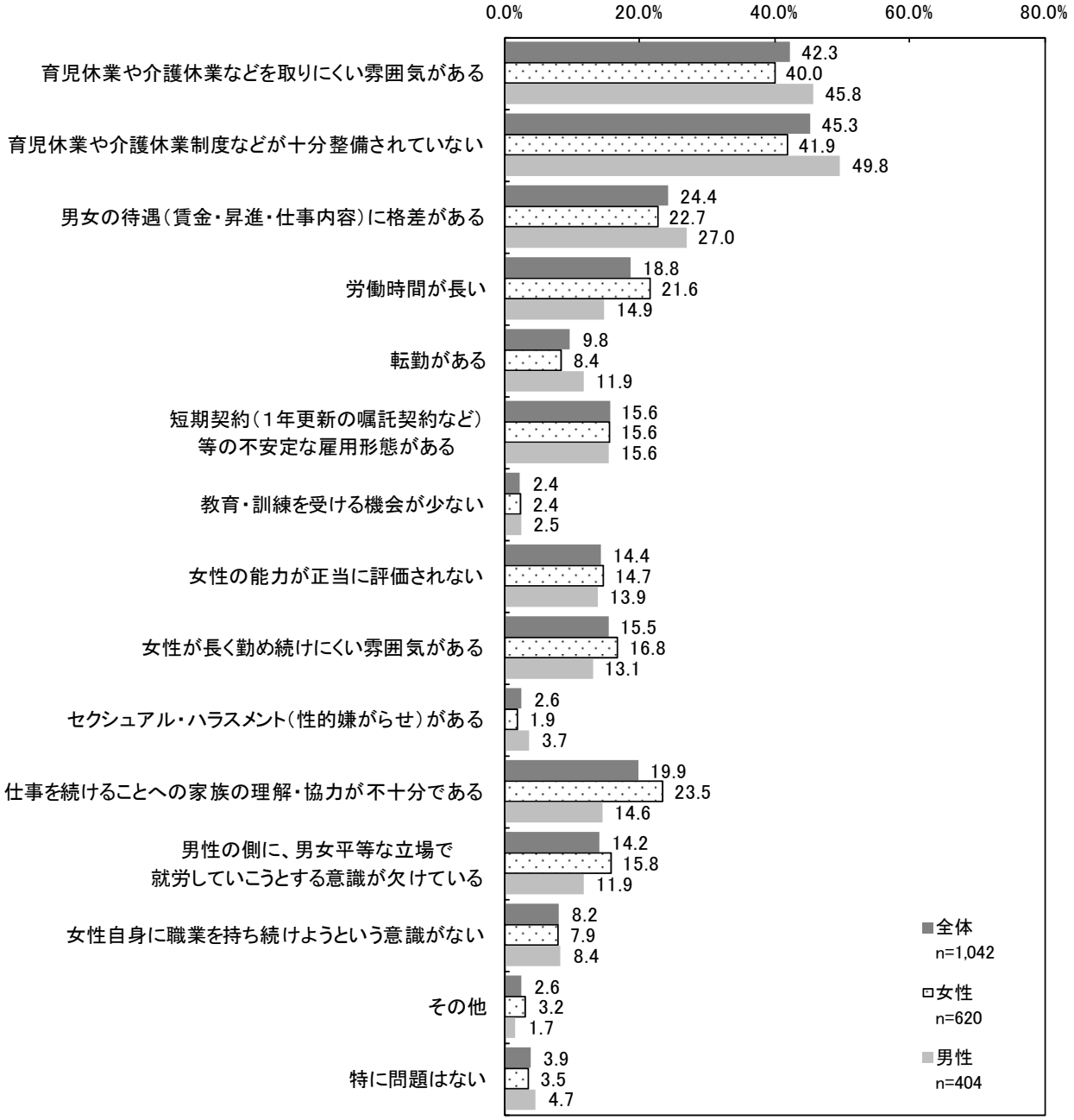
県の結果は、「子どもができても、ずっと働き続ける方がよい」とする割合は本市よりもやや低く、その分、子どもができたり、結婚したら就業をやめた方がよいとする割合が高くなっている。



（2）女性が仕事を持ち続けるうえでの問題

問 10　女性が職業を持ち続けるうえでの問題はどのようなことだと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○は3つまで）

全体では「各種育児・介護支援制度などが十分整備されていない」（45.3%）が最も多く、これに「育児休業や介護休業制度を取りにくい雰囲気がある」（42.3%）が続いており、育児・介護支援制度に関する問題が上位を占めている。以下、「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」（24.4%）、「仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である」（19.9%）、「労働時間が長い」（18.8%）など、就労条件や家族の理解に関する回答が続いている。



【性別】

性別にみると、男女ともに育児・介護支援制度に関する問題が上位に挙げられているが、割合（選択率）は、男性が女性のそれを上回っている。このほか「労働時間が長い」と「仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である」では男性よりも女性の割合が高くなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の 20 歳代と 30 歳代では「育児休業や介護休業制度を取りにくい雰囲気がある」との回答が最も多く、30 歳代から 50 歳代の年齢層では「仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である」での回答が他の年代層よりも多い。一方、男性の 20 歳代と 30 歳代では「育児休業や介護休業制度を取りにくい雰囲気がある」、50 歳代から 70 歳代では「各種育児・介護支援制度などが十分整備されていない」が最も多くなっている。このほか 20 歳代から 50 歳代では、「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」との回答が 60 歳代以上の年代と比べ高くなっている。

【本人の職業別】

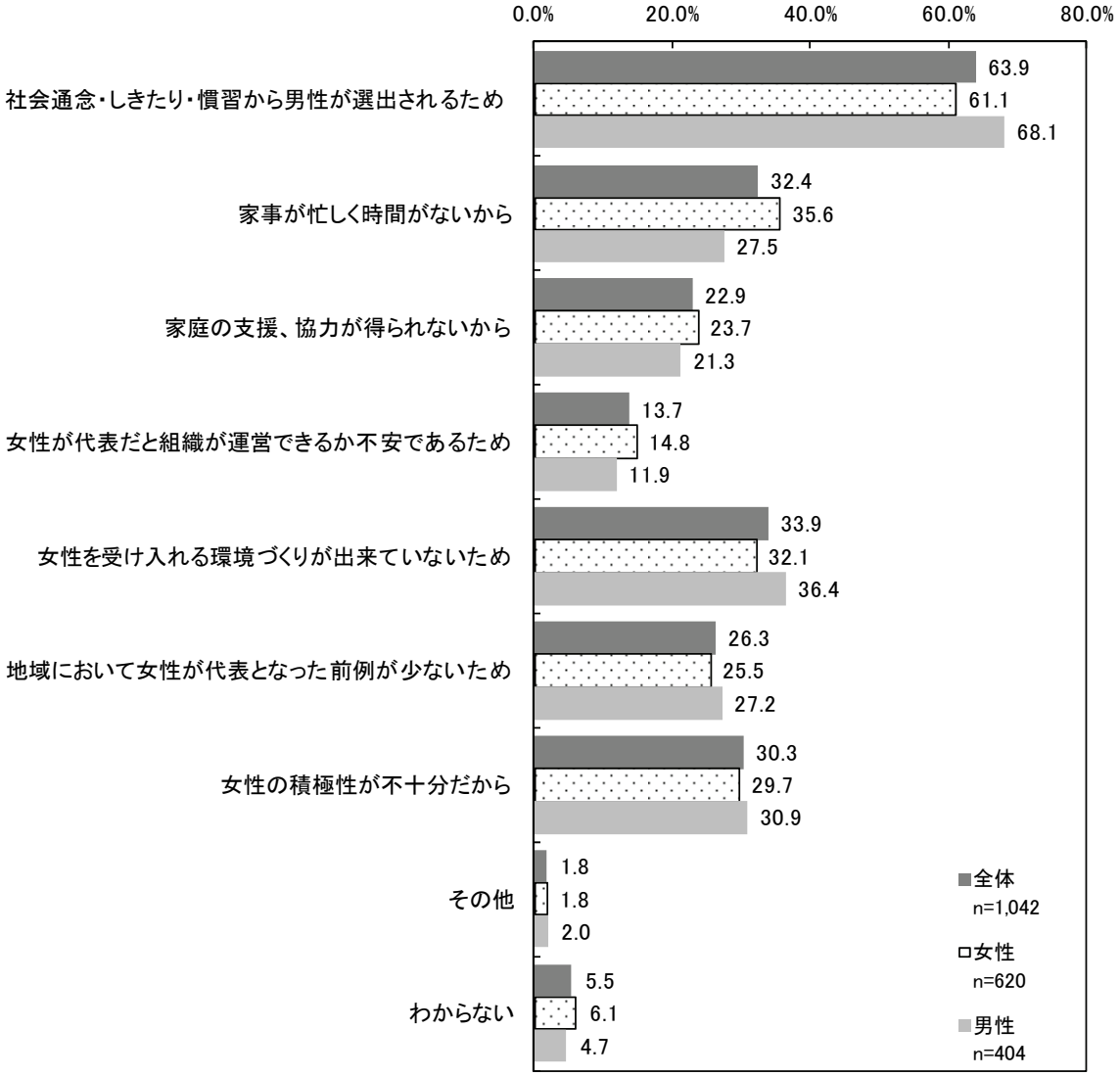
本人の職業別にみると、非正規雇用者では「育児休業や介護休業制度を取りにくい雰囲気がある」と「短期契約（1 年更新の嘱託契約など）等の不安定な雇用形態がある」との回答が他の職業よりも多くなっている。このほか専業主婦・主夫では、「育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない」「女性が長く勤め続けにくい雰囲気がある」との回答が他の職業層と比べ多くなっている。

		合計	育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある	育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない	男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある	労働時間が長い	転勤がある	短期契約（1年更新の嘱託契約など）等の不安定な雇用形態がある	教育・訓練を受ける機会が少ない	女性の能力が正当に評価されない	女性が長く勤め続けにくい雰囲気がある	セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）がある	仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である	男性の側に、男女平等な立場で就労していこうとする意識が欠けている	女性自身に職業を持ち続けようという意識がない	その他	特に問題はない
全体		1,042	42.3%	45.3%	24.4%	18.8%	9.8%	15.6%	2.4%	14.4%	15.5%	2.6%	19.9%	14.2%	8.2%	2.6%	3.9%
■性年代別																	
女性	20歳代	44	63.6%	36.4%	20.5%	18.2%	4.5%	6.8%	4.5%	13.6%	9.1%	6.8%	18.2%	6.8%	2.3%	4.5%	2.3%
	30歳代	67	53.7%	34.3%	20.9%	37.3%	4.5%	17.9%	1.5%	13.4%	14.9%	4.5%	29.9%	19.4%	4.5%	6.0%	1.5%
	40歳代	79	41.8%	46.8%	27.8%	22.8%	3.8%	8.9%	2.5%	8.9%	16.5%	2.5%	31.6%	17.7%	10.1%	3.8%	1.3%
	50歳代	109	37.6%	44.0%	20.2%	19.3%	6.4%	21.1%	0.9%	10.1%	18.3%	0.9%	26.6%	16.5%	11.9%	8.3%	5.5%
	60歳代	142	42.3%	47.2%	26.8%	22.5%	9.9%	19.0%	0.7%	11.3%	16.9%	0.7%	20.4%	20.4%	6.3%	0.0%	2.8%
	70歳代	122	28.7%	42.6%	20.5%	16.4%	10.7%	14.8%	4.9%	19.7%	19.7%	0.0%	22.1%	14.8%	8.2%	1.6%	4.1%
	80歳以上	56	28.6%	32.1%	19.6%	17.9%	17.9%	10.7%	3.6%	30.4%	16.1%	3.6%	14.3%	5.4%	8.9%	0.0%	7.1%
男性	20歳代	29	55.2%	41.4%	31.0%	17.2%	3.4%	13.8%	0.0%	13.8%	3.4%	10.3%	10.3%	13.8%	13.8%	0.0%	6.9%
	30歳代	33	51.5%	48.5%	30.3%	21.2%	3.0%	15.2%	3.0%	15.2%	18.2%	6.1%	12.1%	15.2%	15.2%	3.0%	3.0%
	40歳代	39	46.2%	43.6%	33.3%	7.7%	12.8%	15.4%	2.6%	23.1%	10.3%	7.7%	15.4%	23.1%	7.7%	2.6%	2.6%
	50歳代	66	42.4%	59.1%	37.9%	7.6%	9.1%	10.6%	1.5%	13.6%	9.1%	1.5%	12.1%	6.1%	9.1%	6.1%	7.6%
	60歳代	103	43.7%	50.5%	25.2%	16.5%	12.6%	15.5%	1.9%	12.6%	11.7%	1.9%	20.4%	14.6%	9.7%	1.0%	2.9%
	70歳代	90	47.8%	50.0%	22.2%	13.3%	15.6%	23.3%	1.1%	15.6%	20.0%	3.3%	14.4%	4.4%	2.2%	0.0%	5.6%
	80歳以上	44	38.6%	45.5%	13.6%	25.0%	18.2%	9.1%	9.1%	4.5%	13.6%	2.3%	9.1%	15.9%	9.1%	0.0%	4.5%
無回答		19	42.1%	52.6%	21.1%	10.5%	10.5%	21.1%	0.0%	21.1%	21.1%	0.0%	10.5%	10.5%	10.5%	0.0%	0.0%
■職業別																	
自営業主		109	38.5%	45.0%	24.8%	11.0%	13.8%	10.1%	3.7%	21.1%	8.3%	2.8%	21.1%	11.9%	7.3%	1.8%	3.7%
家族従事者		61	32.8%	31.1%	18.0%	21.3%	9.8%	14.8%	1.6%	11.5%	24.6%	4.9%	29.5%	14.8%	4.9%	0.0%	1.6%
正規雇用者		238	45.8%	46.6%	29.0%	22.7%	7.6%	11.8%	1.7%	12.6%	11.8%	3.4%	18.5%	14.7%	12.6%	5.9%	3.4%
非正規雇用者		175	48.6%	45.7%	23.4%	14.9%	8.6%	23.4%	2.9%	11.4%	12.0%	2.3%	20.6%	18.9%	7.4%	4.6%	4.6%
主婦・主夫		183	39.3%	51.4%	24.0%	21.3%	8.7%	16.4%	1.1%	14.8%	23.5%	1.1%	21.9%	18.0%	6.0%	0.0%	2.7%
学生		12	50.0%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%	25.0%	8.3%	8.3%	16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	16.7%
無職		235	41.7%	43.8%	22.1%	18.7%	12.3%	18.3%	3.0%	14.0%	16.6%	2.6%	16.6%	9.4%	7.2%	1.3%	5.5%
その他		13	30.8%	46.2%	38.5%	7.7%	7.7%	0.0%	7.7%	23.1%	15.4%	0.0%	23.1%	15.4%	7.7%	0.0%	0.0%
無回答		16	31.3%	37.5%	18.8%	31.3%	12.5%	6.3%	0.0%	25.0%	18.8%	0.0%	12.5%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%

(3)企画立案、決定の場に女性が少ない原因

問 11　自治会・PTAの会長など、地域の団体の代表や政治・行政・職場等の企画立案、決定の場に女性が少ない原因は何だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

企画立案・政策決定の場に女性が少ない原因としては、「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」(63.9%)との回答が最も多く、次いで「女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため」(33.9%)、「家事が忙しく時間がないから」(32.4%)、「女性の積極性が不十分だから」(30.3%)、「地域において女性が代表となった前例が少ないため」(26.3%)、「家庭の支援、協力が得られないから」(22.9%)が続いている。



【性別】

性別にみると、「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」(女性 61.1%、男性 68.1%)、「家事が忙しく時間がないから」(女性 35.6%、男性 27.5%)で男女間の差がみられる。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の 30 歳代から 50 歳代では「家事が忙しく時間がないから」との回答が他の年代層よりも多い。60 歳代から 70 歳代の年齢層でも「女性が代表だと組織が運営できるか不安であるため」も比較的多くなっている。一方、男性の 60 歳代から 80 歳以上では「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」、20 歳代から 30 歳代では「地域において女性が代表となった前例が少ないため」が他の年代と比べ高くなっている。

		合計	社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため	家事が忙しく時間がないから	家庭の支援、協力が得られないから	女性が代表だと組織が運営できるか不安であるため	女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため	地域において女性が代表となった前例が少ないため	女性の積極性が不十分だから	その他	わからない
全体		1,042	63.9%	32.4%	22.9%	13.7%	33.9%	26.3%	30.3%	1.8%	5.5%
■性年代別											
女性	20歳代	44	54.5%	38.6%	18.2%	9.1%	31.8%	20.5%	20.5%	0.0%	9.1%
	30歳代	67	61.2%	40.3%	19.4%	4.5%	46.3%	31.3%	22.4%	3.0%	7.5%
	40歳代	79	45.6%	48.1%	31.6%	10.1%	30.4%	16.5%	26.6%	5.1%	3.8%
	50歳代	109	69.7%	40.4%	22.9%	9.2%	33.0%	24.8%	41.3%	1.8%	2.8%
	60歳代	142	65.5%	28.9%	26.1%	23.2%	34.5%	28.2%	31.7%	0.7%	4.9%
	70歳代	122	61.5%	29.5%	23.0%	20.5%	27.9%	30.3%	29.5%	0.8%	5.7%
	80歳以上	56	58.9%	32.1%	19.6%	17.9%	17.9%	19.6%	23.2%	1.8%	16.1%
男性	20歳代	29	44.8%	27.6%	13.8%	10.3%	34.5%	37.9%	17.2%	3.4%	6.9%
	30歳代	33	66.7%	27.3%	30.3%	9.1%	42.4%	36.4%	24.2%	0.0%	9.1%
	40歳代	39	61.5%	15.4%	17.9%	10.3%	30.8%	30.8%	28.2%	2.6%	7.7%
	50歳代	66	68.2%	24.2%	21.2%	6.1%	31.8%	18.2%	33.3%	4.5%	1.5%
	60歳代	103	72.8%	25.2%	21.4%	12.6%	39.8%	26.2%	37.9%	1.0%	2.9%
	70歳代	90	71.1%	30.0%	22.2%	14.4%	36.7%	25.6%	32.2%	1.1%	6.7%
	80歳以上	44	72.7%	45.5%	22.7%	15.9%	36.4%	27.3%	25.0%	2.3%	2.3%
無回答		19	68.4%	26.3%	26.3%	15.8%	42.1%	36.8%	36.8%	0.0%	0.0%

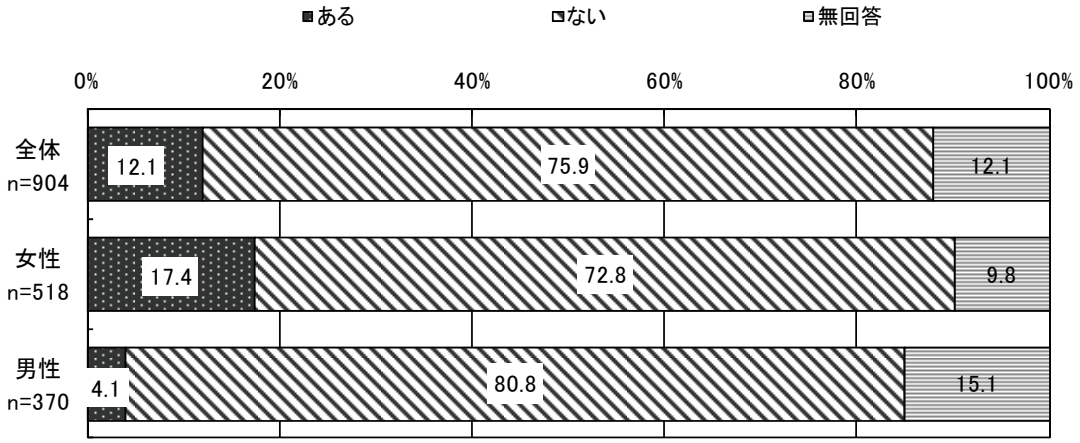
６．仕事、家庭、地域活動等の両立について

（1）育児休業・介護休業の取得経験

①取得経験の有無

※問12は、現在職業をもっている人、以前職業を持っていた人におたずねします。それ以外の方は、問13にお進みください。
問 12－① 男女が働きやすい職場をつくるため、「育児休業」や「介護休業」という制度があります。あなたは、育児休業や介護休業を取得したことがありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。

育児休業や介護休業の取得についてみると、全体では取得経験が「ない」が 75.9%を占め、「ある」は 12.1%にとどまっている。



【性別】

性別にみると、いずれも「ない」の割合が高いが、女性では取得経験が「ある」が 17.4%であるのに対し男性では 4.1%と取得割合が低くなっている。

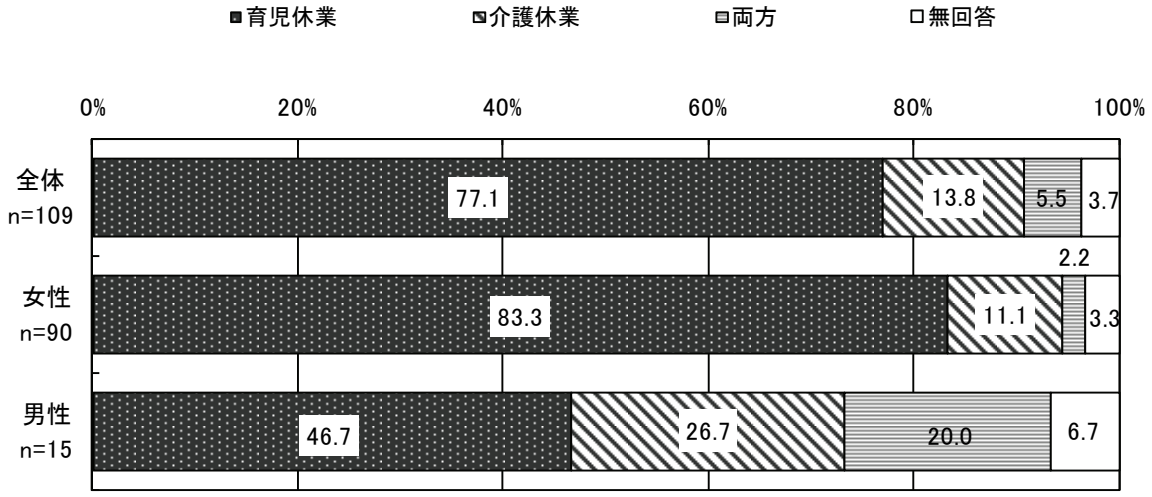
【性・年代別】

性・年代別にみると、いずれも「ない」との回答が多いが、女性の 30 歳代から 50 歳代では、他の年齢層に比べ「ある」の割合が高くなっている。

		合計	ある	ない	無回答
全体		904	12.1%	75.9%	12.1%
■性年代別					
女性	20歳代	40	7.5%	85.0%	7.5%
	30歳代	67	17.9%	82.1%	0.0%
	40歳代	79	27.8%	68.4%	3.8%
	50歳代	106	20.8%	70.8%	8.5%
	60歳代	111	11.7%	77.5%	10.8%
	70歳代	86	16.3%	65.1%	18.6%
	80歳以上	28	10.7%	64.3%	25.0%
男性	20歳代	26	7.7%	80.8%	11.5%
	30歳代	32	0.0%	90.6%	9.4%
	40歳代	37	2.7%	89.2%	8.1%
	50歳代	64	4.7%	87.5%	7.8%
	60歳代	100	5.0%	79.0%	16.0%
	70歳代	79	2.5%	77.2%	20.3%
	80歳以上	32	6.3%	62.5%	31.3%
無回答		17	29.4%	52.9%	17.6%

※問 12 で、「1. ある」と答えた方におたずねします。
問 12－② どの制度を取られましたか。当てはまる番号を選び、○で囲んでください。（○は1つだけ）

育児休業や介護休業を取得した 109 人の内訳をみると、全体の 77.1%が「育児休業」が占め、「介護休業」13.8%、「両方」5.5%となっている。



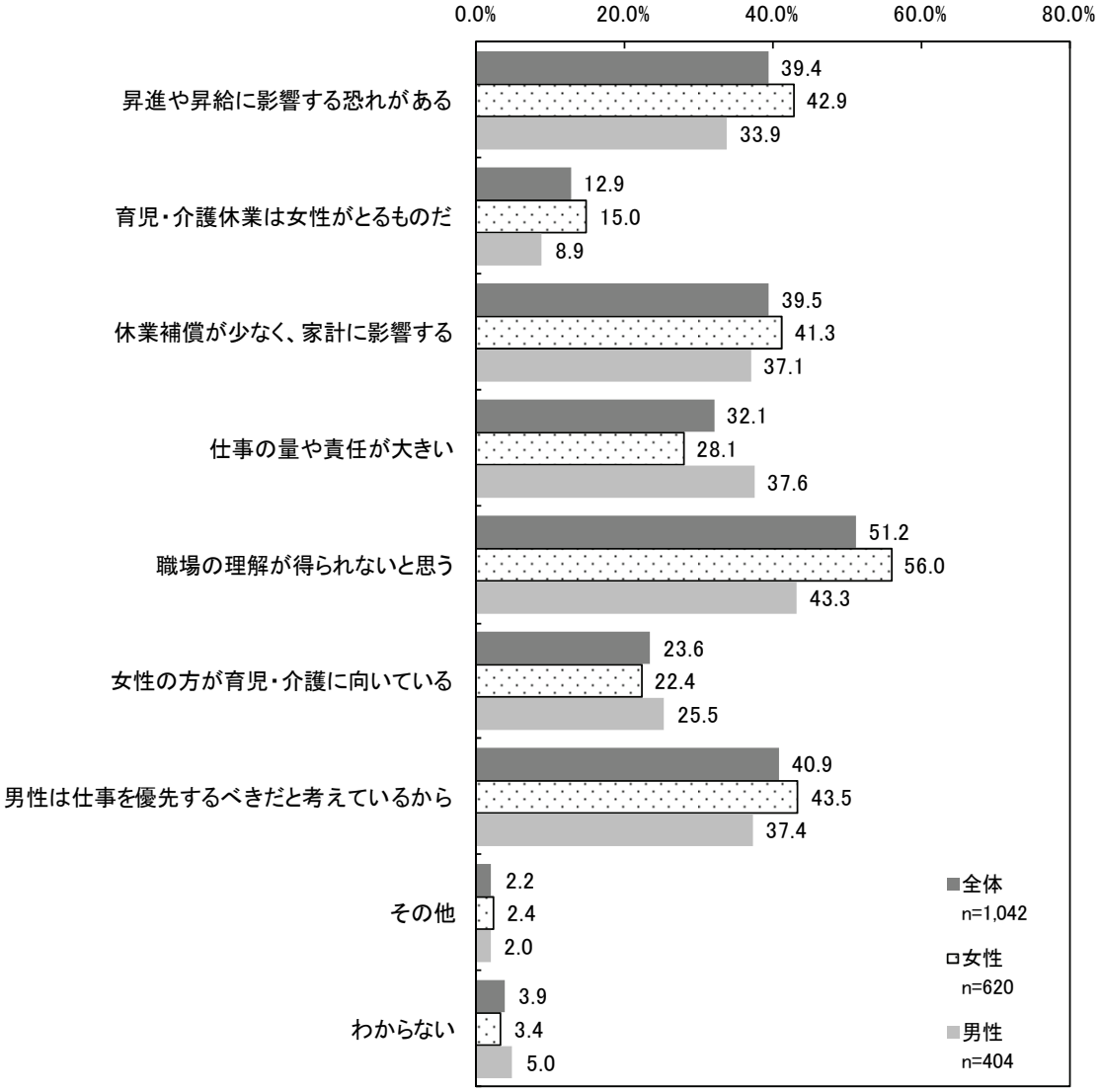
【性別】

性別にみた場合、109 人の取得者のうち 89 人が女性であり、ほぼ全体の傾向に近くなっている。男性では、「育児休業」7 人、「介護休業」4 人、「両方」3 人の取得となっている。

（2）育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由

問 13　育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由は、何だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由としては、「職場の理解が得られないと思う」（51.2%）との回答が最も多く、次いで「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」（40.9%）、「休業補償が少なく、家計に影響する」（39.5%）、「昇進や昇給に影響する恐れがある」（39.4%）、「仕事の量や責任が大きい」（32.1%）、「女性の方が育児・介護に向いている」（23.6%）が続いている。



【性別】

性別にみると、「仕事の量や責任が大きい」（女性 28.1%、男性 37.6%）、「女性の方が育児・介護に向いている」（女性 22.4%、男性 25.5%）を除き、いずれの回答でも女性の割合が男性を上回っている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の30歳代から40歳代では「昇進や昇給に影響する恐れがある」との回答が他の年代層よりも多い。20歳代から60歳代では、「職場の理解が得られないと思う」も多い。70歳代から80歳以上の年齢層では「女性の方が育児・介護に向いている」も比較的多くなっている。一方、男性の20歳代から60歳代では「仕事の量や責任が大きい」、60歳代から80歳以上では「女性の方が育児・介護に向いている」が他の年代と比べ高くなっている。

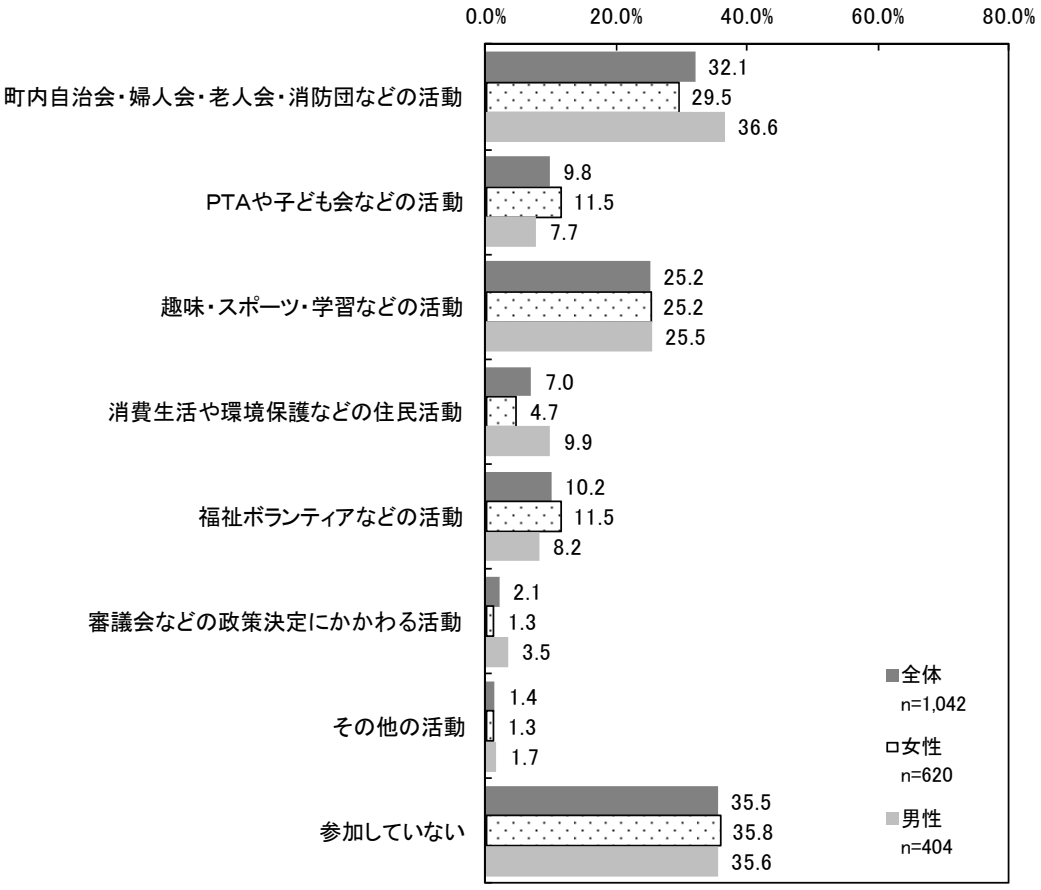
		合計	昇進や昇給に影響する恐れがある	育児・介護休業は女性がとるものだ	休業補償が少なく、家計に影響する	仕事の量や責任が大きい	職場の理解が得られないと思う	女性の方が育児・介護に向いている	男性は仕事を優先するべきだと考えているから	その他	わからない
全体		1,042	39.4%	12.9%	39.5%	32.1%	51.2%	23.6%	40.9%	2.2%	3.9%
■性年代別											
女性	20歳代	44	54.5%	15.9%	38.6%	20.5%	65.9%	6.8%	36.4%	4.5%	0.0%
	30歳代	67	50.7%	13.4%	52.2%	32.8%	62.7%	9.0%	38.8%	4.5%	0.0%
	40歳代	79	50.6%	13.9%	49.4%	27.8%	64.6%	15.2%	34.2%	3.8%	1.3%
	50歳代	109	33.9%	12.8%	41.3%	35.8%	60.6%	24.8%	45.0%	0.9%	4.6%
	60歳代	142	43.0%	14.8%	42.3%	29.6%	62.0%	21.1%	48.6%	2.1%	2.8%
	70歳代	122	42.6%	13.9%	37.7%	27.9%	41.0%	32.0%	47.5%	1.6%	2.5%
	80歳以上	56	32.1%	23.2%	26.8%	12.5%	37.5%	37.5%	42.9%	1.8%	14.3%
男性	20歳代	29	51.7%	13.8%	34.5%	41.4%	37.9%	20.7%	24.1%	0.0%	3.4%
	30歳代	33	24.2%	6.1%	51.5%	48.5%	57.6%	15.2%	27.3%	0.0%	9.1%
	40歳代	39	33.3%	2.6%	41.0%	41.0%	46.2%	10.3%	33.3%	5.1%	2.6%
	50歳代	66	33.3%	0.0%	45.5%	37.9%	47.0%	24.2%	30.3%	3.0%	4.5%
	60歳代	103	32.0%	11.7%	37.9%	39.8%	51.5%	28.2%	42.7%	1.9%	1.9%
	70歳代	90	34.4%	8.9%	32.2%	33.3%	31.1%	28.9%	43.3%	2.2%	6.7%
	80歳以上	44	31.8%	20.5%	18.2%	25.0%	34.1%	40.9%	43.2%	0.0%	9.1%
無回答		19	47.4%	31.6%	31.6%	47.4%	63.2%	21.1%	31.6%	0.0%	0.0%

(3)地域活動への参加状況・参加意向

問 14 あなたは現在、地域でどのような活動に参加していますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

①現在の参加状況

現在参加している活動をみると、「参加していない」(35.5%)を除いて「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」(32.1%)が最も多く、次いで「趣味・スポーツ・学習などの活動」(25.2%)、「福祉ボランティアなどの活動」(10.2%)、「PTAや子ども会などの活動」(9.8%)が続いている。



【性別】

性別にみると、「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」(女性29.5%、男性36.6%)で男女間の差がややみられる。

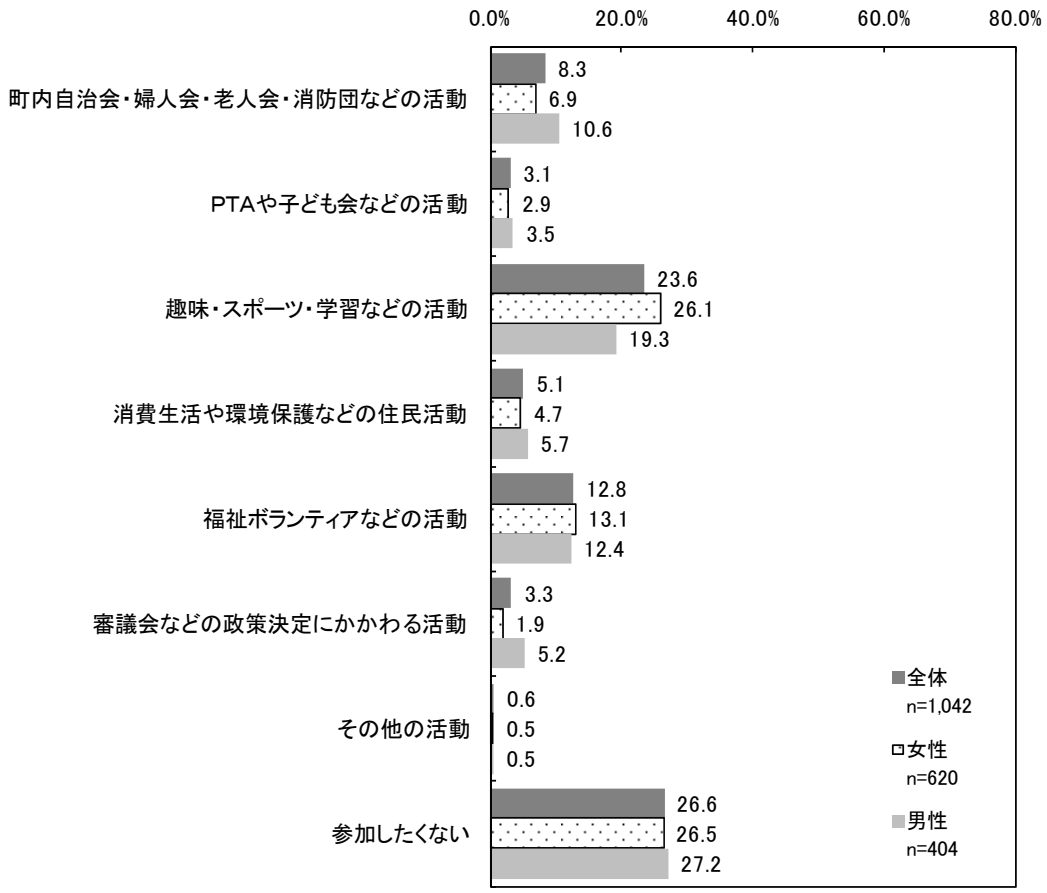
【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の 30 歳代から 40 歳代では「PTAや子ども会などの活動」との回答が他の年代層よりも多い。60 歳代から 70 歳代では、「趣味・スポーツ・学習などの活動」も多い。70 歳代から 80 歳以上の年齢層では「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」「福祉ボランティアなどの活動」も比較的多くなっている。一方、男性の 20 歳代、40 歳代、70 歳代では「趣味・スポーツ・学習などの活動」、40 歳代から 80 歳以上では「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」が他の年代と比べ高くなっている。

		合計	町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動	ＰＴＡや子ども会などの活動	趣味・スポーツ・学習などの活動	消費生活や環境保護などの住民活動	福祉ボランティアなどの活動	審議会などの政策決定にかかわる活動	その他の活動	参加していない
全体		1,042	32.1%	9.8%	25.2%	7.0%	10.2%	2.1%	1.4%	35.5%
■性年代別										
女性	20歳代	44	0.0%	2.3%	4.5%	2.3%	9.1%	0.0%	2.3%	65.9%
	30歳代	67	17.9%	37.3%	10.4%	0.0%	4.5%	1.5%	0.0%	37.3%
	40歳代	79	20.3%	41.8%	19.0%	6.3%	3.8%	0.0%	0.0%	38.0%
	50歳代	109	25.7%	7.3%	22.0%	2.8%	5.5%	0.9%	2.8%	42.2%
	60歳代	142	29.6%	0.0%	34.5%	4.9%	12.0%	0.0%	1.4%	33.8%
	70歳代	122	54.1%	1.6%	36.9%	9.8%	23.8%	4.1%	1.6%	22.1%
	80歳以上	56	33.9%	1.8%	25.0%	1.8%	16.1%	1.8%	0.0%	32.1%
男性	20歳代	29	24.1%	3.4%	31.0%	3.4%	3.4%	0.0%	0.0%	55.2%
	30歳代	33	24.2%	12.1%	15.2%	3.0%	3.0%	0.0%	6.1%	42.4%
	40歳代	39	35.9%	38.5%	30.8%	7.7%	5.1%	5.1%	2.6%	28.2%
	50歳代	66	33.3%	10.6%	25.8%	10.6%	4.5%	1.5%	1.5%	31.8%
	60歳代	103	35.9%	1.0%	18.4%	10.7%	5.8%	3.9%	0.0%	37.9%
	70歳代	90	44.4%	2.2%	31.1%	11.1%	14.4%	3.3%	3.3%	34.4%
	80歳以上	44	45.5%	2.3%	29.5%	15.9%	15.9%	9.1%	0.0%	27.3%
無回答		19	15.8%	5.3%	21.1%	21.1%	10.5%	0.0%	0.0%	15.8%

②今後の参加意向

今後参加したい活動では、「参加したくない」(26.6%)を除いて「趣味・スポーツ・学習などの活動」(23.6%)が最も多く、次いで「福祉ボランティアなどの活動」(12.8%)が続いている。



【性別】

性別にみると、今後の参加意向として「趣味・スポーツ・学習などの活動」の割合は全体的に高くなっているが、特に女性の割合が高い傾向にある。

【性・年代別】

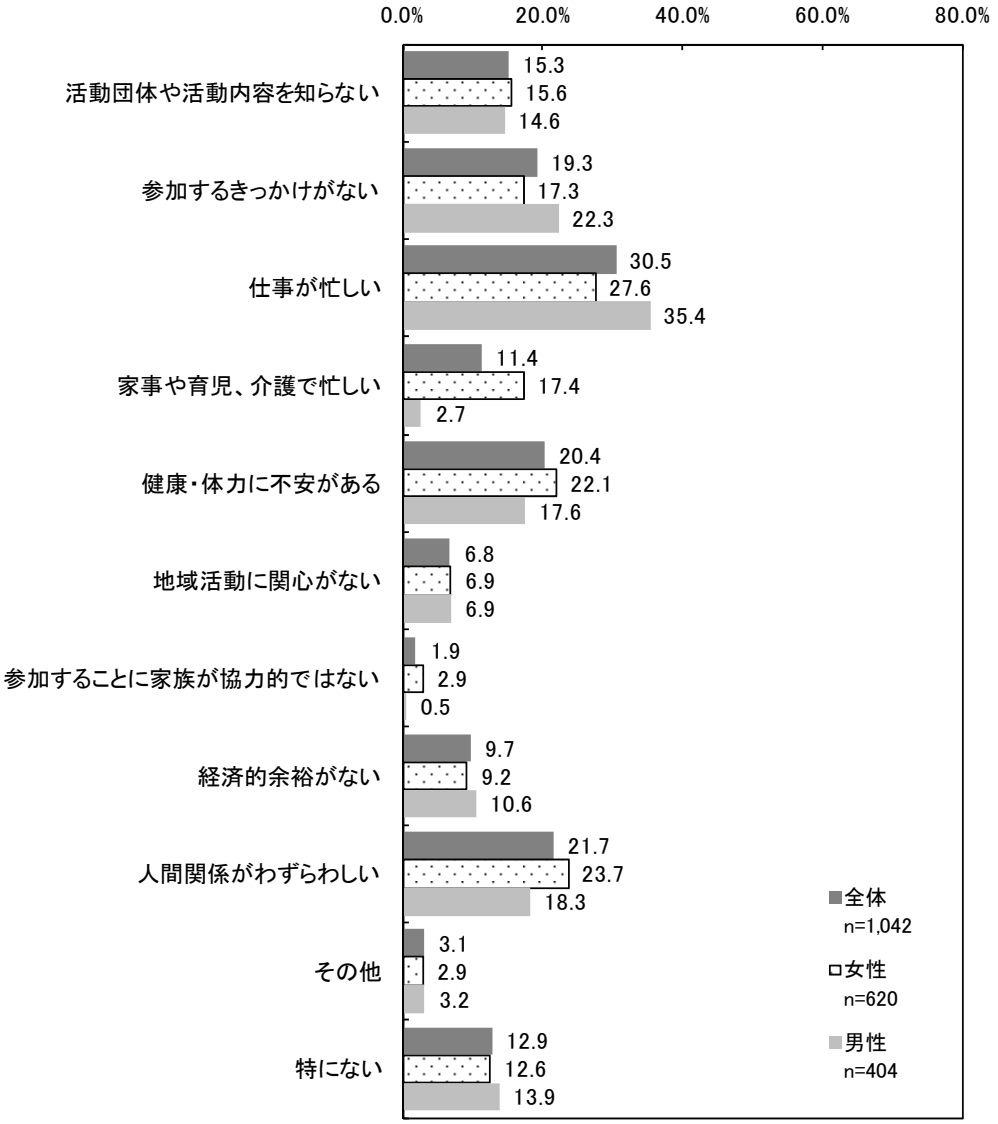
性・年代別にみると、女性の 20 歳代と 40 歳代、50 歳代では「趣味・スポーツ・学習などの活動」との回答が他の年代層よりも多い。20 歳代と 50 歳代では、「福祉ボランティアなどの活動」も多い。一方、男性の 20 歳代では「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」「PTAや子ども会などの活動」が他の年代と比べ高くなっている。

		合計	町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動	PTAや子ども会などの活動	趣味・スポーツ・学習などの活動	消費生活や環境保護などの住民活動	福祉ボランティアなどの活動	審議会などの政策決定にかかわる活動	その他の活動	参加したくない
全体		1,042	8.3%	3.1%	23.6%	5.1%	12.8%	3.3%	0.6%	26.6%
■性年代別										
女性	20歳代	44	4.5%	6.8%	43.2%	2.3%	18.2%	0.0%	0.0%	36.4%
	30歳代	67	6.0%	9.0%	26.9%	6.0%	13.4%	1.5%	0.0%	31.3%
	40歳代	79	3.8%	7.6%	32.9%	3.8%	7.6%	2.5%	1.3%	34.2%
	50歳代	109	0.9%	0.0%	39.4%	8.3%	20.2%	2.8%	0.9%	24.8%
	60歳代	142	9.2%	0.0%	26.1%	4.2%	16.9%	2.8%	0.7%	21.8%
	70歳代	122	13.9%	2.5%	9.0%	4.9%	8.2%	1.6%	0.0%	21.3%
	80歳以上	56	5.4%	0.0%	14.3%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	28.6%
男性	20歳代	29	17.2%	24.1%	13.8%	3.4%	13.8%	3.4%	0.0%	34.5%
	30歳代	33	0.0%	6.1%	21.2%	0.0%	12.1%	0.0%	0.0%	33.3%
	40歳代	39	10.3%	5.1%	25.6%	2.6%	5.1%	7.7%	2.6%	33.3%
	50歳代	66	9.1%	1.5%	21.2%	4.5%	16.7%	9.1%	1.5%	22.7%
	60歳代	103	12.6%	0.0%	25.2%	6.8%	9.7%	5.8%	0.0%	21.4%
	70歳代	90	10.0%	2.2%	13.3%	10.0%	18.9%	3.3%	0.0%	31.1%
	80歳以上	44	13.6%	0.0%	11.4%	4.5%	4.5%	4.5%	0.0%	25.0%
無回答		19	5.3%	0.0%	31.6%	5.3%	10.5%	5.3%	5.3%	15.8%

（4）地域活動へ参加する際に支障となること、または参加しない理由

問 15 あなたが地域活動へ参加する際に支障となること、または参加しない理由は何ですか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

地域活動に参加する際に支障となること、または参加しない理由では「仕事が忙しい」（30.5%）が最も多く、次いで「人間関係がわずらわしい」（21.7%）、「健康・体力に不安がある」（20.4%）、「参加するきっかけがない」（19.3%）、「活動団体や活動内容を知らない」（15.3%）が続いている。



【性別】

性別にみると、男女間で差がみられる回答として、「仕事が忙しい」（女性 27.6%、男性 35.4%）では男性の割合が高く、「家事や育児、介護で忙しい」（女性 17.4%、男性 2.7%）、「人間関係がわずらわしい」（女性 23.7%、男性 18.3%）では女性の割合が高くなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の 20 歳代と 30 歳代では「参加するきっかけがない」「地域活動に関心がない」との回答が他の年代層よりも多い。30 歳代から 50 歳代では「仕事が忙しい」「家事や育児、介護で忙しい」、60 歳代から 80 歳以上では「健康・体力に不安がある」がそれぞれ多くなっている。一方、男性の 20 歳代から 60 歳代では「仕事が忙しい」、70 歳代と 80 歳以上では「健康・体力に不安がある」が他の年代と比べ高くなっている。

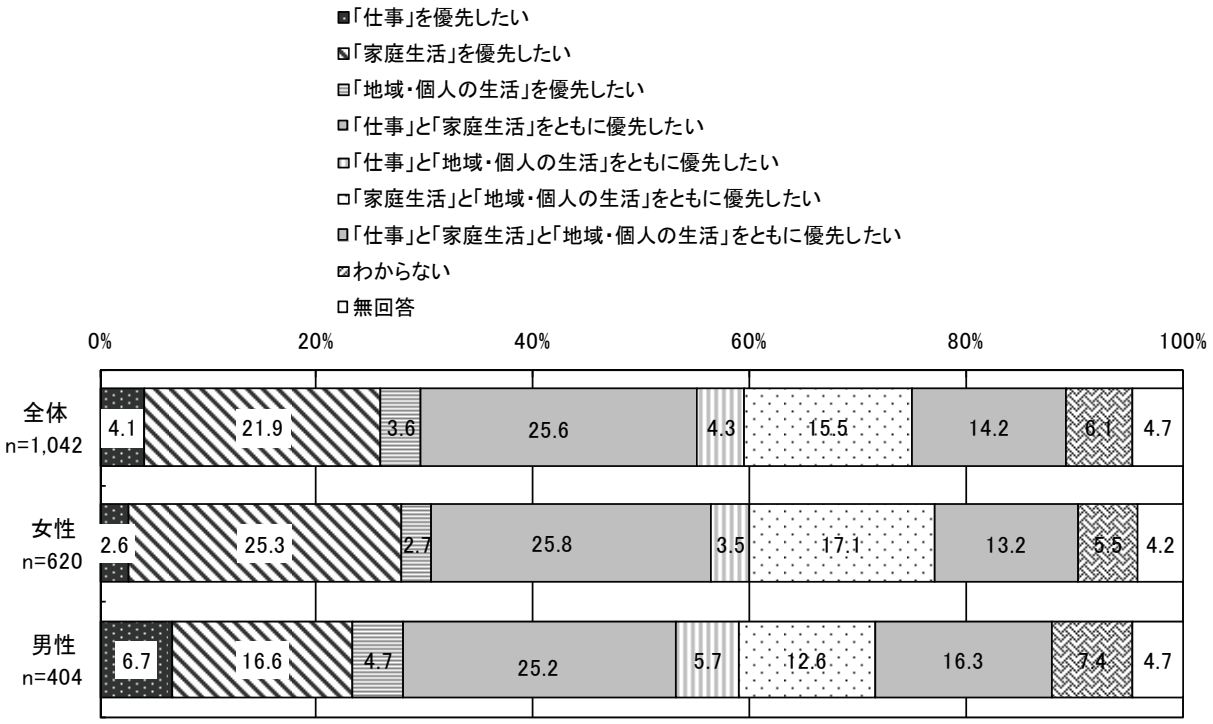
		合計	活動団体や活動内容を知らない	参加するきっかけがない	仕事が忙しい	家事や育児、介護で忙しい	健康・体力に不安がある	地域活動に関心がない	参加することに家族が協力的ではない	経済的余裕がない	人間関係がわずらわしい	その他	特にない
全体		1,042	15.3%	19.3%	30.5%	11.4%	20.4%	6.8%	1.9%	9.7%	21.7%	3.1%	12.9%
■性年代別													
女性	20歳代	44	43.2%	50.0%	34.1%	13.6%	6.8%	15.9%	2.3%	13.6%	18.2%	0.0%	6.8%
	30歳代	67	14.9%	25.4%	34.3%	49.3%	4.5%	16.4%	3.0%	11.9%	35.8%	3.0%	4.5%
	40歳代	79	13.9%	10.1%	51.9%	41.8%	11.4%	11.4%	2.5%	8.9%	26.6%	3.8%	7.6%
	50歳代	109	17.4%	21.1%	55.0%	16.5%	16.5%	4.6%	3.7%	15.6%	25.7%	0.9%	9.2%
	60歳代	142	15.5%	16.2%	12.7%	7.0%	29.6%	4.2%	3.5%	7.0%	26.8%	3.5%	13.4%
	70歳代	122	9.8%	10.7%	9.8%	3.3%	31.1%	3.3%	3.3%	5.7%	15.6%	2.5%	23.0%
	80歳以上	56	7.1%	1.8%	5.4%	5.4%	41.1%	1.8%	0.0%	3.6%	14.3%	7.1%	16.1%
男性	20歳代	29	27.6%	41.4%	41.4%	0.0%	3.4%	6.9%	0.0%	13.8%	10.3%	6.9%	17.2%
	30歳代	33	18.2%	30.3%	57.6%	6.1%	6.1%	15.2%	3.0%	9.1%	27.3%	0.0%	6.1%
	40歳代	39	15.4%	23.1%	56.4%	7.7%	10.3%	10.3%	0.0%	17.9%	25.6%	5.1%	7.7%
	50歳代	66	16.7%	24.2%	50.0%	0.0%	4.5%	9.1%	1.5%	9.1%	12.1%	4.5%	18.2%
	60歳代	103	11.7%	21.4%	40.8%	1.9%	15.5%	5.8%	0.0%	13.6%	21.4%	1.9%	10.7%
	70歳代	90	12.2%	15.6%	11.1%	2.2%	31.1%	4.4%	0.0%	5.6%	20.0%	3.3%	20.0%
	80歳以上	44	13.6%	15.9%	9.1%	4.5%	38.6%	2.3%	0.0%	9.1%	9.1%	2.3%	11.4%
無回答		19	10.5%	21.1%	21.1%	5.3%	31.6%	0.0%	0.0%	5.3%	31.6%	5.3%	0.0%

(5)仕事、家庭生活、地域・個人生活の両立に関する希望と実態

①希望

問 16－①　あなたが生活を送るうえで、希望に最も近いものを選んで○を付けてください。(○は1つだけ)

全体では、「仕事と家庭生活をともに優先したい」(25.6%)が最も多く、次いで「家庭生活を優先したい」(21.9%)、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(15.5%)、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(14.2%)が続いている。



【性別】

性別にみると、男女間の差はみられない。

【性・年代別】

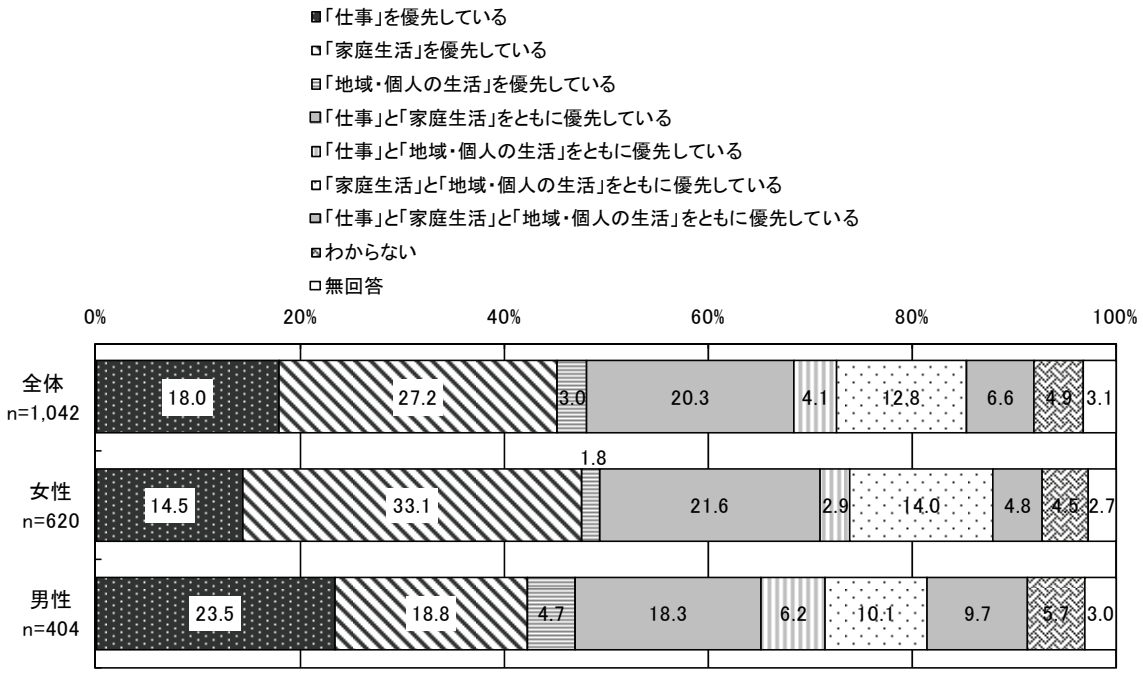
性・年代別にみると、男女とも 20 歳代から 50 歳代までは「仕事と家庭生活をともに優先したい」との回答が他の年代層よりも多い。女性の 60 歳代と 70 歳代は「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」、男性の 70 歳代と 80 歳以上は「家庭生活を優先したい」が他の年代と比べ高くなっている。

		合計	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答
全体		1,042	4.1%	21.9%	3.6%	25.6%	4.3%	15.5%	14.2%	6.1%	4.7%
■性年代別											
女性	20歳代	44	2.3%	20.5%	2.3%	34.1%	11.4%	15.9%	9.1%	2.3%	2.3%
	30歳代	67	1.5%	22.4%	0.0%	47.8%	3.0%	6.0%	14.9%	4.5%	0.0%
	40歳代	79	2.5%	25.3%	0.0%	41.8%	0.0%	10.1%	15.2%	2.5%	2.5%
	50歳代	109	2.8%	27.5%	0.0%	35.8%	3.7%	8.3%	21.1%	0.0%	0.9%
	60歳代	142	1.4%	25.4%	4.2%	19.7%	3.5%	24.6%	12.0%	4.9%	4.2%
	70歳代	122	5.7%	25.4%	6.6%	7.4%	3.3%	26.2%	9.8%	8.2%	7.4%
	80歳以上	56	0.0%	26.8%	3.6%	7.1%	3.6%	19.6%	7.1%	19.6%	12.5%
男性	20歳代	29	13.8%	0.0%	3.4%	34.5%	3.4%	3.4%	31.0%	10.3%	0.0%
	30歳代	33	15.2%	18.2%	0.0%	30.3%	0.0%	6.1%	12.1%	12.1%	6.1%
	40歳代	39	7.7%	12.8%	0.0%	51.3%	10.3%	5.1%	10.3%	2.6%	0.0%
	50歳代	66	9.1%	3.0%	0.0%	48.5%	4.5%	1.5%	27.3%	1.5%	4.5%
	60歳代	103	5.8%	16.5%	4.9%	20.4%	5.8%	17.5%	18.4%	8.7%	1.9%
	70歳代	90	2.2%	27.8%	5.6%	8.9%	5.6%	22.2%	7.8%	11.1%	8.9%
	80歳以上	44	2.3%	27.3%	18.2%	0.0%	9.1%	18.2%	11.4%	4.5%	9.1%
無回答		19	0.0%	26.3%	5.3%	31.6%	0.0%	15.8%	0.0%	0.0%	21.1%

②現実（現状）

問 16－②　あなたの生活で、現実（現状）に最も近い番号を選び、○で囲んでください。（○は1つだけ）

全体では、「家庭生活を優先している」（27.2%）が最も多く、次いで、「仕事と家庭生活をともに優先している」（20.3%）、「仕事を優先している」（18.0%）が続いている。



【性別】

性別にみると、「仕事を優先している」（女性 14.5%、男性 23.5%）と「家庭生活を優先している」（女性 33.1%、男性 18.8%）で男女間の差がみられる。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の 30 歳代から 50 歳代までは「仕事と家庭生活をともに優先している」との回答が他の年代層よりも多い。60 歳代から 80 歳以上では「家庭生活を優先している」が多くなっている。一方、男性の 20 歳代から 50 歳代では「仕事を優先している」、40 歳代と 50 歳代では「仕事と家庭生活をともに優先している」が他の年代と比べ高くなっている。

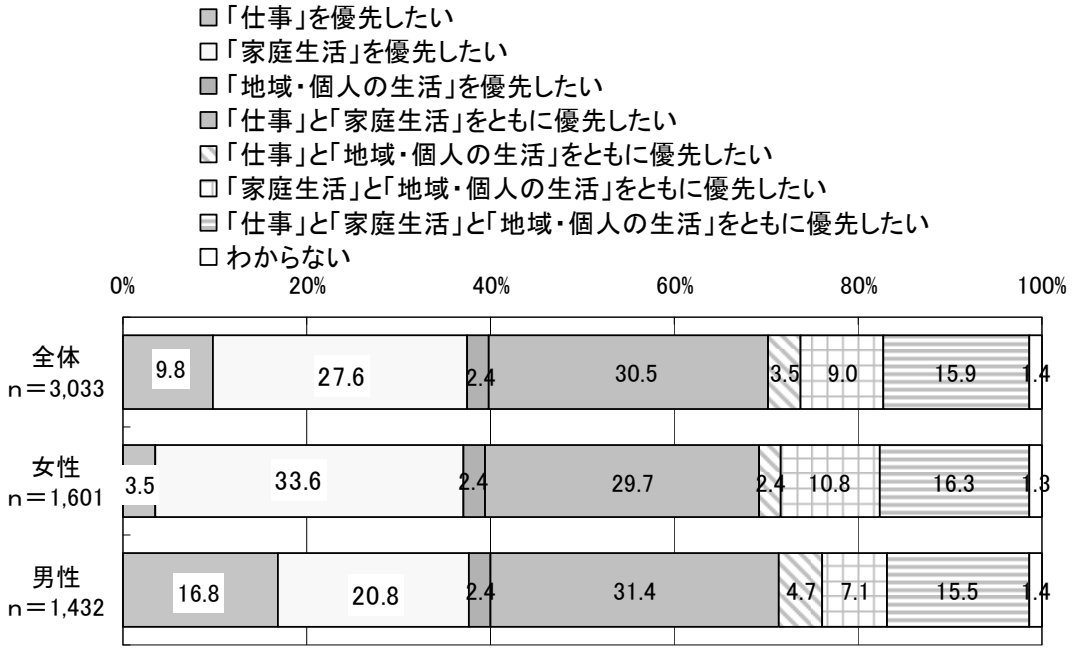
		合計	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	わからない	無回答
全体		1,042	18.0%	27.2%	3.0%	20.3%	4.1%	12.8%	6.6%	4.9%	3.1%
■性年代別											
女性	20歳代	44	31.8%	22.7%	4.5%	11.4%	4.5%	9.1%	4.5%	9.1%	2.3%
	30歳代	67	20.9%	38.8%	1.5%	26.9%	3.0%	6.0%	1.5%	1.5%	0.0%
	40歳代	79	22.8%	29.1%	0.0%	35.4%	0.0%	6.3%	3.8%	1.3%	1.3%
	50歳代	109	25.7%	19.3%	0.0%	40.4%	2.8%	5.5%	5.5%	0.0%	0.9%
	60歳代	142	6.3%	45.1%	0.7%	16.9%	2.1%	17.6%	7.0%	2.1%	2.1%
	70歳代	122	5.7%	32.0%	4.9%	10.7%	4.1%	25.4%	6.6%	5.7%	4.9%
	80歳以上	56	1.8%	35.7%	1.8%	3.6%	5.4%	21.4%	0.0%	21.4%	8.9%
男性	20歳代	29	41.4%	6.9%	3.4%	10.3%	10.3%	3.4%	6.9%	17.2%	0.0%
	30歳代	33	51.5%	6.1%	0.0%	24.2%	3.0%	0.0%	6.1%	3.0%	6.1%
	40歳代	39	30.8%	15.4%	2.6%	33.3%	5.1%	5.1%	5.1%	2.6%	0.0%
	50歳代	66	37.9%	9.1%	1.5%	31.8%	3.0%	1.5%	10.6%	0.0%	4.5%
	60歳代	103	20.4%	21.4%	1.9%	19.4%	7.8%	9.7%	12.6%	5.8%	1.0%
	70歳代	90	5.6%	27.8%	6.7%	7.8%	7.8%	23.3%	7.8%	7.8%	5.6%
	80歳以上	44	6.8%	29.5%	18.2%	4.5%	4.5%	13.6%	13.6%	6.8%	2.3%
無回答		19	10.5%	21.1%	5.3%	21.1%	0.0%	26.3%	0.0%	0.0%	15.8%

【国・県調査との比較】

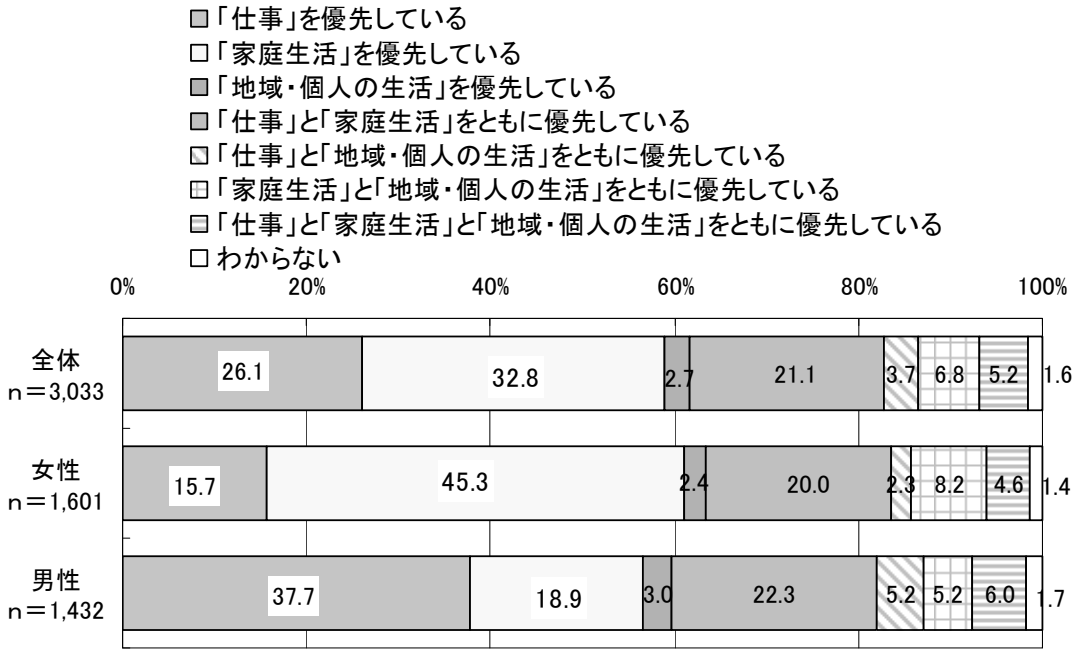
○内閣府男女共同参画に関する世論調査（平成 24 年度）

本市の結果と同じく、理想では仕事と家庭の両立に対する希望が多いものの、現実には、特に男性で仕事を優先している実態がうかがえる。

（希望）



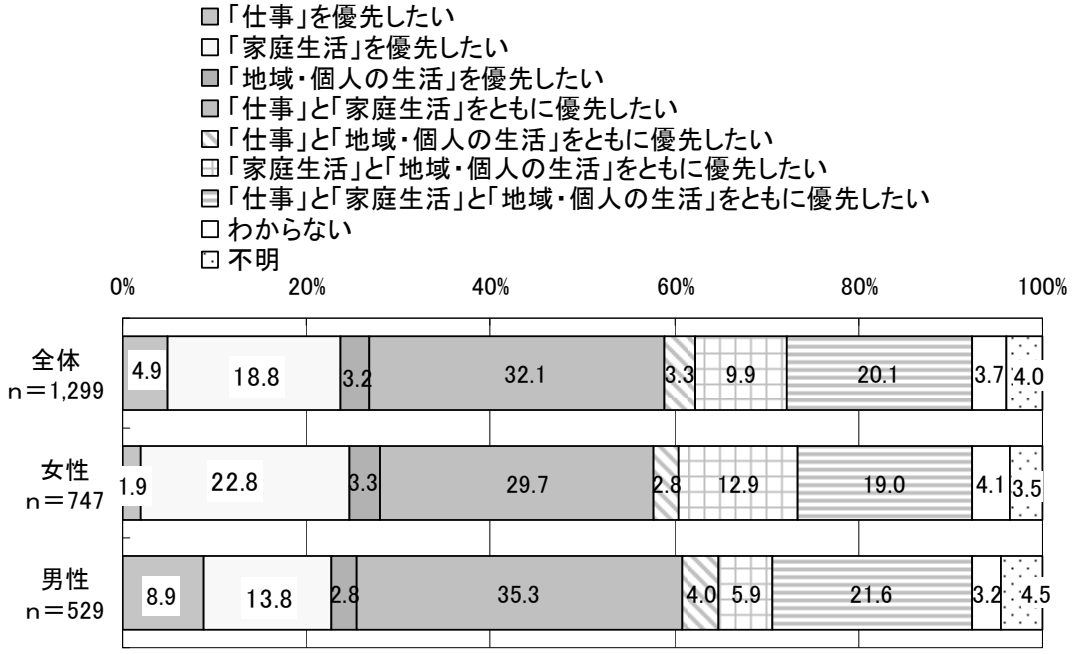
（現実）



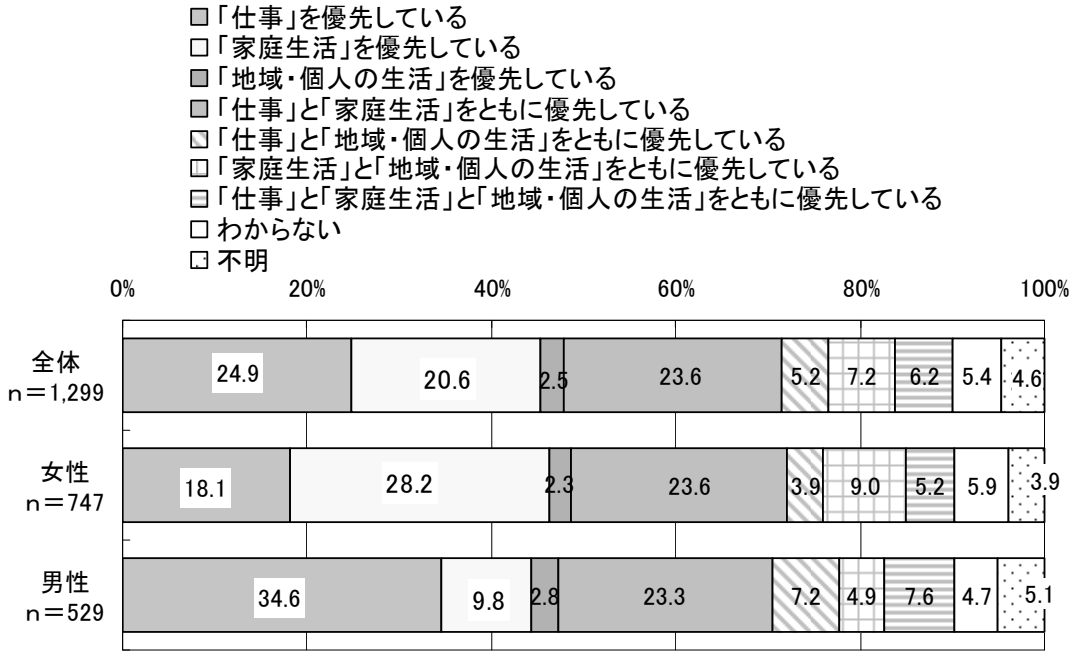
〇平成 26 年度　男女共同参画に関する県民意識調査（熊本県）

本市の結果と同じく、理想では仕事と家庭の両立に対する希望が多いものの、現実には、特に男性で仕事を優先している実態がうかがえる。

（希望）



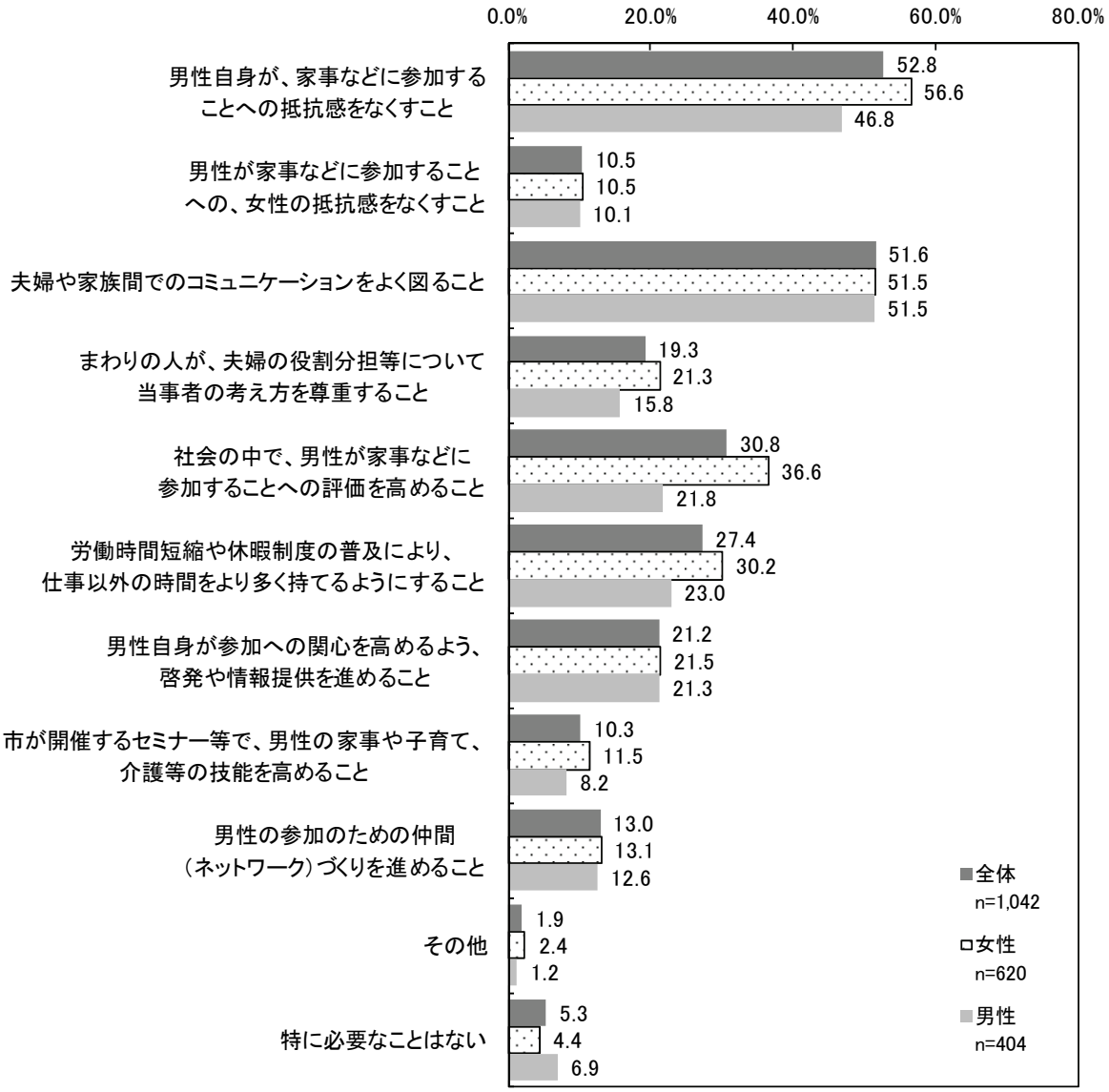
（現実）



（6）男性が女性と共に家事、子育て、介護、地域活動に参加していくために必要なこと

問 17　男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

全体では「男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」（52.8%）との回答が最も多く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」（51.6%）が続いており、いずれも半数以上の回答を得ている。以下、「社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること」（30.8%）、「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」（27.4%）、「男性自身が参加への関心を高めるよう、啓発や情報提供を進めること」（21.2%）、「まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」（19.3%）が続いている。



【性別】

性別にみると、全体的に男性に比べ女性の回答割合が高くなっている。また、「男性自身が家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」（女性 56.6%、男性 46.8%）、「社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること」（女性 36.6%、男性 21.8%）、「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時

間をより多く持てるようにすること」（女性 30.2%、男性 23.0%）、「まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」（女性 21.3%、男性 15.8%）などでは男女間の差が大きくなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の 20 歳代から 40 歳代までは「まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」との回答が他の年代層よりも多い。60 歳代から 70 歳代では「男性自身が参加への関心を高めるよう、啓発や情報提供を進めること」が多くなっている。一方、男性の 30 歳代から 50 歳代では「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が他の年代と比べ高くなっている。

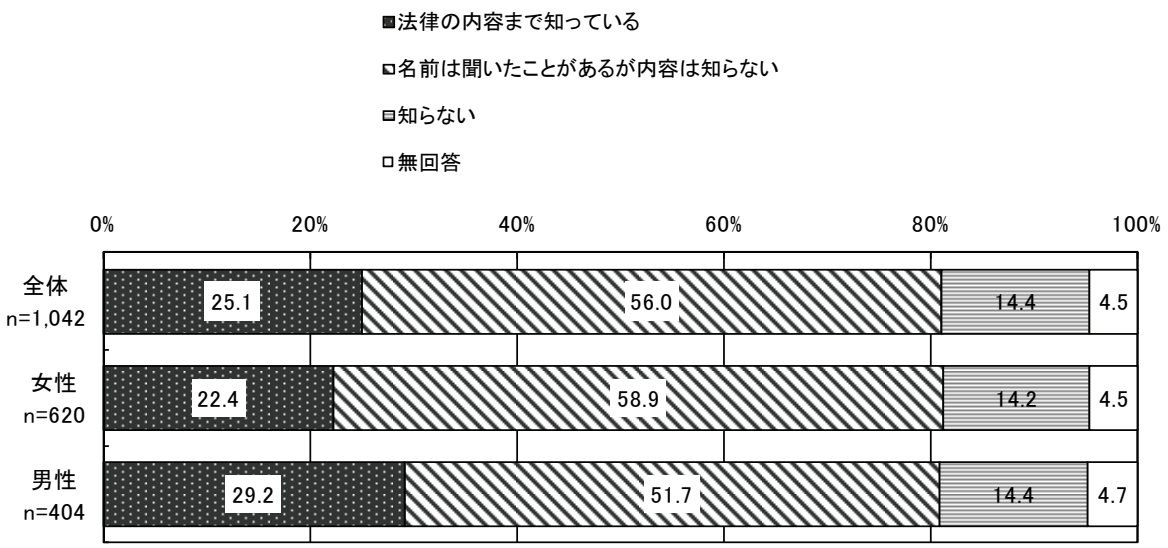
		合計	男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することへの、女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性自身が参加への関心を高めるよう、啓発や情報提供を進めること	市が開催するセミナー等で、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	男性の参加のための仲間（ネットワーク）づくりを進めること	その他	特に必要なことはない
全体		1,042	52.8%	10.5%	51.6%	19.3%	30.8%	27.4%	21.2%	10.3%	13.0%	1.9%	5.3%
■性年代別													
女性	20歳代	44	56.8%	13.6%	52.3%	20.5%	34.1%	50.0%	18.2%	15.9%	18.2%	2.3%	2.3%
	30歳代	67	52.2%	10.4%	46.3%	28.4%	53.7%	38.8%	14.9%	3.0%	9.0%	3.0%	0.0%
	40歳代	79	58.2%	10.1%	44.3%	30.4%	35.4%	48.1%	11.4%	5.1%	7.6%	6.3%	3.8%
	50歳代	109	60.6%	8.3%	56.0%	22.0%	42.2%	32.1%	21.1%	8.3%	11.9%	1.8%	2.8%
	60歳代	142	57.7%	11.3%	52.8%	19.0%	33.1%	23.2%	28.9%	17.6%	16.9%	0.0%	6.3%
	70歳代	122	57.4%	12.3%	57.4%	18.0%	34.4%	18.0%	26.2%	14.8%	15.6%	2.5%	4.9%
	80歳以上	56	46.4%	7.1%	44.6%	14.3%	19.6%	19.6%	17.9%	10.7%	8.9%	3.6%	8.9%
男性	20歳代	29	51.7%	10.3%	44.8%	10.3%	27.6%	27.6%	6.9%	3.4%	17.2%	3.4%	10.3%
	30歳代	33	48.5%	18.2%	48.5%	24.2%	9.1%	48.5%	12.1%	3.0%	12.1%	0.0%	6.1%
	40歳代	39	41.0%	12.8%	56.4%	15.4%	30.8%	35.9%	20.5%	2.6%	10.3%	5.1%	2.6%
	50歳代	66	39.4%	10.6%	56.1%	18.2%	21.2%	33.3%	21.2%	7.6%	10.6%	3.0%	4.5%
	60歳代	103	50.5%	9.7%	54.4%	15.5%	24.3%	20.4%	22.3%	7.8%	7.8%	0.0%	3.9%
	70歳代	90	45.6%	7.8%	53.3%	14.4%	17.8%	8.9%	26.7%	8.9%	18.9%	0.0%	13.3%
	80歳以上	44	50.0%	6.8%	36.4%	11.4%	22.7%	9.1%	25.0%	20.5%	13.6%	0.0%	6.8%
無回答		19	63.2%	15.8%	52.6%	26.3%	42.1%	26.3%	10.5%	15.8%	15.8%	0.0%	0.0%

7．配偶者などからの暴力について

（1）DV防止法の認知度

問18　「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（通称：※DV防止法）が平成13（2001）年10 月に施行されましたが、あなたはこの法律を知っていますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○は1つだけ）

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（DV防止法）については、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」（56.0％）との回答が過半数を占めており、次いで「法律の内容まで知っている」（25.1％）、「知らない」（14.4％）が続いている。



【性別】

性別でみると、いずれも「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」との回答が過半数を占めているが（女性58.9％、男性 51.7％）、男性では「法律の内容まで知っている」の割合が、女性に比べ高くなっている（女性22.4％、男性 29.2％）。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の20歳代から30歳代、50歳代から60歳代までは「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」との回答が 60％台で他の年代層よりも多い。他の年代と比べ 80 歳以上では「知らない」が多い。一方、男性の 40 歳代、60 歳代から70 歳代では「法律の内容まで知っている」が他の年代と比べ高くなっている。20 歳代から 30 歳代、80 歳以上では「知らない」の割合が他の年代と比べ高くなっている。

		合計	法律の内容まで知っている	名前は聞いたことがあるが内容は知らない	知らない	無回答
全体		1,042	25.1%	56.0%	14.4%	4.5%
■性年代別						
女性	20歳代	44	22.7%	61.4%	13.6%	2.3%
	30歳代	67	17.9%	64.2%	14.9%	3.0%
	40歳代	79	25.3%	57.0%	16.5%	1.3%
	50歳代	109	21.1%	67.0%	8.3%	3.7%
	60歳代	142	23.2%	66.2%	7.0%	3.5%
	70歳代	122	27.9%	45.9%	19.7%	6.6%
	80歳以上	56	12.5%	46.4%	28.6%	12.5%
男性	20歳代	29	13.8%	58.6%	27.6%	0.0%
	30歳代	33	18.2%	51.5%	30.3%	0.0%
	40歳代	39	33.3%	51.3%	5.1%	10.3%
	50歳代	66	25.8%	60.6%	9.1%	4.5%
	60歳代	103	32.0%	52.4%	9.7%	5.8%
	70歳代	90	38.9%	42.2%	13.3%	5.6%
	80歳以上	44	22.7%	50.0%	25.0%	2.3%
無回答		19	26.3%	57.9%	15.8%	0.0%

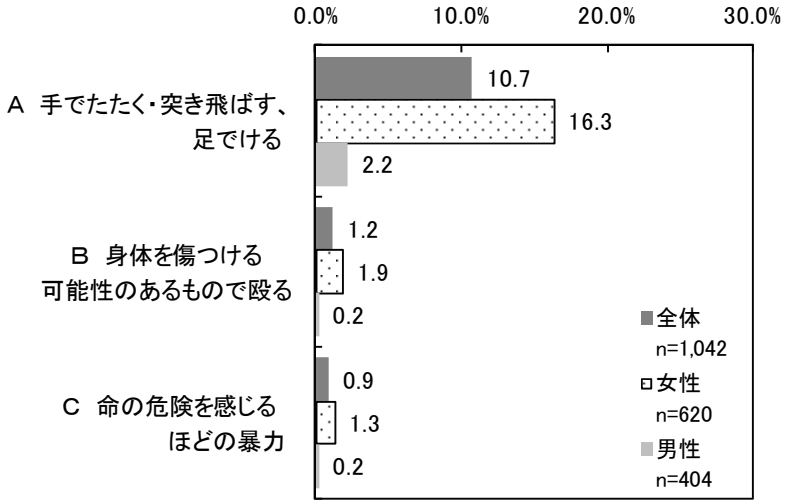
（2）DVに関する被害・加害経験

問 19－①　あなたは、これまでに恋人や配偶者（事実婚や別居中、離婚後を含む）などの親しい間で、次のA～Nについて、あてはまるようなことをされたりしたことがありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

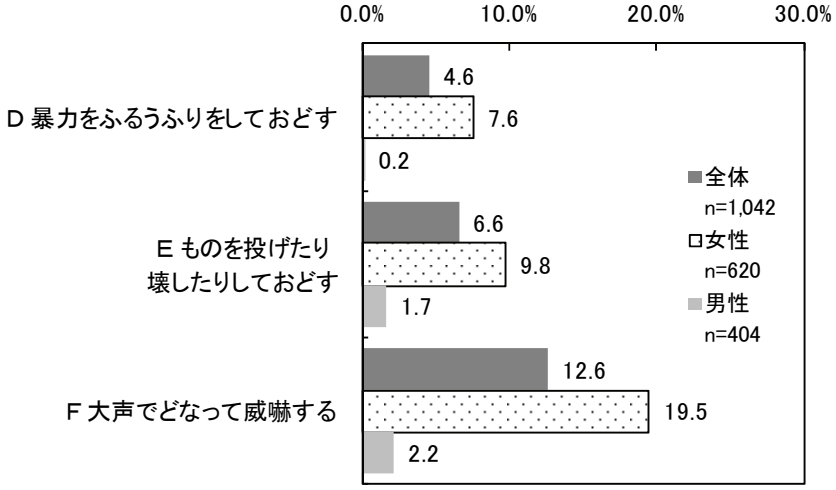
全体では被害、加害経験の「どちらもない」の割合が高くなっているが、「手でたたく・突き飛ばす、足でける」（被害10.7%、加害5.7%）、「大声でどなって威嚇する」（被害12.6%、加害9.1%）では被害経験で1割台の回答となっている。また、「何を言っても、長時間無視し続ける」と「交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する」を除く項目で、男性は加害、女性では被害経験の割合が高くなっている。

【被害経験】

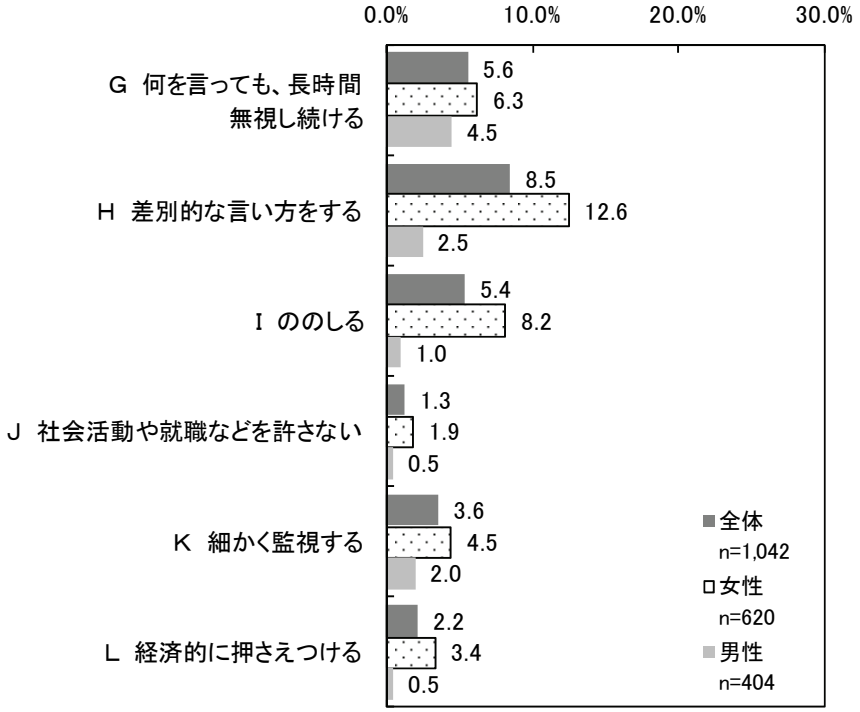
①身体への攻撃



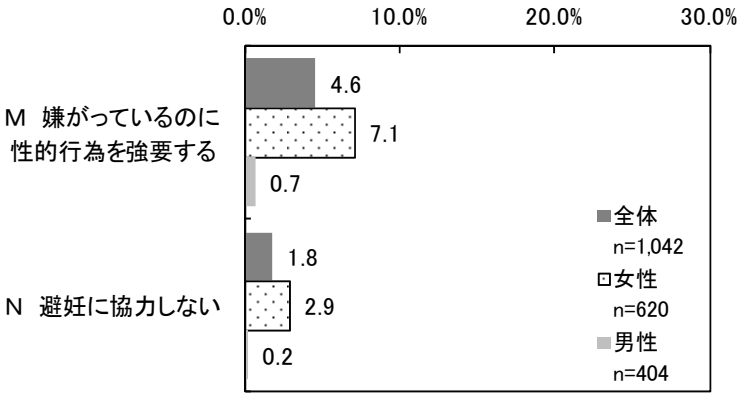
②威嚇・おどし



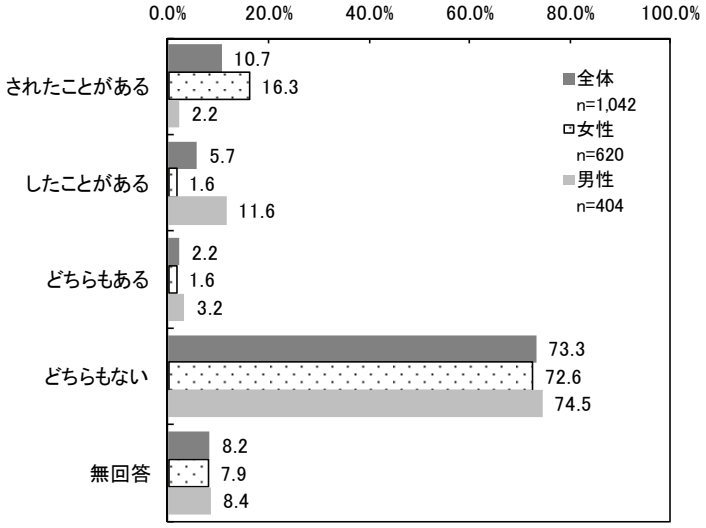
③精神的・経済的暴力



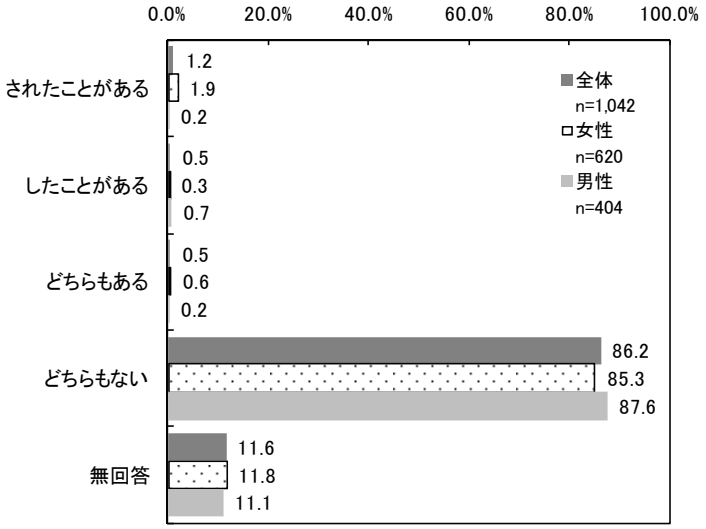
④性的暴力



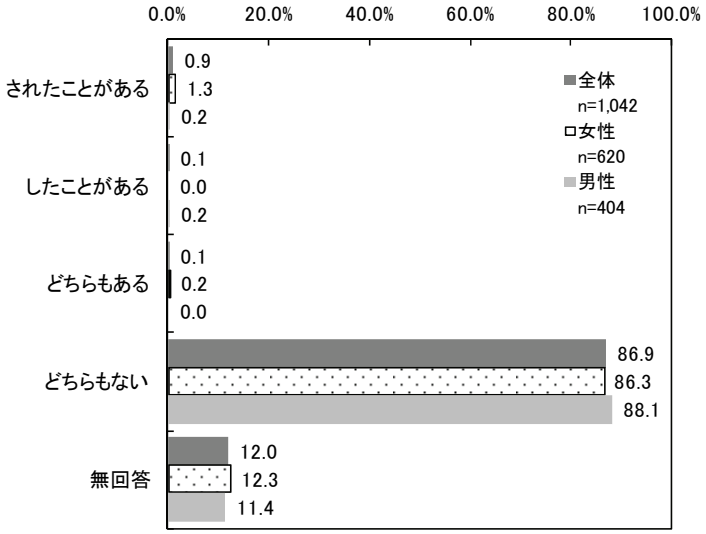
○手でたたく・突き飛ばす、足でける



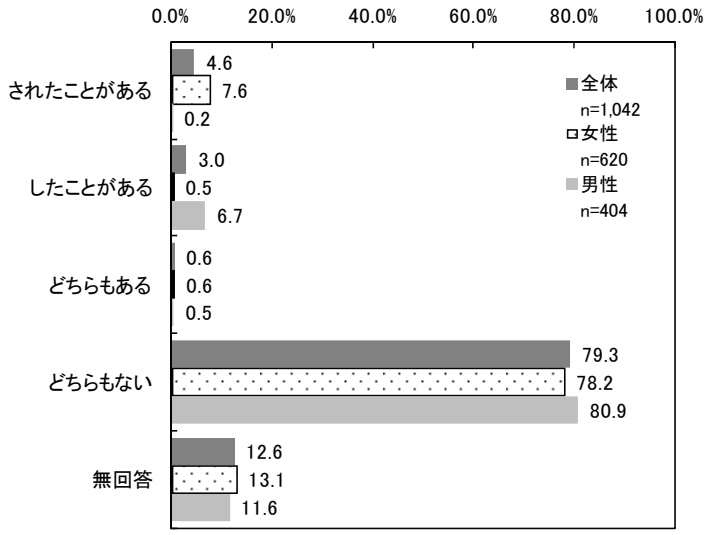
○身体を傷つける可能性のあるもので殴る



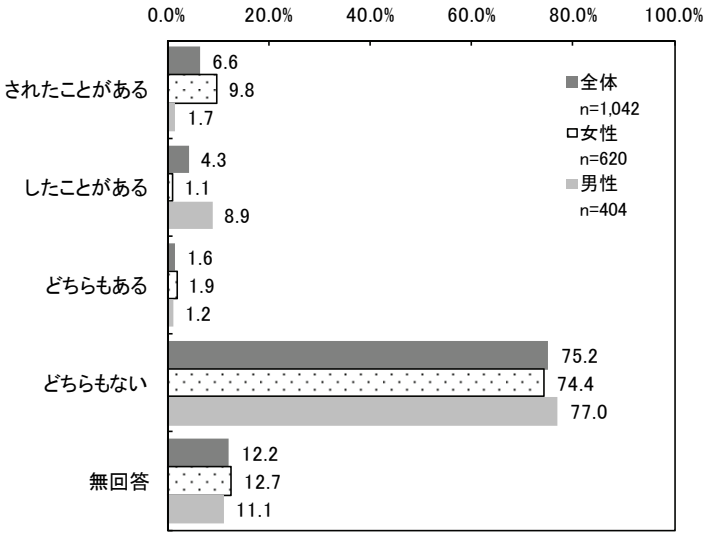
○命の危険を感じるほどの暴力



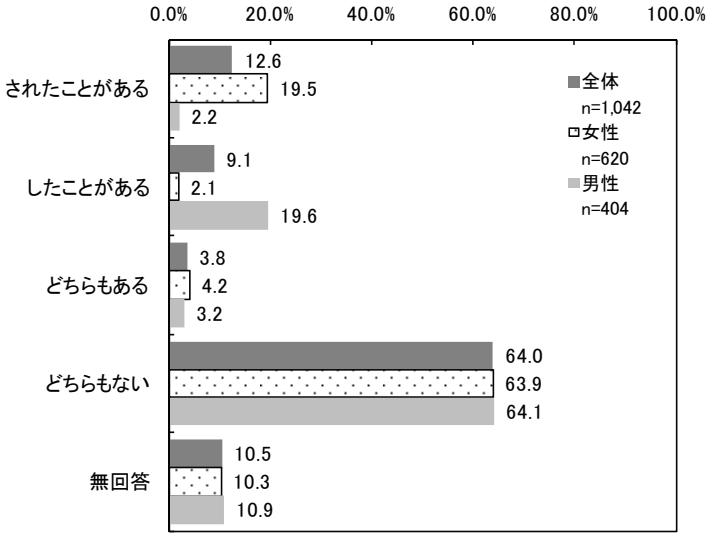
〇暴力をふるうふりをしておどす



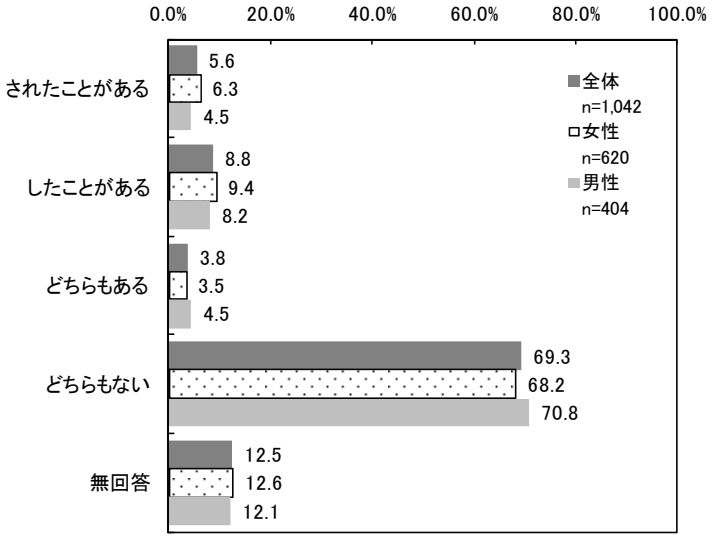
〇ものを投げたり壊したりしておどす



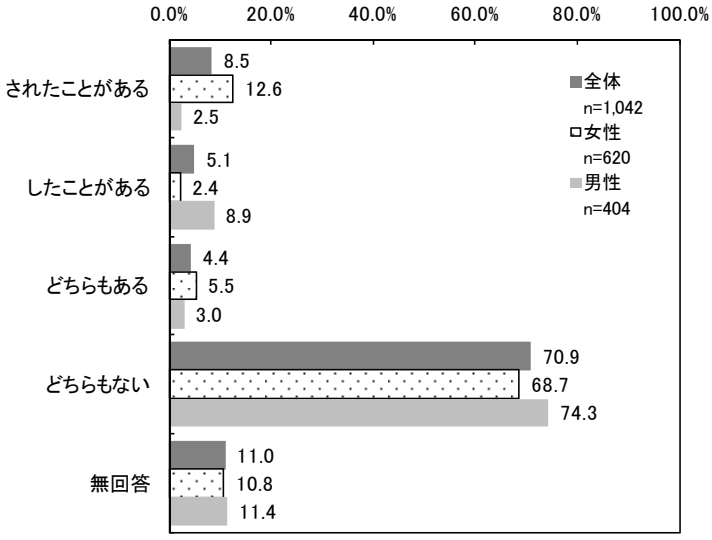
〇大声でどなって威嚇する



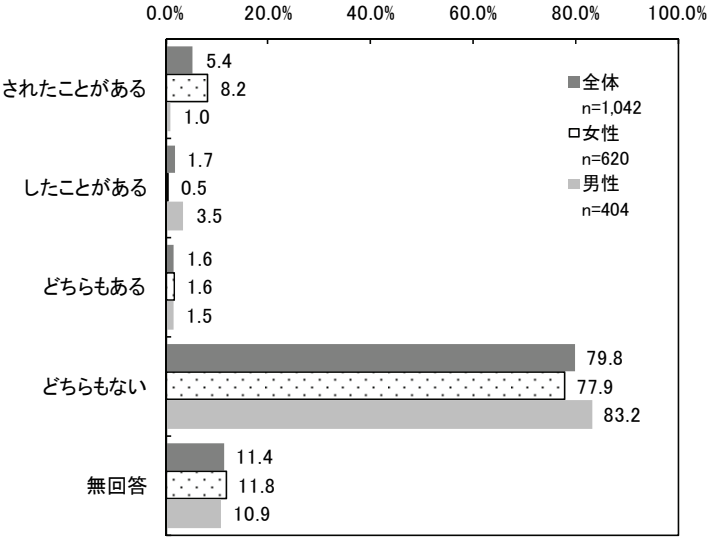
○何を言っても、長時間無視し続ける



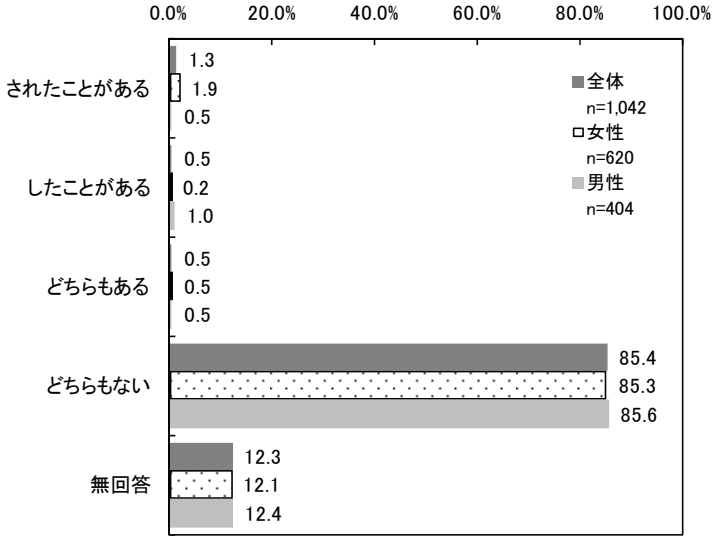
○「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をする



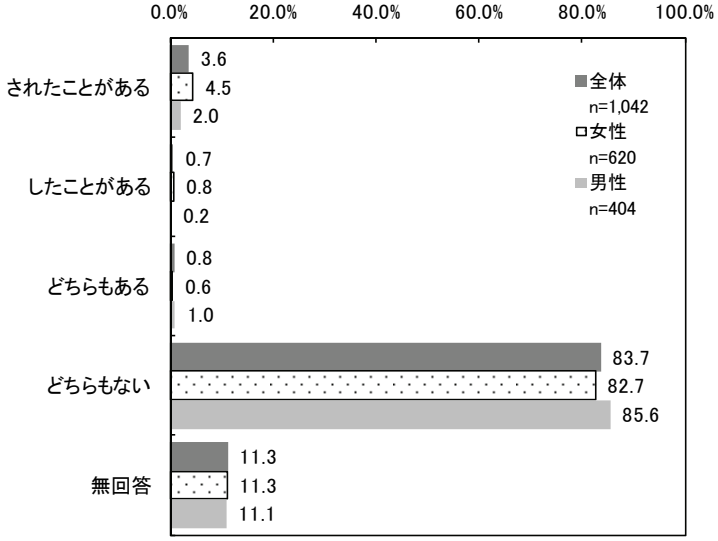
○「誰のおかげで生活できるんだ」とか「安月給」「甲斐性なし」「死ね」などとののしる



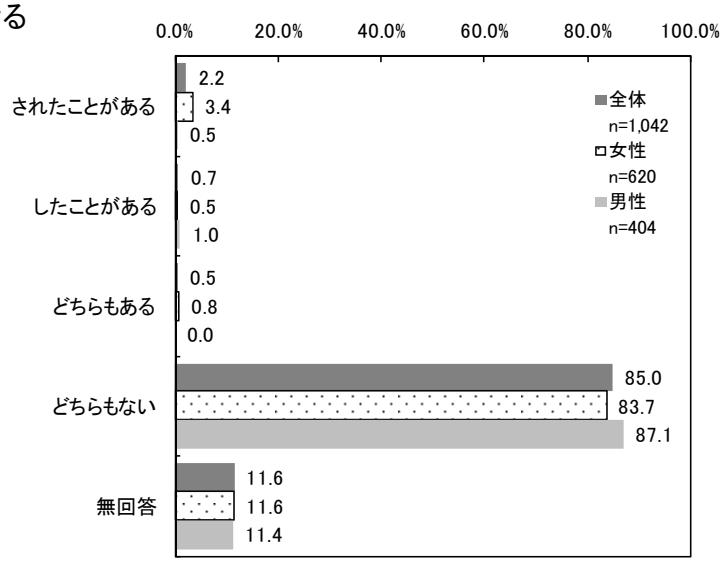
○社会活動や就職などをゆるさない



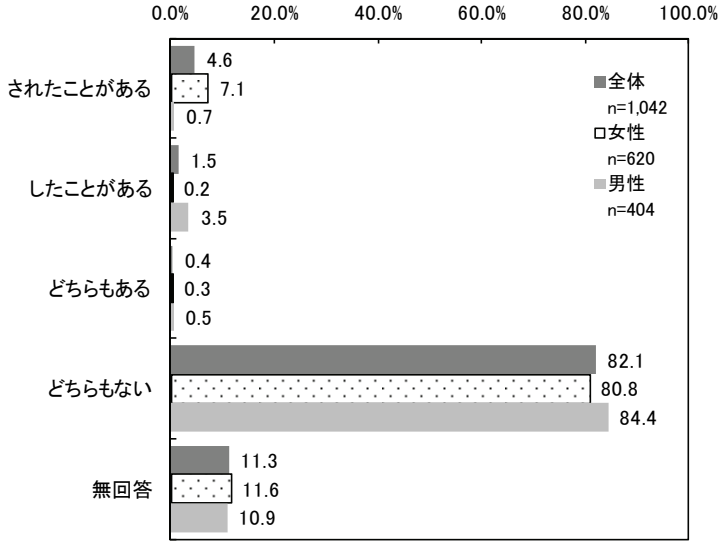
○交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する



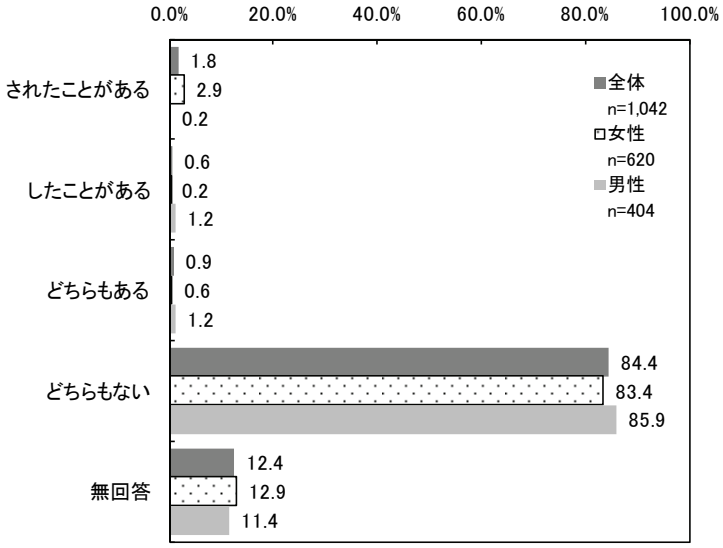
○生活費を渡さないなど、経済的に押さえつける



○嫌がっているのに性的行為を強要する



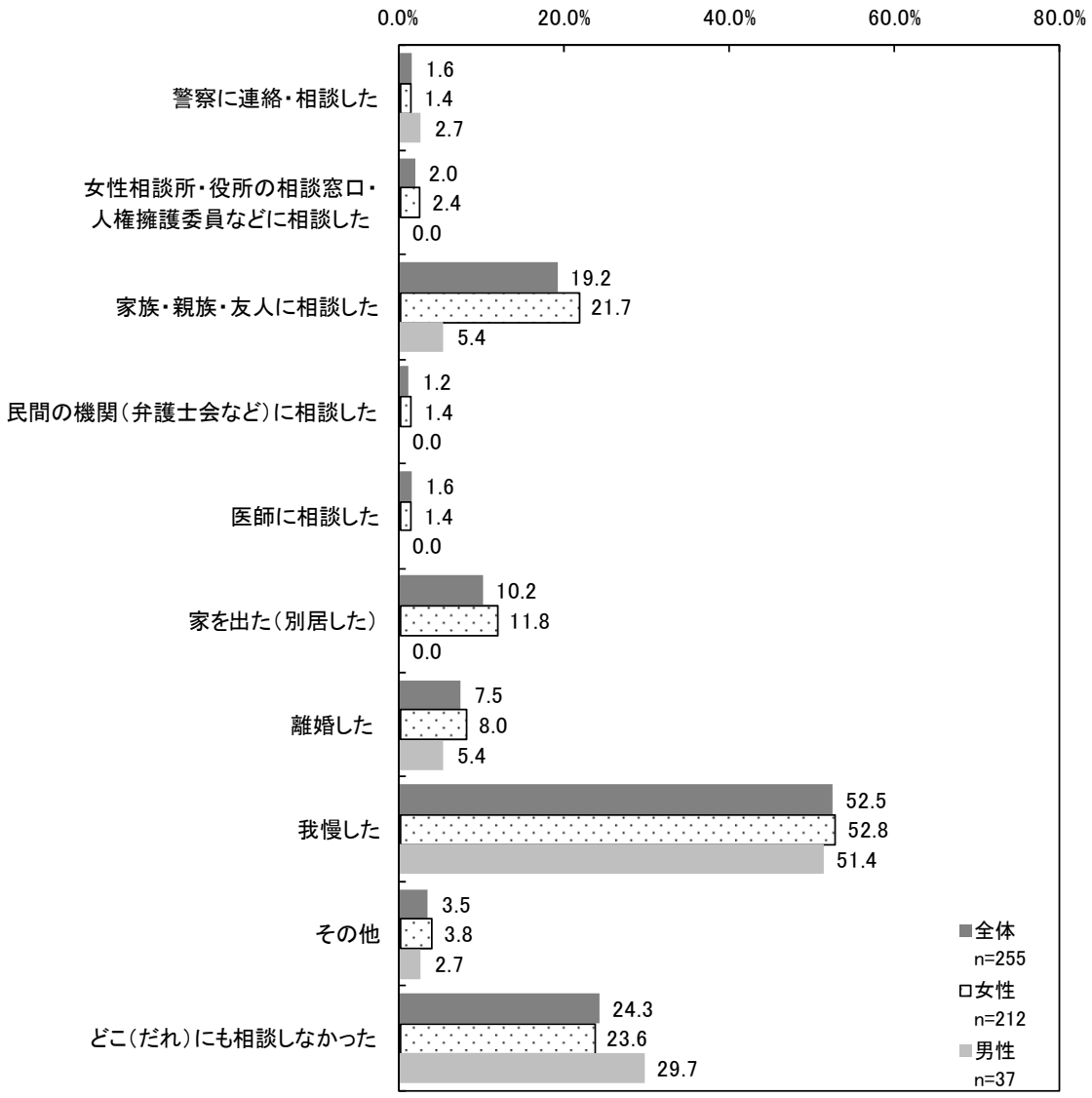
○避妊に協力しない



（3）DVを受けた際の対応

※問 19－①で1つでも「されたことがある」とお答えの方にお聞きします。該当しない方は問 20 へお進みください。
問 19－② あなたはそのような行為を受けた時、どうしましたか。次の中で、当てはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

1つでも被害経験のあった人（255 人）を対象に対応の内容を質問した。結果は、「我慢した」（52.5%）が最も多く、次いで「どこ（だれ）にも相談しなかった」（24.3%）、「家族・親族・友人に相談した」（19.2%）が続いている。



【性別】

性別にみると、いずれも「我慢した」との回答が最も多く、これに「どこ（誰）にも相談しなかった」が続いている。「家族、親族、友人に相談した」では女性の割合が男性の割合を大きく上回っている。

【性・年代別】

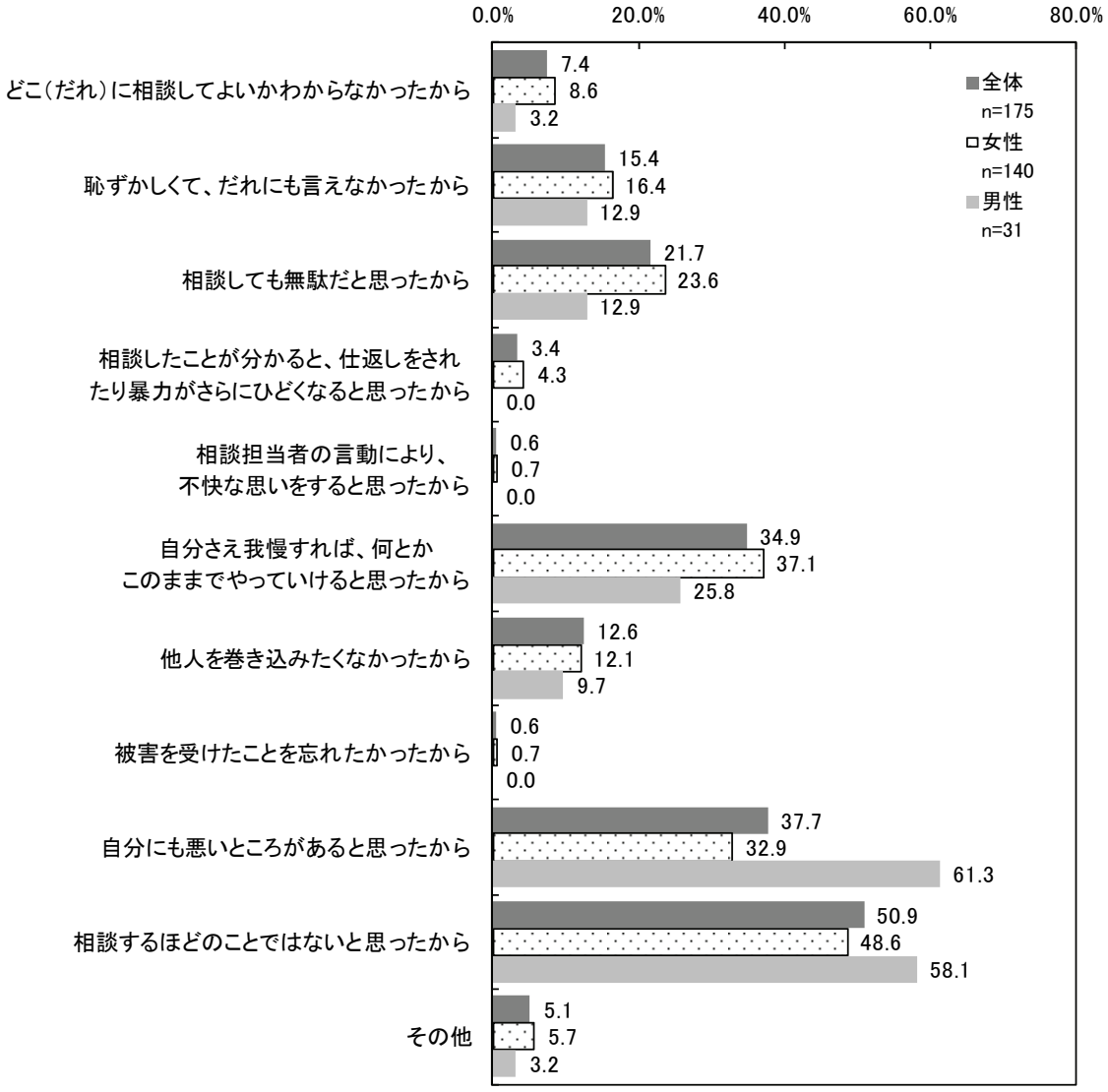
性・年代別にみると、女性では 20 歳代と 30 歳代で「家族、親族、友人に相談した」との回答が最も多く、このほかでは「我慢した」との回答が最も多くなっている。男性は、サンプル数が少ないことから特徴は読み取れない。

		合計	警察に連絡・相談した	女性相談所・役所の相談窓口・人権擁護委員などに相談した	家族・親族・友人に相談した	民間の機関（弁護士会など）に相談した	医師に相談した	家を出た（別居した）	離婚した	我慢した	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった
全体		255	1.6%	2.0%	19.2%	1.2%	1.6%	10.2%	7.5%	52.5%	3.5%	24.3%
■性年代別												
女性	20歳代	8	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	37.5%	0.0%	25.0%
	30歳代	30	6.7%	6.7%	33.3%	0.0%	6.7%	13.3%	10.0%	43.3%	13.3%	26.7%
	40歳代	27	0.0%	0.0%	18.5%	0.0%	0.0%	14.8%	22.2%	55.6%	7.4%	22.2%
	50歳代	37	0.0%	5.4%	18.9%	5.4%	0.0%	16.2%	8.1%	45.9%	2.7%	21.6%
	60歳代	56	0.0%	0.0%	21.4%	1.8%	0.0%	5.4%	3.6%	60.7%	0.0%	21.4%
	70歳代	43	2.3%	2.3%	18.6%	0.0%	2.3%	14.0%	7.0%	55.8%	2.3%	27.9%
	80歳以上	11	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	54.5%	0.0%	18.2%
男性	20歳代	4	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%
	30歳代	7	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	57.1%	0.0%	28.6%
	40歳代	3	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	33.3%
	50歳代	9	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	55.6%	0.0%	22.2%
	60歳代	9	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	22.2%
	70歳代	4	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%
	80歳以上	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答		6	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	50.0%	0.0%	16.7%

（4）我慢した、相談しなかった理由

※問 19－②で「8. 我慢した」や「10. どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。該当しない方は問 20 へお進みください。
問 19－③ それはなぜですか。次の中から当てはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

「どこ（だれ）にも相談しなかった」人（175 人）にその理由を質問した結果、「相談するほどのことではないと思ったから」（50.9%）との回答が最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」（37.7%）、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（34.9%）、「相談しても無駄だと思ったから」（21.7%）などが高い割合を占めている。



【性別】

性別にみると、「相談するほどのことではないと思った」（女性 48.6%、男性 58.1%）では男性の割合が高くなっており、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」（女性 37.1%、男性 25.8%）、「相談しても無駄だと思った」（女性 23.6%、男性 12.9%）では、女性の割合が高くなっている。

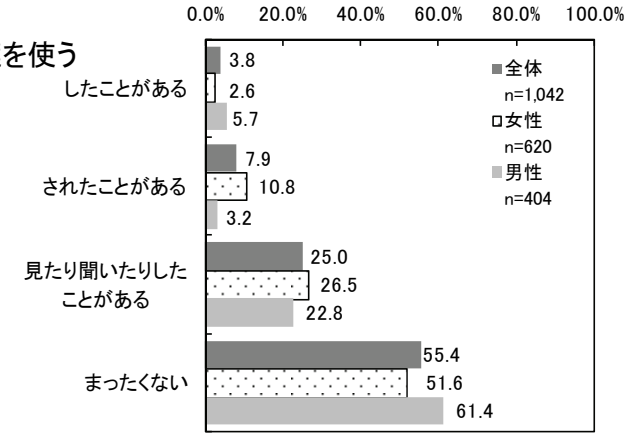
8．男女間でのセクハラについて

（1）セクハラの被害・加害経験

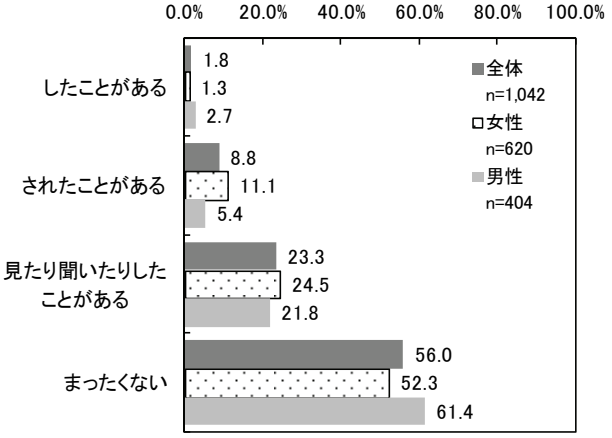
問 20－①　次のような行為はセクハラ（性的嫌がらせ）ですが、あなたは職場の上司や同僚・学校・地域などで、したりされたりしたことがありますか。次のA～Jについて、当てはまる番号を選び、○で囲んでください。

全体では「まったくない」との回答が最も多くなっているが、「男のくせに･･･女のくせに･･･など差別的な言葉を使う」「結婚はまだ、子どもはまだ、としつこく言う」「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」では、「見たり聞いたりしたことがある」との回答が 20％台となっている。「男のくせに、女のくせになど差別的な言葉を使う」「結婚はまだ、子どもはまだ、としつこく言う」「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」「接待や宴会で、酌やデュエット、ダンスを強要する」「触る、抱きつく、しつこく付きまとう」では、女性の被害経験者が 10％前後となっている。

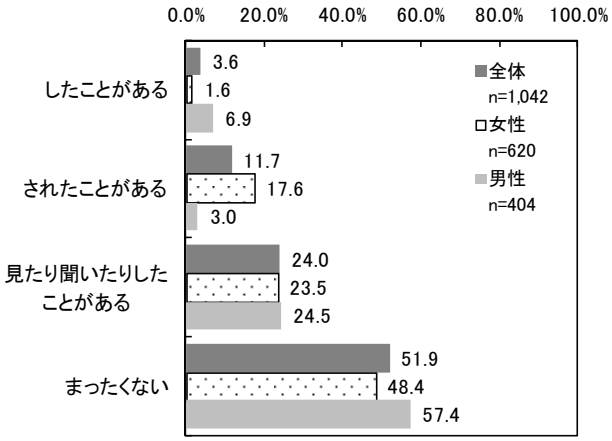
○「男のくせに･･･」、「女のくせに･･･」など差別的な言葉を使う



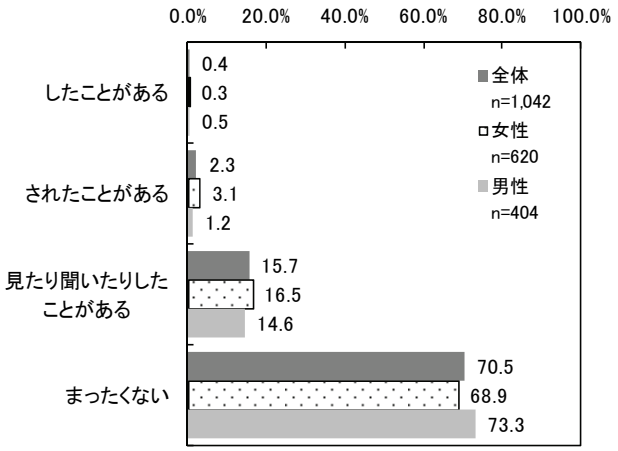
○「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う



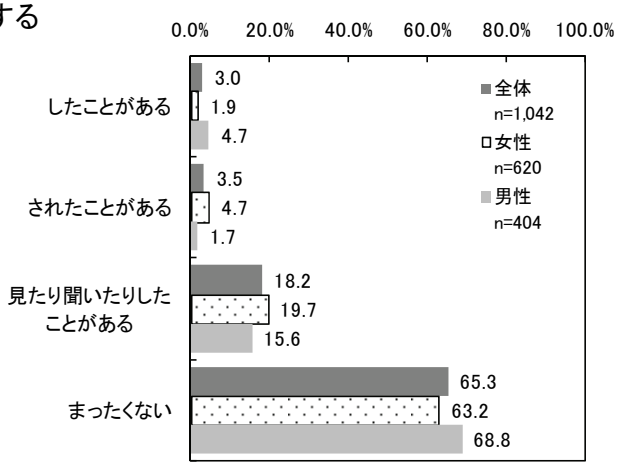
○性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う



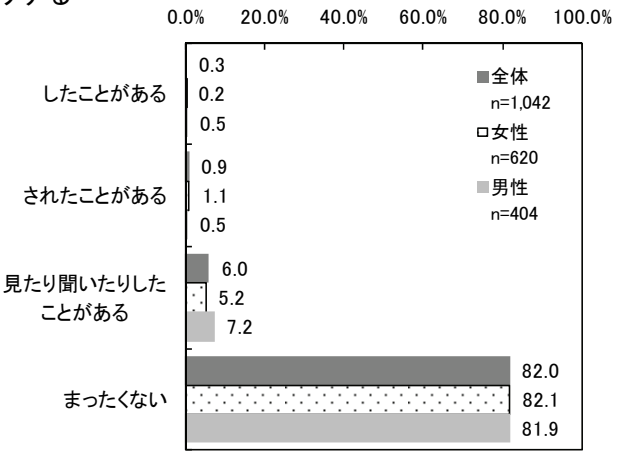
○異性関係は派手だなどと、性的な噂（うわさ）をながす



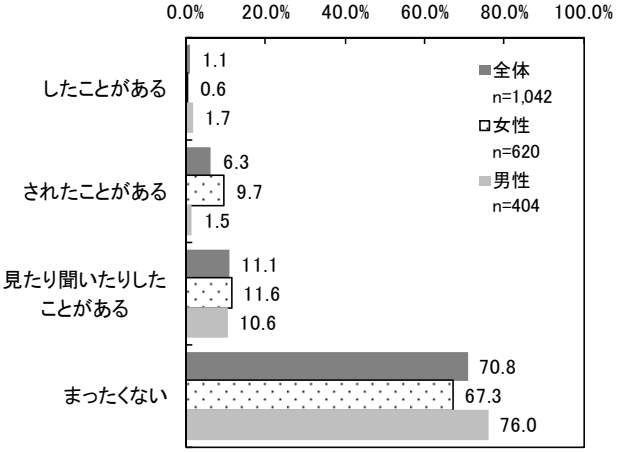
○異性の同僚をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする



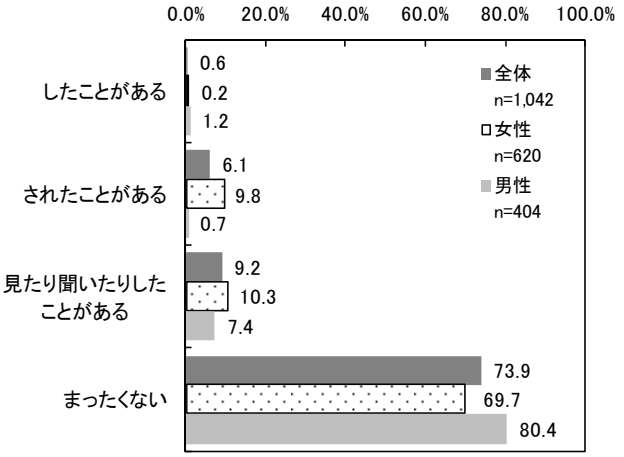
○ヌード写真やわいせつな本を飾ったり見せびらかしたりする



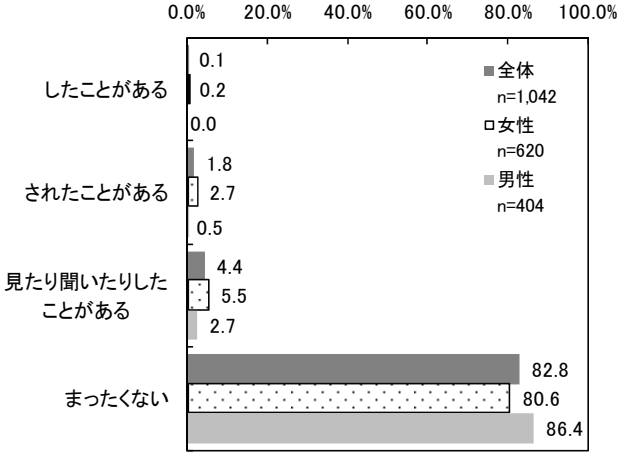
○接待や宴会で、酌やデュエット、ダンスを強要する



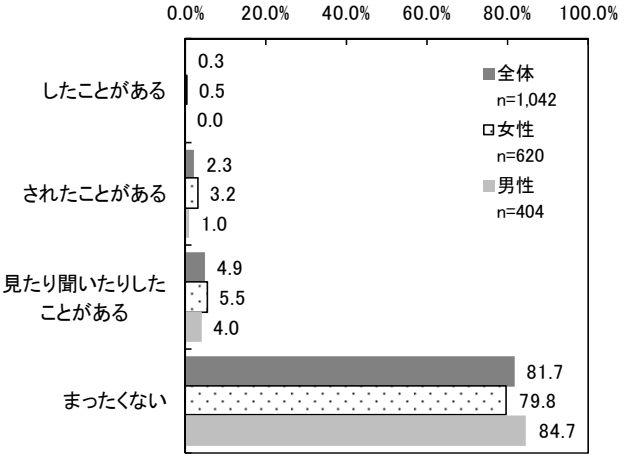
○触る、抱きつく、しつこく付きまとう



○地位や権限を利用して、性的関係を迫る



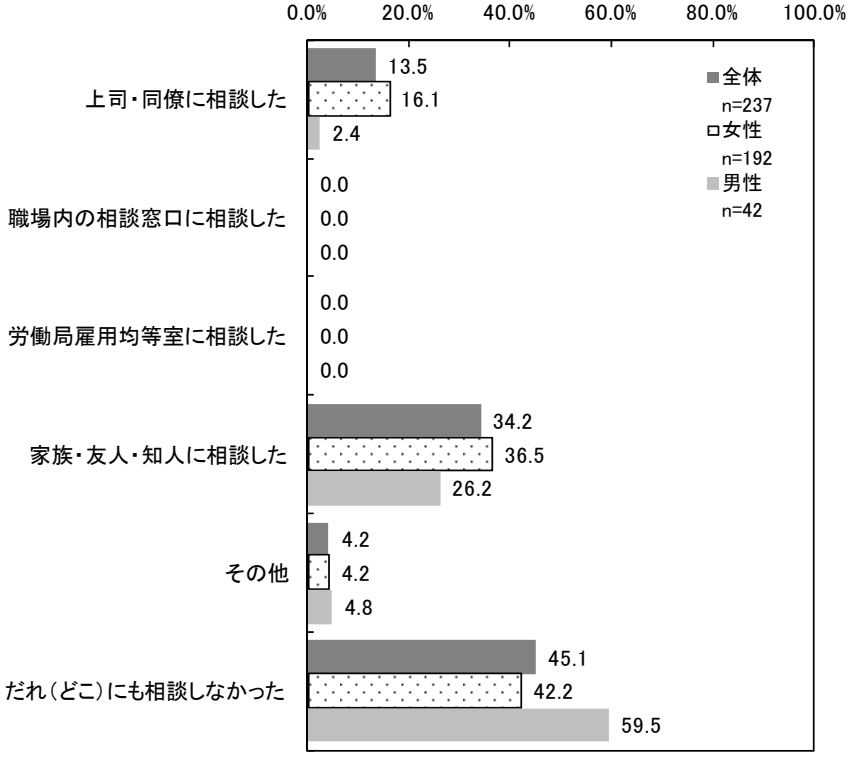
○携帯電話やパソコンのメールでしつこく誘う



(2)セクハラを受けた際の対応

※問 20－①で 1 つでも「されたことがある」と答えた方にお尋ねします。該当しない方は問 21 へ進んでください。
問 20－② そのことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中から当てはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

1つでも被害経験のあった人(237 人)に相談の状況を質問した。結果をみると、「だれ(どこ)にも相談しなかった」(45.1%)との回答が最も多く、次いで「家族、友人、知人に相談した」(34.2%)、「上司、同僚に相談した」(13.5%)が続いている。



【性別】

性別にみると、「だれ(どこ)にも相談しなかった」とする対応は男性の割合が高く(女性 42.2%、男性 59.5%)、「家族、友人、知人に相談した」(女性 36.5%、男性 26.2%)、「上司、同僚に相談した」(女性 16.1%、男性 2.4%)とする身近な人への相談については、女性の割合が高くなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の 20 歳代から 60 歳代にかけては「家族、友人、知人に相談した」との回答が多くなっており、比較的若い年代で人に相談した割合が高くなっている。一方、男性では、いずれの年代でも「だれ(どこ)にも相談しなかった」が多くなっている。

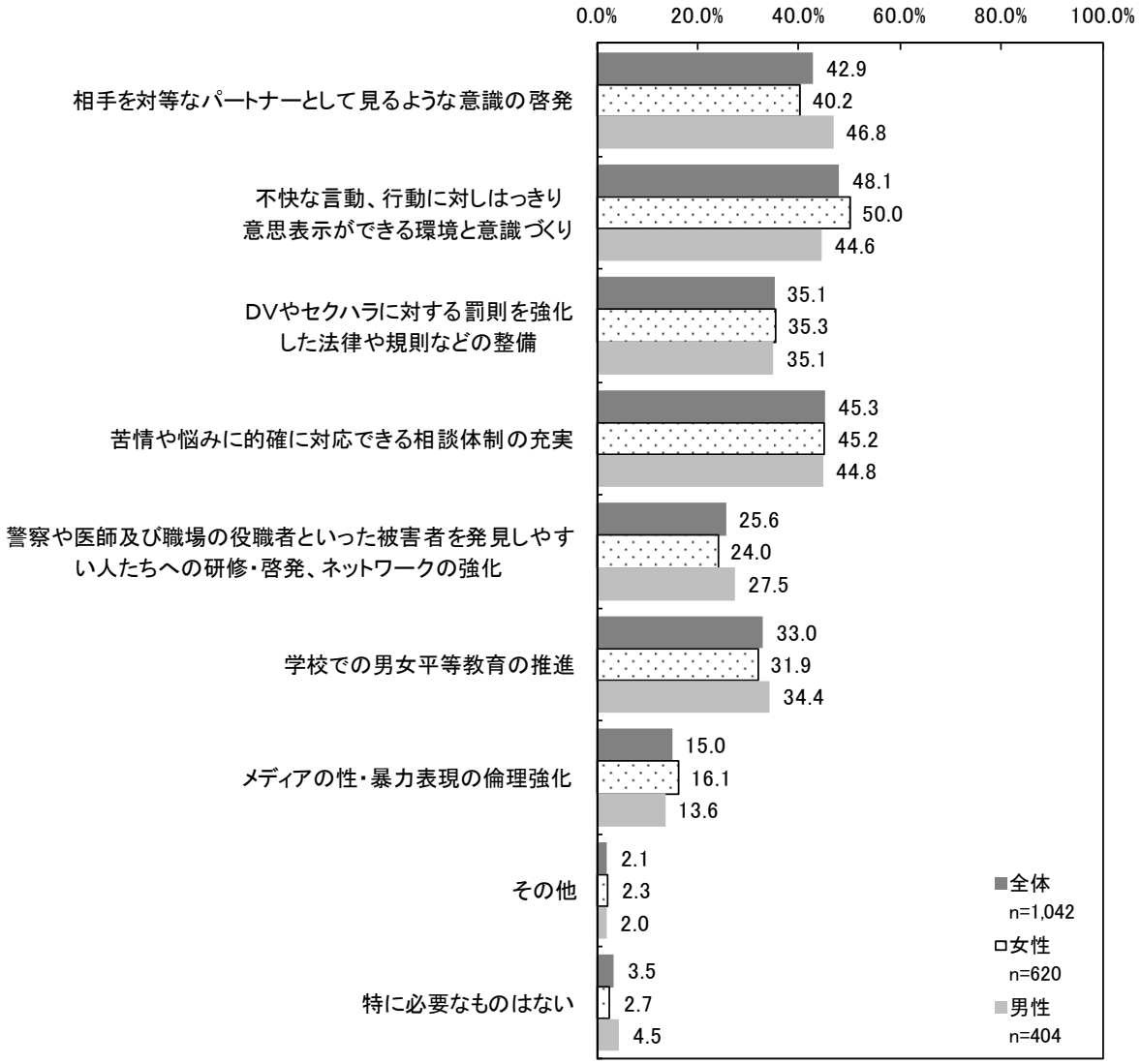
		合計	上司・同僚に相談した	職場内の相談窓口に相談した	労働局雇用均等室に相談した	家族・友人・知人に相談した	その他	だれ(どこ)にも相談しなかった
全体		237	13.5%	0.0%	0.0%	34.2%	4.2%	45.1%
■性年代別								
女性	20歳代	22	13.6%	0.0%	0.0%	40.9%	4.5%	40.9%
	30歳代	37	29.7%	0.0%	0.0%	40.5%	5.4%	40.5%
	40歳代	40	20.0%	0.0%	0.0%	45.0%	0.0%	37.5%
	50歳代	40	15.0%	0.0%	0.0%	32.5%	7.5%	40.0%
	60歳代	30	6.7%	0.0%	0.0%	43.3%	0.0%	43.3%
	70歳代	19	0.0%	0.0%	0.0%	10.5%	10.5%	63.2%
	80歳以上	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
男性	20歳代	8	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	62.5%
	30歳代	10	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	50.0%
	40歳代	7	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	85.7%
	50歳代	11	9.1%	0.0%	0.0%	27.3%	0.0%	45.5%
	60歳代	5	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	80.0%
	70歳代	0	—	—	—	—	—	—
	80歳以上	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
無回答		4	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%

９．人権の尊重について

（1）人権侵害をあらゆる分野からなくすために必要なこと

問 21　DV やセクハラなどの人権侵害をあらゆる分野からなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

ドメスティックバイオレンス（DV）やセクシャル・ハラスメントをなくすための方策をたずねたところ、「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」（48.1％）との回答が最も多く、次いで「苦情や悩みに的確に対応できる組織体制の充実」（45.3％）、「相手を対等なパートナーとしてみるような意識の啓発」（42.9％）、「DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」（35.1％）、「学校での男女平等教育の推進」（33.0％）が続いている。



【性別】

性別にみると、「相手を対等なパートナーとしてみるような意識の啓発」では男性の割合が高く、「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」では、女性の割合が高くなっている。

【性・年代別】

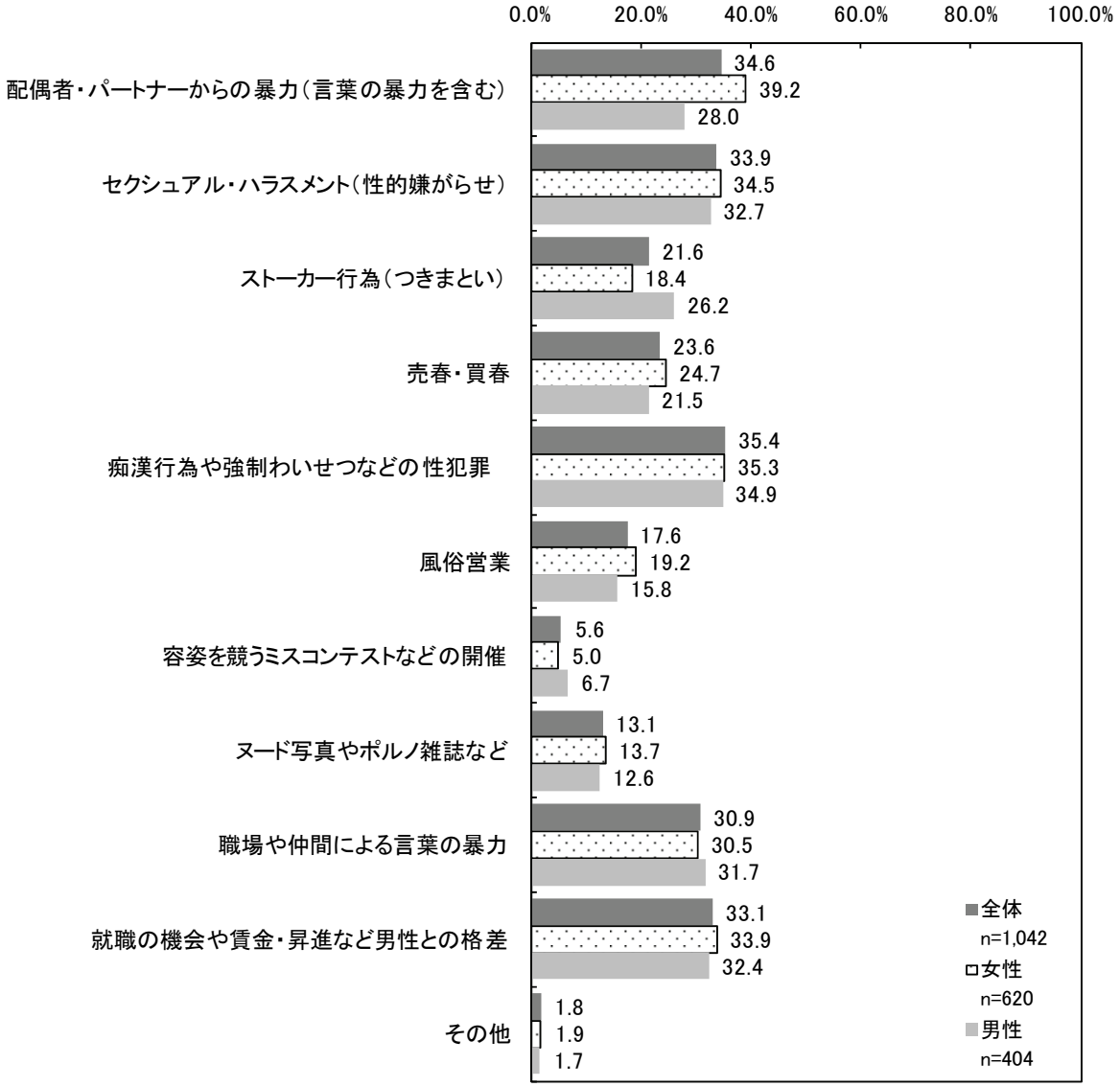
性・年代別では、女性では 30 歳代から 60 歳代で「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」との回答が多く、20 歳代と 40 歳代、50 歳代では「DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」との回答が多くなっている。男性では、20 歳代から 40 歳代では「警察や医師及び職場の役職者といった被害者を発見しやすい人たちへの研修・啓発、ネットワークの強化」が多くなっている。

		合計	相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発	不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり	DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備	苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実	警察や医師及び職場の役職者といった被害者を発見しやすい人たちへの研修・啓発、ネットワークの強化	学校での男女平等教育の推進	メディアの性・暴力表現の倫理強化	その他	特に必要なものはない
全体		1,042	42.9%	48.1%	35.1%	45.3%	25.6%	33.0%	15.0%	2.1%	3.5%
■性年代別											
女性	20歳代	44	43.2%	34.1%	52.3%	47.7%	36.4%	15.9%	13.6%	4.5%	2.3%
	30歳代	67	46.3%	53.7%	38.8%	43.3%	29.9%	32.8%	16.4%	3.0%	0.0%
	40歳代	79	36.7%	57.0%	40.5%	39.2%	13.9%	27.8%	13.9%	5.1%	2.5%
	50歳代	109	48.6%	56.0%	41.3%	52.3%	27.5%	33.9%	18.3%	2.8%	0.9%
	60歳代	142	40.8%	53.5%	34.5%	50.0%	23.9%	40.1%	19.7%	0.7%	1.4%
	70歳代	122	36.1%	48.4%	26.2%	42.6%	19.7%	31.1%	15.6%	1.6%	4.1%
	80歳以上	56	26.8%	32.1%	21.4%	33.9%	25.0%	28.6%	8.9%	0.0%	10.7%
男性	20歳代	29	58.6%	44.8%	27.6%	41.4%	37.9%	31.0%	10.3%	6.9%	6.9%
	30歳代	33	45.5%	51.5%	39.4%	42.4%	33.3%	30.3%	9.1%	0.0%	9.1%
	40歳代	39	43.6%	48.7%	51.3%	51.3%	35.9%	35.9%	17.9%	2.6%	2.6%
	50歳代	66	43.9%	50.0%	37.9%	48.5%	22.7%	21.2%	7.6%	4.5%	1.5%
	60歳代	103	50.5%	44.7%	28.2%	45.6%	24.3%	47.6%	11.7%	0.0%	2.9%
	70歳代	90	47.8%	45.6%	30.0%	48.9%	27.8%	31.1%	21.1%	0.0%	5.6%
	80歳以上	44	36.4%	25.0%	43.2%	29.5%	22.7%	34.1%	13.6%	4.5%	6.8%
無回答		19	47.4%	57.9%	31.6%	52.6%	36.8%	31.6%	5.3%	0.0%	5.3%

（2）人権が尊重されていないと感じること

問 22　あなたが、男性および女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

男性及び女性の人権が尊重されていないと感じることでは、「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」（35.4%）との回答が最も多く、次いで「配偶者、パートナーからの暴力」（34.6%）、「セクシュアル・ハラスメント」（33.9%）、「就職の機会や賃金、昇進など男性との格差」（33.1%）、「職場や仲間による言葉の暴力」（30.9%）、「売春、買春」（23.6%）が続いている。



【性別】

性別にみると、「配偶者、パートナーからの暴力」では女性の割合が高く、「ストーカー行為（つきまとい）」では男性の割合が高くなっている。

【性・年代別】

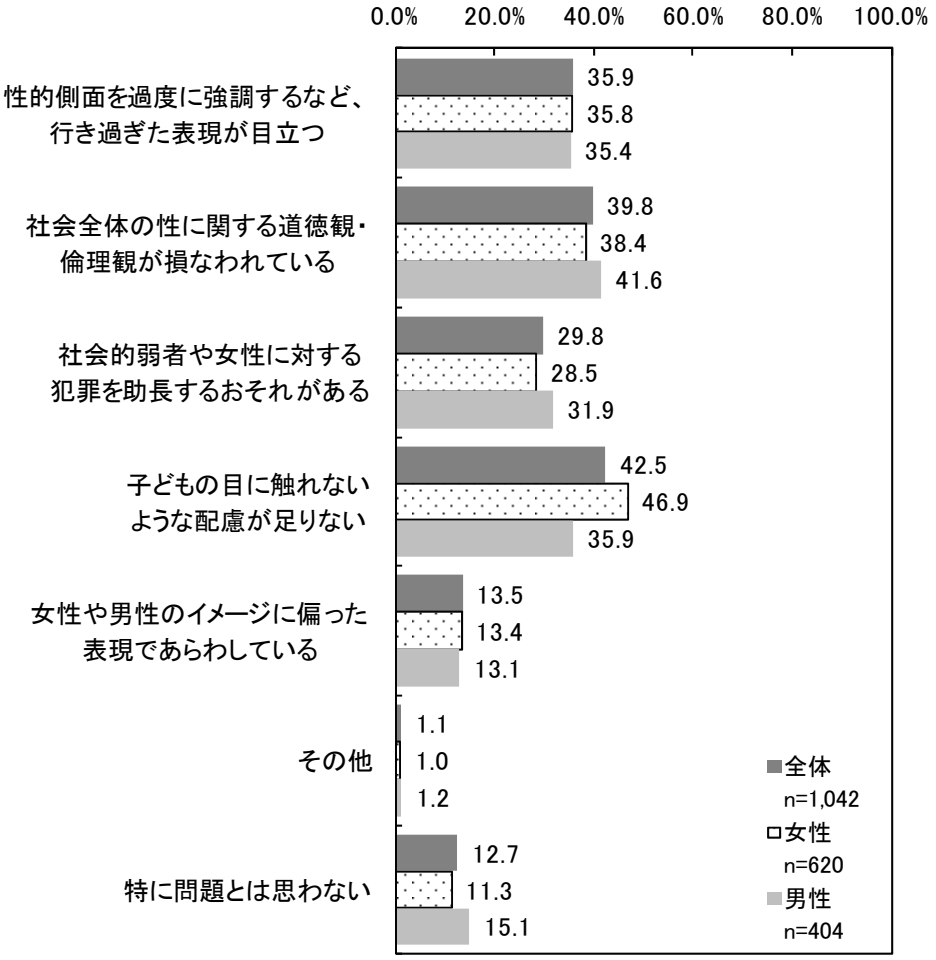
性・年代別にみると、女性の 20 歳代と 40 歳代から 50 歳代までは「配偶者、パートナーからの暴力」「セクシュアル・ハラスメント」との回答が他の年代層よりも多い。20 歳代から 50 歳代までは「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」、20 歳代から 40 歳代では「就職の機会や賃金、昇進など男性との格差」も多くなっている。一方、男性の 20 歳代、50 歳代から 70 歳代では「ストーカー行為（つきまとい）」が他の年代と比べ高くなっている。このほか 20 歳代では「セクシュアル・ハラスメント」「売春、買春」「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」「風俗営業」「容姿を競うミスコンテストなどの開催」「ヌード写真やポルノ雑誌など」の割合が他の年代と比べ高くなっている。

		合計	配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む）	セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）	ストーカー行為（つきまとい）	売春・買春	痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪	風俗営業	容姿を競うミスコンテストなどの開催	ヌード写真やポルノ雑誌など	職場や仲間による言葉の暴力	就職の機会や賃金・昇進など男性との格差	その他
全体		1,042	34.6%	33.9%	21.6%	23.6%	35.4%	17.6%	5.6%	13.1%	30.9%	33.1%	1.8%
■性年代別													
女性	20歳代	44	45.5%	47.7%	29.5%	34.1%	40.9%	18.2%	13.6%	11.4%	36.4%	40.9%	4.5%
	30歳代	67	38.8%	34.3%	10.4%	25.4%	41.8%	11.9%	3.0%	9.0%	31.3%	47.8%	1.5%
	40歳代	79	44.3%	46.8%	27.8%	26.6%	46.8%	22.8%	3.8%	15.2%	32.9%	48.1%	1.3%
	50歳代	109	45.9%	42.2%	23.9%	27.5%	44.0%	16.5%	6.4%	14.7%	34.9%	26.6%	1.8%
	60歳代	142	38.0%	33.1%	14.8%	26.1%	33.1%	26.1%	5.6%	12.7%	28.9%	34.5%	0.7%
	70歳代	122	32.0%	21.3%	13.9%	20.5%	24.6%	18.9%	3.3%	17.2%	28.7%	26.2%	4.1%
	80歳以上	56	33.9%	25.0%	16.1%	16.1%	19.6%	14.3%	1.8%	12.5%	23.2%	19.6%	0.0%
男性	20歳代	29	27.6%	44.8%	31.0%	48.3%	62.1%	27.6%	10.3%	20.7%	31.0%	27.6%	0.0%
	30歳代	33	30.3%	18.2%	6.1%	15.2%	27.3%	12.1%	12.1%	15.2%	30.3%	36.4%	3.0%
	40歳代	39	25.6%	41.0%	25.6%	25.6%	46.2%	17.9%	2.6%	10.3%	38.5%	41.0%	2.6%
	50歳代	66	25.8%	37.9%	30.3%	18.2%	31.8%	15.2%	6.1%	7.6%	28.8%	36.4%	3.0%
	60歳代	103	30.1%	35.9%	29.1%	19.4%	36.9%	15.5%	7.8%	9.7%	31.1%	35.9%	1.0%
	70歳代	90	27.8%	28.9%	26.7%	17.8%	27.8%	12.2%	4.4%	13.3%	32.2%	24.4%	1.1%
	80歳以上	44	27.3%	18.2%	22.7%	20.5%	25.0%	15.9%	6.8%	20.5%	29.5%	27.3%	2.3%
無回答		19	26.3%	42.1%	26.3%	31.6%	52.6%	0.0%	0.0%	5.3%	26.3%	26.3%	0.0%

10. メディアにおける性・暴力表現に関する意識について

問 23 メディア(テレビや映画、出版物)における性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

メディアにおける性・暴力表現に対する意識をみると、「子どもの目に触れないような配慮が足りない」(42.5%)が最も多く、次いで、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」(39.8%)、「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」(35.9%)、「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長する恐れがある」(29.8%)が続いている。



【性別】

性別にみると、「子どもの目に触れないような配慮が足りない」については男性に比べ女性の割合が高くなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の 30 歳代から 70 歳代までは「子どもの目に触れないような配慮が足りない」との回答が他の年代層よりも多い。60 歳代から 70 歳代までは「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が多くなっている。一方、男性の 50 歳代から 80 歳以上では「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が他の年代と比べ高くなっている。

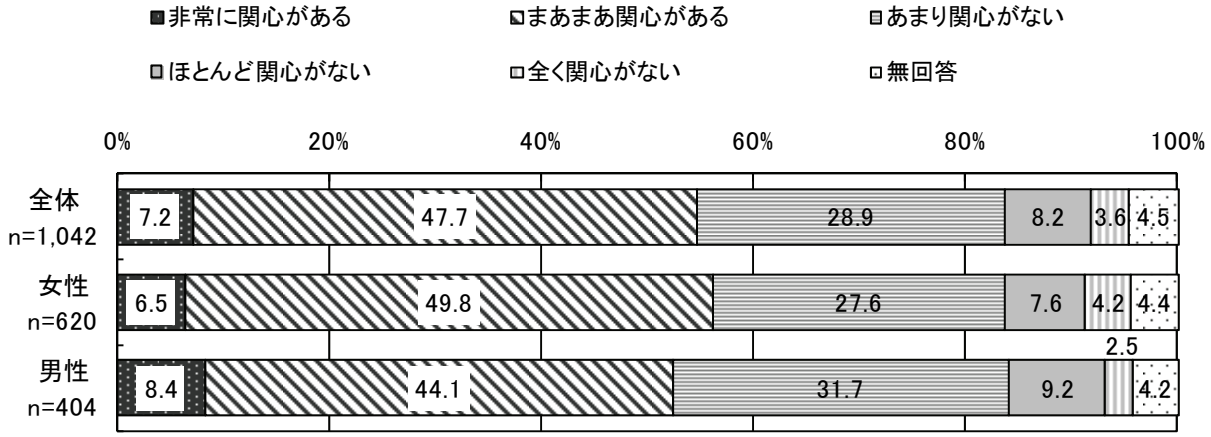
		合計	性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある	子どもの目に触れないような配慮が足りない	女性や男性のイメージに偏った表現であらわしている	その他	特に問題とは思わない
全体		1,042	35.9%	39.8%	29.8%	42.5%	13.5%	1.1%	12.7%
■性年代別									
女性	20歳代	44	15.9%	18.2%	22.7%	40.9%	22.7%	4.5%	27.3%
	30歳代	67	14.9%	22.4%	23.9%	47.8%	16.4%	1.5%	20.9%
	40歳代	79	32.9%	29.1%	25.3%	49.4%	12.7%	0.0%	17.7%
	50歳代	109	34.9%	41.3%	32.1%	49.5%	18.3%	2.8%	8.3%
	60歳代	142	46.5%	49.3%	31.7%	47.9%	14.8%	0.0%	4.2%
	70歳代	122	44.3%	50.0%	29.5%	46.7%	7.4%	0.0%	9.0%
	80歳以上	56	35.7%	28.6%	28.6%	39.3%	5.4%	0.0%	7.1%
男性	20歳代	29	13.8%	27.6%	27.6%	34.5%	17.2%	0.0%	41.4%
	30歳代	33	27.3%	33.3%	36.4%	30.3%	18.2%	3.0%	15.2%
	40歳代	39	28.2%	25.6%	33.3%	35.9%	17.9%	5.1%	23.1%
	50歳代	66	39.4%	45.5%	30.3%	39.4%	19.7%	3.0%	16.7%
	60歳代	103	40.8%	46.6%	35.0%	35.9%	13.6%	0.0%	6.8%
	70歳代	90	40.0%	45.6%	28.9%	27.8%	6.7%	0.0%	15.6%
	80歳以上	44	36.4%	45.5%	29.5%	52.3%	4.5%	0.0%	6.8%
無回答		19	47.4%	47.4%	26.3%	42.1%	21.1%	0.0%	5.3%

11. 男女共同参画に関するご意見やご要望

(1)男女共同参画をテーマにする話題への関心

問 24 あなたは、男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

男女平等や男女共同参画をテーマにする話題への関心については、「まあまあ関心がある」が 47.7%で最も多く、次いで「あまり関心が無い」(28.9%)、「ほとんど関心が無い」(8.2%)、「非常に関心がある」(7.2%)、「まったく関心がない」(3.6%)となっている。『関心がある』(「非常に関心がある」+「まあまあ関心がある」)の割合は、全体の 54.9%を占めている。



【性別】

性別にみると、『関心がある』は女性の 56.3%に対し、男性は 52.5%と、女性の割合がわずかに高くなっている。

【性・年代別】

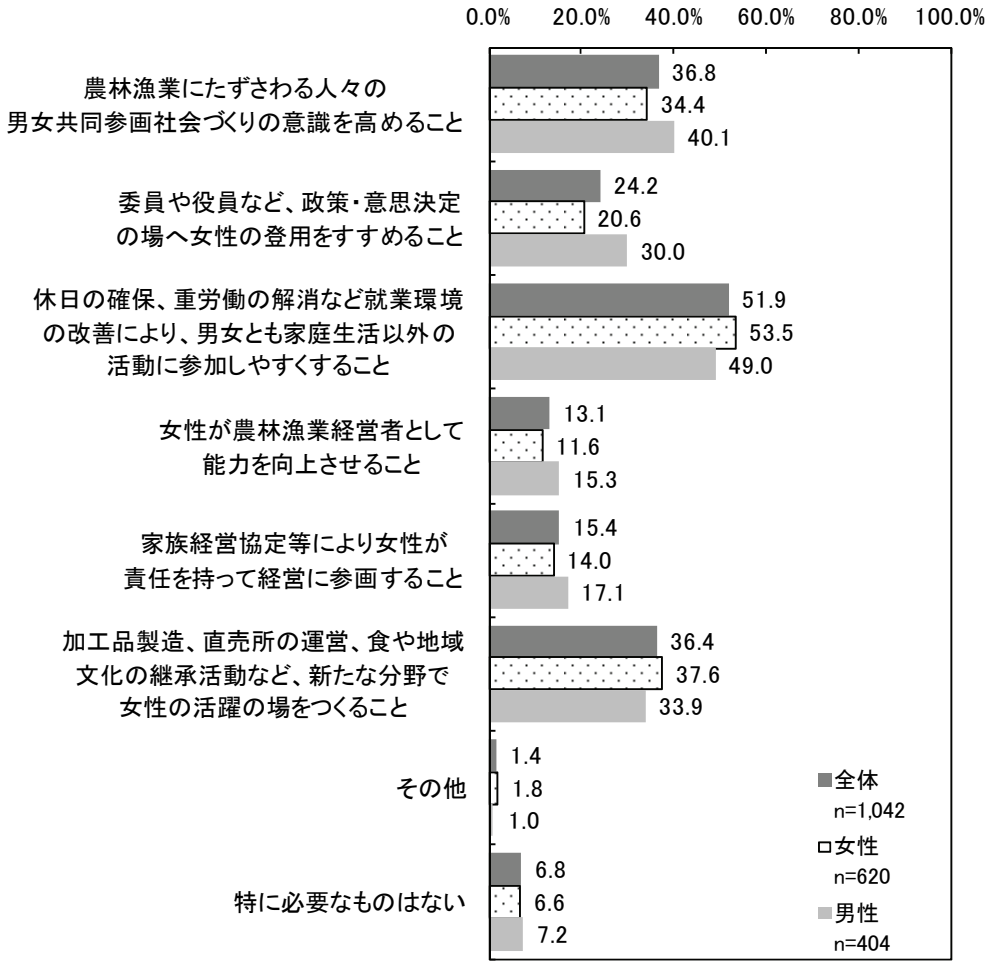
性・年代別にみると、女性ではいずれの年代も「まあまあ関心がある」との回答が多いが、20 歳代では「あまり関心がない」との回答が他の年代よりも高くなっている。一方、男性では、30 歳代で「ほとんど関心がない」との回答が最も多くなっており、『関心がない』(「あまり関心がない」+「ほとんど関心がない」+「全く関心がない」)の割合が 60.6%と過半数を超えている。このほかの年代では、いずれも「まあまあ関心がある」との回答が多く、『関心がある』の割合は、80 歳以上で 47.7%と半数を下回っているほかは、いずれも 50%以上を占めている。

		合計	非常に関心がある	まあまあ関心がある	あまり関心がない	ほとんど関心がない	全く関心がない	無回答
全体		1,042	7.2%	47.7%	28.9%	8.2%	3.6%	4.5%
■性年代別								
女性	20歳代	44	4.5%	47.7%	36.4%	6.8%	4.5%	0.0%
	30歳代	67	7.5%	50.7%	22.4%	11.9%	6.0%	1.5%
	40歳代	79	2.5%	55.7%	29.1%	6.3%	3.8%	2.5%
	50歳代	109	2.8%	53.2%	33.9%	8.3%	0.0%	1.8%
	60歳代	142	5.6%	53.5%	26.8%	6.3%	2.1%	5.6%
	70歳代	122	11.5%	45.1%	25.4%	4.1%	7.4%	6.6%
	80歳以上	56	10.7%	33.9%	21.4%	14.3%	8.9%	10.7%
男性	20歳代	29	6.9%	44.8%	31.0%	3.4%	13.8%	0.0%
	30歳代	33	3.0%	36.4%	18.2%	39.4%	3.0%	0.0%
	40歳代	39	7.7%	43.6%	38.5%	10.3%	0.0%	0.0%
	50歳代	66	7.6%	42.4%	39.4%	7.6%	0.0%	3.0%
	60歳代	103	5.8%	57.3%	26.2%	3.9%	1.9%	4.9%
	70歳代	90	12.2%	38.9%	32.2%	7.8%	2.2%	6.7%
	80歳以上	44	13.6%	34.1%	34.1%	6.8%	2.3%	9.1%
無回答		19	5.3%	57.9%	10.5%	5.3%	5.3%	15.8%

（2）農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なこと

問 25　農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なことは何だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○は3つまで）

農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なこととしては、「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」（51.9％）との回答が最も多く、次いで「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」（36.8％）、「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくる」（36.4％）が続いている。



【性別】

性別にみると、「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」と「委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること」では男性の割合が高く、一方、「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」と「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくる」では女性の割合がやや高くなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の 60 歳代では「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」との回答が他の年代層よりも多い。60 歳代から 70 歳代までは「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくる」が多くなっている。一方、男性の 70 歳代から 80 歳以上では「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」と「委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること」が他の年代と比べ高くなっている。「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」では50歳代での、「委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること」に関しては、30 歳代での回答も多くなっている。このほか、40歳代と80歳以上では「女性が農林漁業経営者として能力を向上させること」、40歳代と 60 歳代では「家族経営協定等により女性が責任を持って経営に参画すること」が他の年代と比べ高くなっている。

【居住地区別】

三角町では「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」と「家族経営協定等により女性が責任を持って経営に参画すること」、豊野町では「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」の割合が、他に比べやや高くなっている。

【本人の職業別】

本人の職業別では、自営業主で「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」「女性が農林漁業経営者として能力を向上させること」「家族経営協定等により女性が責任を持って経営に参画すること」、非正規雇用者で「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくる」の割合が高くなっている。主婦・主夫では「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくる」の割合が他の職業と比べ高くなっている。

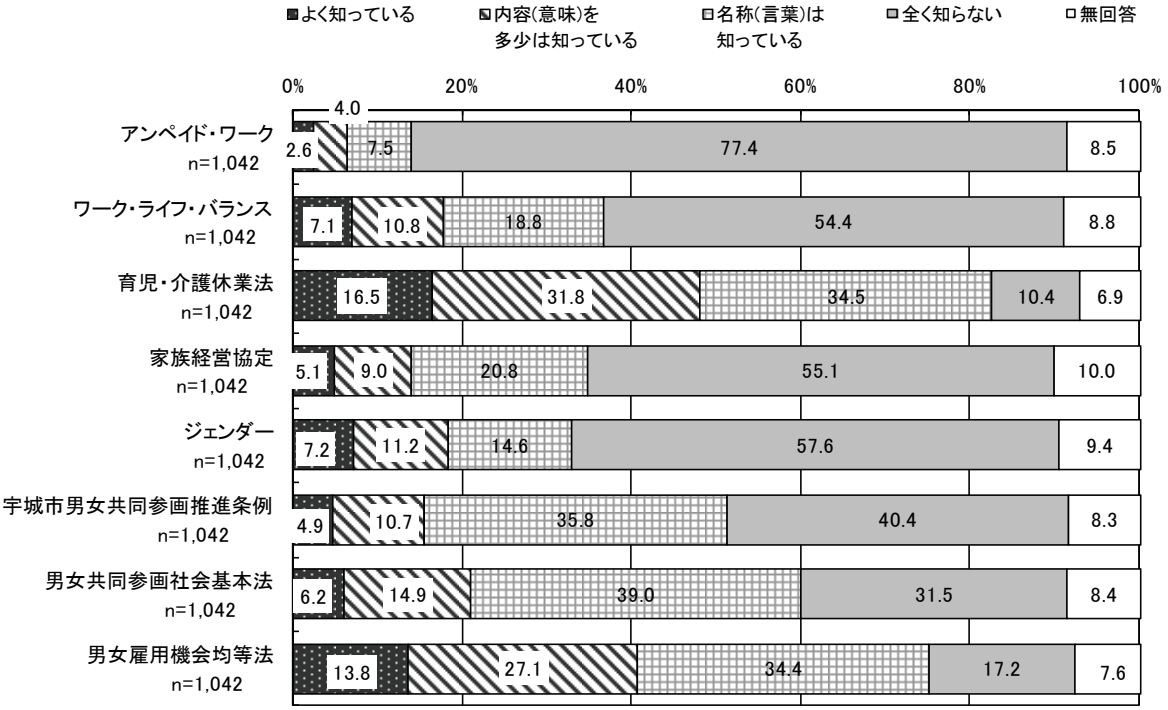
		合計	農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること	委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること	休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること	女性が農林漁業経営者として能力を向上させること	家族経営協定等により女性が責任を持って経営に参画すること	加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくること	その他	特に必要なものはない
全体		1,042	36.8%	24.2%	51.9%	13.1%	15.4%	36.4%	1.4%	6.8%
■性年代別										
女性	20歳代	44	38.6%	22.7%	54.5%	6.8%	9.1%	34.1%	4.5%	4.5%
	30歳代	67	35.8%	17.9%	56.7%	11.9%	13.4%	37.3%	1.5%	6.0%
	40歳代	79	25.3%	19.0%	53.2%	13.9%	8.9%	40.5%	3.8%	7.6%
	50歳代	109	34.9%	24.8%	56.9%	16.5%	12.8%	30.3%	1.8%	5.5%
	60歳代	142	38.0%	20.4%	58.5%	9.9%	18.3%	42.3%	0.7%	4.9%
	70歳代	122	37.7%	22.1%	53.3%	9.8%	18.9%	41.8%	1.6%	4.9%
	80歳以上	56	26.8%	14.3%	30.4%	10.7%	7.1%	30.4%	0.0%	17.9%
男性	20歳代	29	31.0%	24.1%	55.2%	10.3%	3.4%	27.6%	3.4%	10.3%
	30歳代	33	36.4%	39.4%	51.5%	15.2%	12.1%	24.2%	0.0%	12.1%
	40歳代	39	35.9%	28.2%	51.3%	20.5%	20.5%	35.9%	2.6%	7.7%
	50歳代	66	53.0%	21.2%	48.5%	18.2%	16.7%	34.8%	3.0%	4.5%
	60歳代	103	34.0%	30.1%	55.3%	12.6%	22.3%	36.9%	0.0%	3.9%
	70歳代	90	42.2%	34.4%	43.3%	13.3%	15.6%	37.8%	0.0%	7.8%
	80歳以上	44	43.2%	31.8%	38.6%	20.5%	18.2%	29.5%	0.0%	11.4%
無回答		19	36.8%	15.8%	63.2%	15.8%	21.1%	42.1%	0.0%	5.3%
■居住地区別										
三角町		142	33.8%	20.4%	57.0%	15.5%	21.1%	40.1%	0.7%	3.5%
不知火町		168	40.5%	22.0%	47.0%	14.9%	8.9%	32.1%	3.0%	6.0%
松橋町		428	36.4%	26.6%	53.3%	13.1%	15.2%	37.6%	0.9%	5.1%
小川町		213	34.7%	23.9%	48.8%	11.7%	16.4%	35.2%	0.9%	10.8%
豊野町		68	36.8%	20.6%	57.4%	10.3%	16.2%	36.8%	4.4%	14.7%
無回答		23	52.2%	30.4%	43.5%	8.7%	17.4%	30.4%	0.0%	4.3%
■職業別										
自営業主		109	42.2%	26.6%	39.4%	19.3%	20.2%	27.5%	1.8%	6.4%
家族従事者		61	39.3%	13.1%	54.1%	18.0%	13.1%	26.2%	0.0%	9.8%
正規雇用者		238	39.9%	24.4%	54.2%	12.6%	13.4%	33.2%	2.1%	5.0%
非正規雇用者		175	32.0%	25.1%	52.0%	13.1%	13.7%	42.3%	2.3%	6.9%
主婦・主夫		183	36.1%	24.0%	59.0%	10.9%	17.5%	42.6%	1.1%	5.5%
学生		12	8.3%	16.7%	58.3%	8.3%	16.7%	25.0%	0.0%	16.7%
無職		235	35.3%	26.4%	50.2%	11.9%	14.9%	38.7%	0.9%	8.9%
その他		13	38.5%	30.8%	46.2%	7.7%	15.4%	38.5%	0.0%	0.0%
無回答		16	43.8%	6.3%	37.5%	12.5%	18.8%	18.8%	0.0%	6.3%

(3)男女共同参画に関する用語の認知度

問 26 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを選んでください。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

男女共同参画に関する用語について8項目の認知度をたずねた。

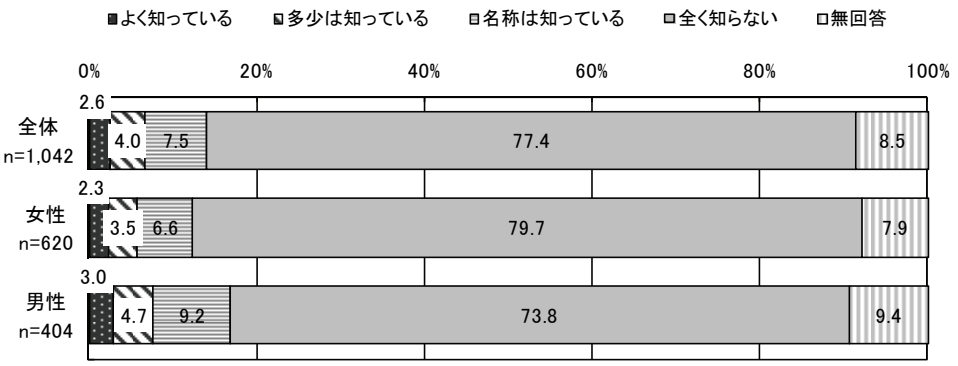
『認知度』(「よく知っている」+「内容(意味)を多少は知っている」+「名称(言葉)は知っている」)をみると、「育児・介護休業法」が 82.8%で最も高く、これに次ぐ「男女雇用機会均等法」(75.3%)、「男女共同参画社会基本法」(60.1%)、「宇城市男女共同参画推進条例」(51.4%)では、いずれも過半数の回答を得ている。一方、認知度が低いもの(「全く知らない」)では、「アンペイド・ワーク」(77.4%)、「ジェンダー」(57.6%)、「家族経営協定」(55.1%)、「ワーク・ライフ・バランス」(54.4%)となっている。



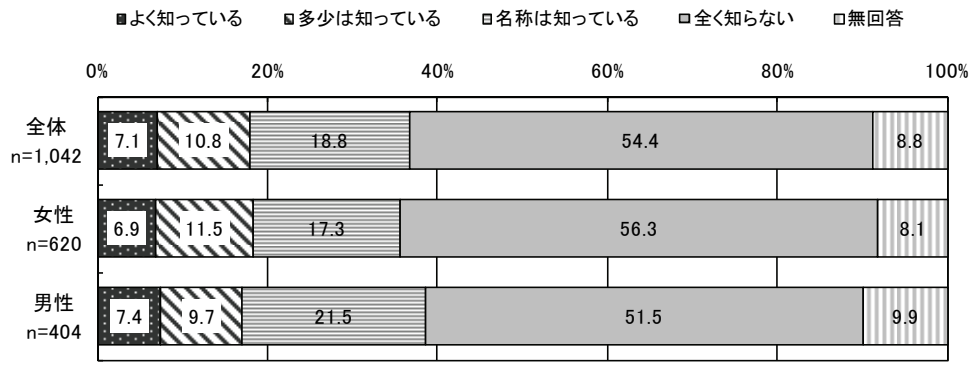
【性別】

性別にみると、全体に男性の方で認知度がやや高くなっているが、「ジェンダー」については、女性の認知度が高くなっている。

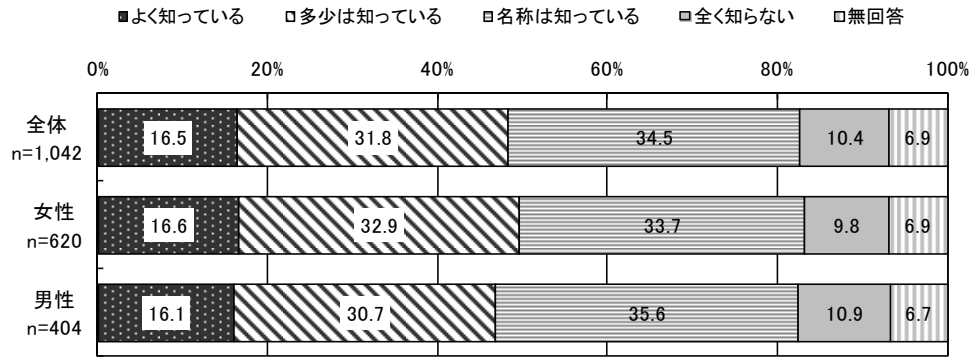
○アンペイド・ワーク



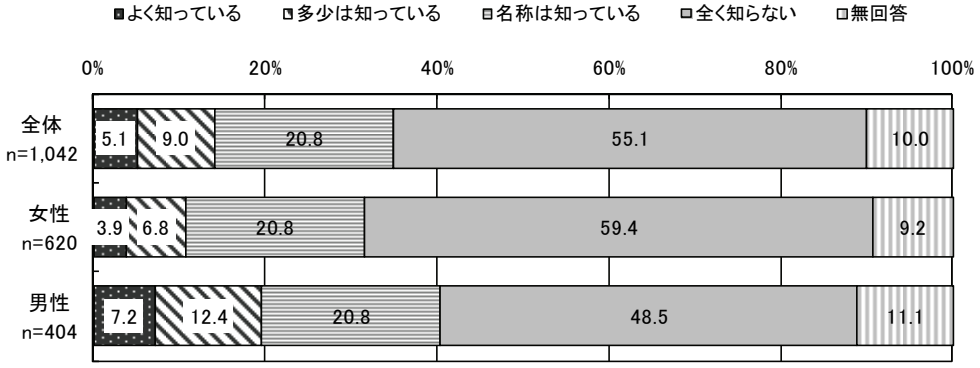
○ワーク・ライフ・バランス



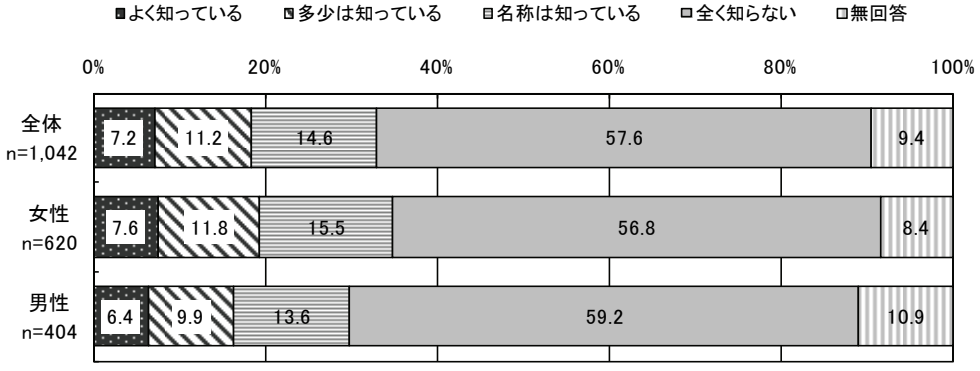
○育児・介護休業法



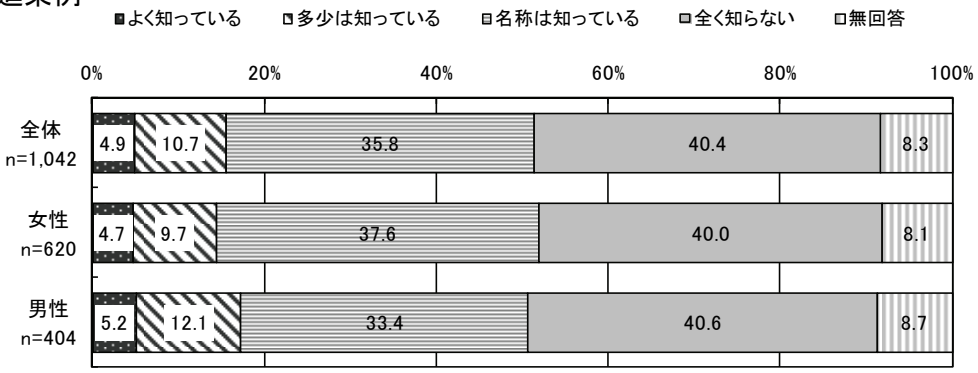
○家族経営協定



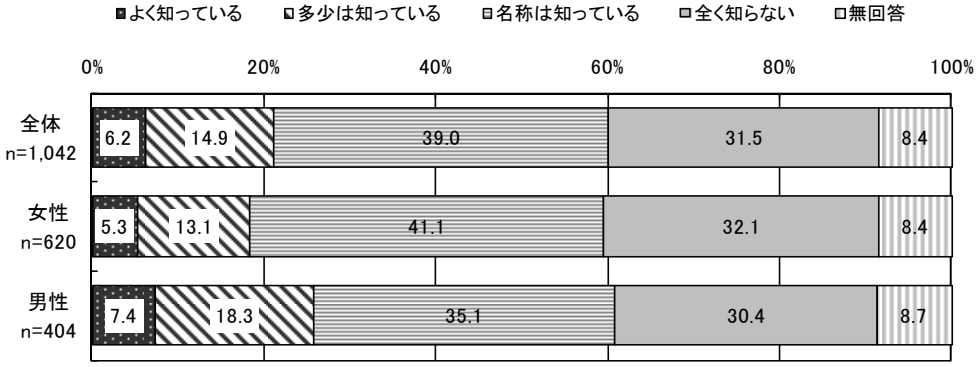
○ジェンダー



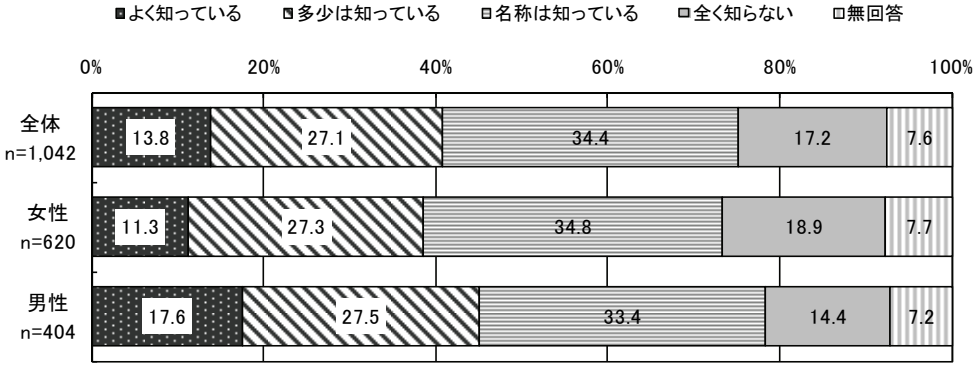
○宇城市男女共同参画推進条例



○男女共同参画社会基本法



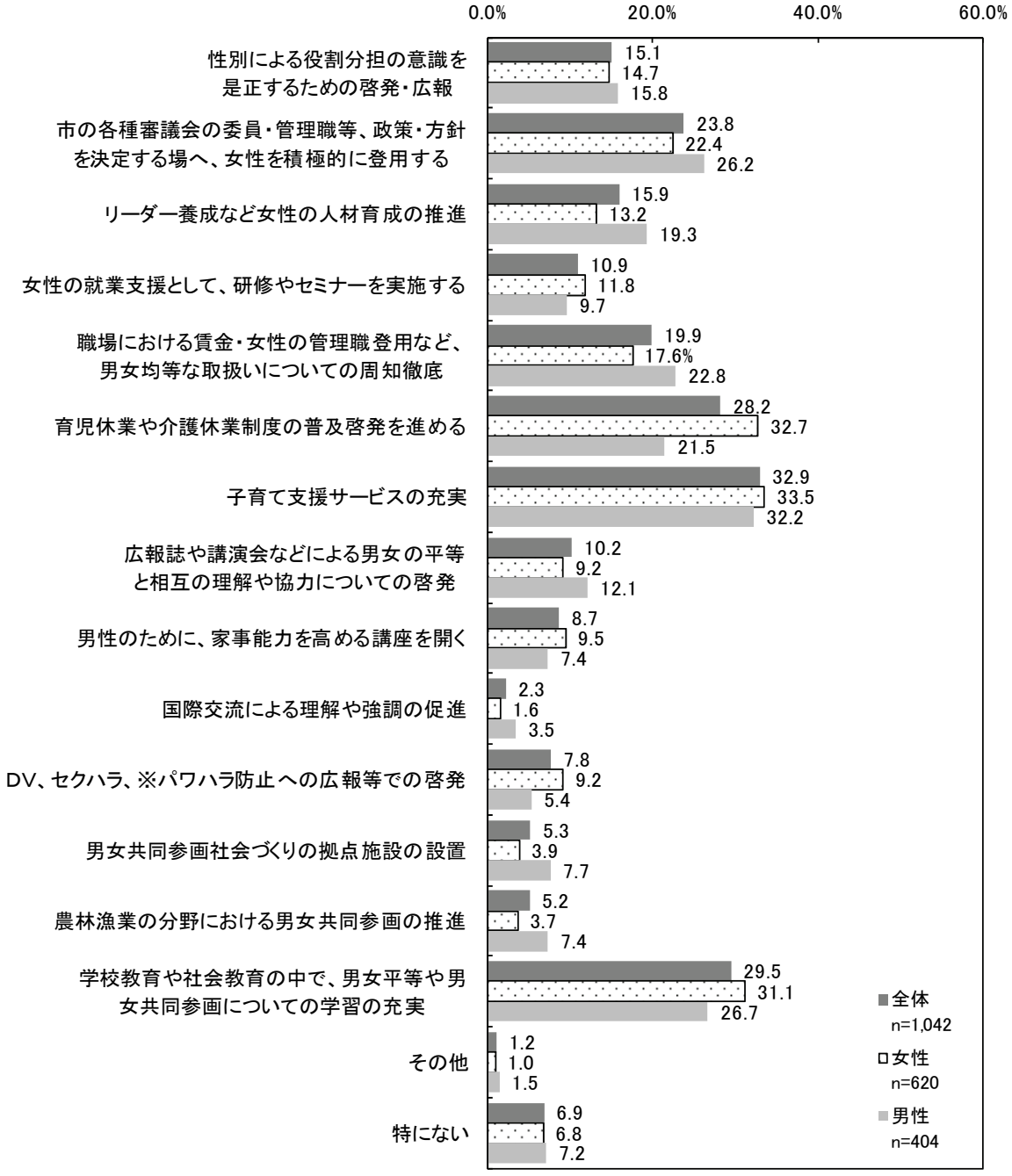
○男女雇用機会均等法



(4)宇城市の施策に望むもの

問 27 「男女共同参画社会」を実現していくために、宇城市の施策に望むものは何ですか。あてはまる番号に○をつけてください。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

男女共同参画社会を実現していくために、宇城市の施策に望むものとしては「子育て支援サービスの充実」(32.9%)が最も多い。次いで「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実」(29.5%)、「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」(28.2%)、「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」(23.8%)、「職場における賃金・女性の管理職登用など、男女均等な扱いについての周知徹底」(19.9%)、「リーダー養成など女性の人員育成の推進」(15.9%)が続いている。



【性別】

性別にみると、女性では「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」の割合が高く、男性では「リーダー養成など女性の人員育成の推進」での割合が高くなっている。

なお、「子育て支援サービスの充実」については、性別にかかわりなく高い割合となっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の 20 歳代から 60 歳代では「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」との回答が他の年代層よりも多い。20 歳代から 30 歳代までは「職場における賃金・女性の管理職登用など、男女均等な扱いについての周知徹底」、20 歳代から 40 歳代までは「子育て支援サービスの充実」が多くなっている。一方、男性の 20 歳代から 50 歳代までは「子育て支援サービスの充実」が他の年代と比べ高くなっている。「女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する」に関しては、20 歳代と 30 歳代での回答も多くなっている。このほか、40 歳代と 50 歳代では「リーダー養成など女性の人員育成の推進」、40 歳代と 70 歳代では「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」が他の年代と比べ高くなっている。

【居住地区別】

三角町では、他に比べ「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」の割合が高くなっている。

		合計	性別による役割分担の意識を是正するための啓発・広報	市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する	リーダー養成など女性の人材育成の推進	女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する	職場における賃金・女性の管理職登用など、男女均等な取扱いについての周知徹底	育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める	子育て支援サービスの充実	広報誌や講演会などによる男女の平等と相互の理解や協力についての啓発	男性のために、家事能力を高める講座を開く	国際交流による理解や強調の促進	DV、セクハラ、※パワハラ防止への広報等での啓発	男女共同参画社会づくりの拠点施設の設置	農林漁業の分野における男女共同参画の推進	学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実	その他	特にない
全体		1,042	15.1%	23.8%	15.9%	10.9%	19.9%	28.2%	32.9%	10.2%	8.7%	2.3%	7.8%	5.3%	5.2%	29.5%	1.2%	6.9%
■性年代別																		
女性	20歳代	44	13.6%	6.8%	4.5%	18.2%	25.0%	40.9%	56.8%	2.3%	9.1%	0.0%	13.6%	0.0%	2.3%	13.6%	4.5%	2.3%
	30歳代	67	11.9%	19.4%	10.4%	11.9%	28.4%	34.3%	55.2%	1.5%	9.0%	1.5%	4.5%	1.5%	0.0%	35.8%	3.0%	3.0%
	40歳代	79	11.4%	17.7%	16.5%	15.2%	16.5%	36.7%	38.0%	5.1%	2.5%	2.5%	6.3%	5.1%	5.1%	30.4%	1.3%	6.3%
	50歳代	109	18.3%	26.6%	17.4%	10.1%	21.1%	35.8%	35.8%	5.5%	6.4%	1.8%	16.5%	4.6%	8.3%	28.4%	0.9%	6.4%
	60歳代	142	14.1%	21.8%	14.1%	10.6%	12.7%	37.3%	27.5%	10.6%	13.4%	2.1%	9.9%	3.5%	4.2%	43.7%	0.0%	8.5%
	70歳代	122	14.8%	30.3%	12.3%	11.5%	14.8%	22.1%	25.4%	18.9%	13.1%	1.6%	7.4%	4.1%	2.5%	29.5%	0.0%	5.7%
	80歳以上	56	16.1%	19.6%	10.7%	8.9%	10.7%	25.0%	12.5%	12.5%	7.1%	0.0%	3.6%	7.1%	1.8%	17.9%	0.0%	14.3%
男性	20歳代	29	10.3%	6.9%	3.4%	17.2%	27.6%	27.6%	44.8%	6.9%	17.2%	6.9%	10.3%	0.0%	6.9%	31.0%	3.4%	10.3%
	30歳代	33	6.1%	21.2%	18.2%	15.2%	21.2%	27.3%	42.4%	6.1%	9.1%	3.0%	0.0%	0.0%	6.1%	24.2%	0.0%	9.1%
	40歳代	39	20.5%	38.5%	25.6%	5.1%	30.8%	25.6%	35.9%	5.1%	0.0%	2.6%	12.8%	10.3%	7.7%	33.3%	2.6%	5.1%
	50歳代	66	19.7%	27.3%	28.8%	10.6%	22.7%	15.2%	40.9%	9.1%	12.1%	6.1%	3.0%	9.1%	9.1%	19.7%	3.0%	4.5%
	60歳代	103	15.5%	22.3%	19.4%	6.8%	19.4%	23.3%	31.1%	16.5%	2.9%	2.9%	5.8%	10.7%	11.7%	28.2%	0.0%	5.8%
	70歳代	90	17.8%	34.4%	14.4%	10.0%	23.3%	20.0%	20.0%	16.7%	5.6%	1.1%	5.6%	8.9%	3.3%	23.3%	1.1%	11.1%
	80歳以上	44	13.6%	22.7%	20.5%	9.1%	20.5%	15.9%	27.3%	11.4%	13.6%	4.5%	2.3%	4.5%	2.3%	34.1%	2.3%	4.5%
無回答		19	15.8%	21.1%	31.6%	10.5%	36.8%	26.3%	26.3%	0.0%	15.8%	0.0%	10.5%	0.0%	5.3%	31.6%	0.0%	5.3%
■居住地区別																		
三角町		142	13.4%	31.0%	19.0%	11.3%	12.7%	24.6%	27.5%	12.7%	9.9%	2.1%	5.6%	7.7%	8.5%	31.7%	0.0%	7.7%
不知火町		168	11.9%	18.5%	9.5%	13.7%	23.2%	32.7%	35.1%	7.7%	7.7%	1.8%	7.1%	5.4%	6.5%	23.8%	1.2%	7.1%
松橋町		428	15.4%	24.1%	18.0%	9.6%	19.4%	28.0%	37.1%	11.0%	9.1%	2.3%	8.4%	3.7%	4.4%	32.7%	1.6%	5.1%
小川町		213	17.8%	21.6%	14.1%	12.7%	20.7%	28.2%	29.1%	8.9%	8.9%	2.8%	8.9%	7.5%	2.8%	26.3%	1.4%	8.5%
豊野町		68	14.7%	25.0%	13.2%	5.9%	23.5%	27.9%	27.9%	13.2%	5.9%	2.9%	4.4%	2.9%	7.4%	29.4%	0.0%	10.3%
無回答		23	17.4%	30.4%	30.4%	13.0%	30.4%	21.7%	21.7%	0.0%	8.7%	0.0%	13.0%	4.3%	4.3%	26.1%	0.0%	8.7%

男女共同参画に関する意見や要望の自由記述の結果は以下の通り。

自由記述	性別	年代	地区
田舎に住んでいますが、女性の立場の弱さを感じます。昔も今もあまり変わらない。特に農家の女性の負担はひどく、家事は仕事のうちに入らないと思っている男性が多いと思う。女のくせに、女だてらにという言葉をよく耳にします。人間は、特に男は変わることができるのでしょうか。市長様は週に何回家事をされますか。	男性	20歳代	三角町
少しずつでも頑張りが見える、誰かが真剣に取り組んで、それを大きく、時に熟考し、広く拡張していくことが大切。人々が持つ夢と同様にそれが無償で行われることを継続可能にしたらきっとよくなると思う。	女性	20歳代	松橋町
男女を集めるなどして、育児休暇や介護休暇、子育て支援サービスについてどうあるべきか等を教える場を持てばいい社会になるのではないかと。	女性	20歳代	松橋町
重労働作業の職場につく女性に対しての結婚、妊娠した時に職場の理解が足りない。男女は平等であるが、同等ではないので体力的にきつい部分がある。	女性	20歳代	松橋町
個人レベルで能力がバラバラなのになぜ無理に平等にするのか。これにより社会が混乱したら責任はだれが取るのか。	男性	20歳代	松橋町
特にないが、あえて言うなら質問数が多かった。	女性	20歳代	豊野町
もっと男性は子育てに参加できる社会になるとよい。その方法を市町村から広めてもらえればうれしい。	女性	20歳代	豊野町
よくアンケートに回答しているが何も変わらない気がする。子どもは産めだけど、育てていく環境もまわりの理解ももらえない。結局母親１人に押し付けて終わり。だからノイローゼになる。母親である前に１人の人間ということを忘れている。何のためのアンケートなのかよく分かりません。無意味に思えます。考えたら腹が立ってしょうがない。	女性	20歳代	豊野町
子どもをあずけるところ、高齢者を見てくれるところ等女性が働く上で必要な施設、補助等があれば、もっと安心して働けると思う。	女性	30歳代	三角町
問いと異なるかもしれませんが、地域の行事、役が多すぎる。退職者やご隠居の方々がいろいろするのはよいが、市の助成金のためにちょこちょこイベント（手伝い等）に勤め人の方々が土日を利用して行われるが迷惑。行かないと文句を言われる。もっと仕事と子育て中の人のことも分かってほしい。とくに市、県退職者の活躍がすごいが、サラリーマンのことを分かっていない。	女性	30歳代	松橋町
女性が当たり前に働くには、社会全体が残業ゼロを目指して労働時間を短縮し、男性が早い時間に帰宅できること。日常的に家庭生活に関わり、協力し合えることが大事ではないかと思う。社会全体と男性の意識改革や労働環境の整備がなければ実現できないと思う。親が気持に余裕をもって子育てすることができれば子どもの気持ちも満たされ、安定した世の中になるのではないでしょうか。	女性	30歳代	松橋町

今の成人男性の考え方を変えることは難しいと思うので、子どもたちには積極的に家事、育児に協力し関わるような大人になってほしい。私が苦労しているので、子どもたちは理解してくれることを願います。	女性	30歳代	豊野町
昔に比べるとだいぶ格差はなくなりました。でも、職場、地域ではまだ女性が低い扱いを受けているのを自分自身体験しています。経済的に厳しい日本全体ではあるが、いつか本当の平等がくる日を願う。	女性	30歳代	豊野町
共同参画と言われ続けてきましたが、啓発だけで終わってしまいます。言葉が難しく、理解されにくいのではないでしょうか。特に子育てのフォローがあれば少しは女性も社会参加ができると思います。主婦への理解など、多岐にわたって理解がされると少しは変わってくるのでは。	女性	30歳代	豊野町
田舎に行けば行くほど男尊女卑の考えは根強く残っており、それが当たり前と思っている人も多くいると思う。そういった考えのある人にいくら考えを改めてと言っても何がおかしいか分かっていない。そういった人たちがいなくならない限り男女平等はありえないと思う。	女性	30歳代	不知火町
働きたい人は多くいると思います。自分との条件が合わずということが多く、その後どうしようもないことに。人とのかかわりで苦労している人も多いし、いじめにあう人が悪いのではなく、たいがい自分と同じようにできない、尊重できない、ストレスが自分にあってそれを発散するようにその相手にこれでもかといじわるし、その他の人も巻き込んでグルになって居場所をなくすなどのことは日常的にあっている。いじめにあった人へのケアも必要だが、攻撃を加える人のカウンセリングはもちろん、見て見ぬふりの人が加担しなければ攻撃をやめるのであって、間違ったことをしている人への対処などの力を子どものころからつけることによって、社会的にも少しは違ってくるように思う。そういったことは授業の中でも取り組んでほしい。家庭の中からとも言いたいが、果てしないのでどこかで叶えないといけないのではないでしょうか。こういったことに理解がある人が推進していってほしいと思う。大人を変えるのは大変だが、子どものころから徹底すれば 10 年後、20 年には変わるはず。	女性	30歳代	不知火町
男女の差別はなくしてほしいが、男は男らしく、女は女らしく、男女の違いを大切にしていかなければならないと思う。なんでも男女を平等にすればいいというような現代の考え方には反対です。	女性	30歳代	不知火町
男女共同参画を推進すると出生率の増加にはつながらず、少子化が進んでいく一方だと思う。子どもを仕事しながら産み育てることに対して、男女問わず否定的な発言が多く、どちらかを選ばざるを得ない場合に、どちらを選んでも何かしらの苦労が出てくるので、少子化を止める方法を考えるか、男女共同参画を見直すか。いろいろな視点で考えてもらいたい。	女性	30歳代	小川町
地域の年寄りの意識を変えることが一番の近道。	女性	30歳代	小川町

女性が仕事をしながら家事、育児、おまけに介護まで。はっきり言ってとても無理です。今まで女性だけに無理を負わせていた分、その反動が今きているのではないでしょうか。問題ないと思うなら男性がしばらくやってもらいたいと思います。今子どもが増えるような施策を投じなければ老人ばかりになってしまう。若い人たちが結婚しよう、子どもを持てると思えるように援助してください。高齢者にお金を使いすぎではないですか。	女性	40歳代	三角町
女性が意見しにくい状況。とくに田舎では女のくせになどと陰で言う人が多い。この地を出てない年配の方の固定概念が強すぎて新しい風が吹かない。年配の方の意識を変えてもらいたい。高齢化社会なので高齢の方の意識を変えなければ変わらない。	女性	40歳代	三角町
子どものころからよく遊び、男女の仲をフラットにすれば共同参画に結び付く。セクハラも口で注意する男の人が増えれば自然になくなると思う。パワハラも。個人、社会の意識を高める。	男性	40歳代	三角町
委員、管理職等に女性を登用することは必要だと思うが、やたらと女性を登用することは男性の登用を阻害することにもなりかねない。男性、女性問わずその職務に適性のある人を登用することが一番大切なのではないか。	女性	40歳代	松橋町
宇城市ももちろん熊本県は農業、漁業に関した恵まれた環境にありますが、現状としては、田、畑はどんどん住宅地になっていっていると感じる。高齢のため、廃業される方も多いと聞きます。子どもたちも農林漁業もいろいろな人が関わり、皆で守り育てなければならないと思う。人が育ち、住みやすい環境になれば多くの人が宇城市に魅力を感じて住みたいと思うはず。宇城市はほかの自治体には負けない、自信があるといったものを何か１つでもいいので決めてみてはどうか。	女性	40歳代	松橋町
無限制な男女共同参画には否定的です。例えば、看護師など、社会通念上やはり女性があるいは男性が性別で羨ましいと思われる職業や役職はあると思う。現時点でそれが正しいか、誤っているのかは別として一足飛びに訂正することは難しい。まず、学校教育、社会教育の中でジェンダーにしばられず、人として男女ともに輝ける社会をつくるという意識を育てていくことが肝要かと。	男性	40歳代	松橋町
妊娠、出産等女性にしかできないこと、また男性にしかできないことは確実に存在するので、その性差を認めあった上で平等にできること、できないことを区別することは必要だと思います。お互いが助け合って生活できるのが一番です。	女性	40歳代	豊野町

20年職場で働いています。子どもは中学生と小学生がいて、毎日送迎、休日も部活の送迎で忙しい日々です。今、世間も物騒で迎えに行かないと危ない時代で親は本当に大変です。今までは定時で帰ることのできる部署でしたが、異動で秋からは残業、休日出勤当たり前の部署になりました。夫も働いていますが、外回りのためお客様対応で忙しい日々です。協力してやっていくことは承知です。規定でも未就学児までも子を持つ親に対しては残業させないなど設けてありますが、今の時代それ以外の子どもにも手がかかるため、行政でも規定を作り育児と仕事の両立ができるようにお願いしたいです。女性も定年退職まで働けるようにお願いします。	女性	40歳代	豊野町
男女平等は必要だと思うが、自分には男性と同じように社会で働く能力がないので、男性と同じように責任を持ちたくないし、持たされたら働いていけない。	女性	40歳代	豊野町
政策決定の内容が分かるように議会をインターネットで後でも見られるようにしてほしい。また、土日議会開会等も集中的に質問を絞り開催してもらいたい。議員がどう考えているかを同じアンケートで実施し、その集計を公表してもらいたい。	男性	40歳代	豊野町
男性は、女性はという住み分けがまだまだ意識の中に高い人々が多いようです。女性には無理、私には無理だから、この視点を少しでもよい方向へ進めていければいいのにと思う。女性もできないではなくやってみるという参画の意識をもっと高めていくことも必要。	女性	40歳代	不知火町
関東方面に 10 年以上暮らし熊本に引っ越してきましたが、関東方面に比べ 1 から 2 世代は人権意識、平等意識、法律の認識が遅れていると感じます。特に農村の高齢者は根強い身分制度のようなものが行動規範としてあるようです。保守的な地域ではありますが、社会教育などを通じ、意識の変化を期待します。	男性	40歳代	不知火町
責任を持って働く女性の教育が大事。リーダーシップをとれる女性が多く現れるべき。	男性	40歳代	不知火町
女性の人材育成の推進は全市民平等に機会を与えてほしい。全ての人にチャンスがあっていいと思う。私はフルで仕事していますが、介護の資格も取りたいです。時間もお金もないのでチャンスがほしい。	女性	40歳代	小川町
われわれの世代は学校教育で男と女の生きる道は決まっていたと思います。今からの若者は教育の時間を設けて早い時期から学習したほうがよいと思う。	男性	50歳代	三角町
男女共同参画という言葉を使わなくてもよい社会が一日も早く訪れることを願っています。	女性	50歳代	松橋町

男性差別の実態があります。ジェンダー学から男性は悪、女性は善かつ被害者というカテゴリーで話が進むような気がします。女子差別と言いながら男性の間接差別になっている場合もあります。子どものことになれば男性よりも女性の言い分が通るからです。男性も嘘をつきますが、女性も嘘をつきます。性的な区別以外は男女を入れ替えても成り立つような施策をお願いします。	男性	50歳代	松橋町
男女共同参画はかなり社会的認知を得てきていると思いますが、女性が働きながら家事、育児を両立させることは難しいと思います。現実は女性に負担がかかり、そのことが少子化を一層進行させています。女性の社会参画は当然のことなのですが、男性も同等に負担を負わない限りそのまま終わりかねません。一度得た特権を手放すことは容易ではありません。もしかしたら、特権だということに気づいていないかもしれない。意識改革こそが急務だと思います。お互いがお互いの価値観を尊重できる社会になってほしいと願っています。	女性	50歳代	豊野町
とても素晴らしいことと考えますが、個人としては一人ひとりの考え方。小さい頃からの生活の中で培われた意識からの改革が必要と考えています。問 25 のように仕事の大変さやポイントを知らないのでこうしたほうがいいとは答えられません。男女平等とは同じことを同じようにするのではなく、それぞれの特性を生かした分業がいいと思う。それを男らしく、女らしくとくくってしまうと意味がない。	女性	50歳代	豊野町
男女共同参画とよく耳にするが、市で具体的にどんな取り組みがあるのか全く知らない。また、アンケートをどう活用されるかも分からない。ただ、結果だけ知らせるのであればあまり意味がない。この結果がどのような取り組みにつながるのか知りたい。役職者の方々をみると、宇城市は男性が多いと思う。男女のバランスはどうなっているのか分からない。分かりやすいところから提示してほしい。	女性	50歳代	豊野町
学校教育の中で学習が大事なのでは。職場でも教育の場をつくる。地域、家庭生活で。まずは身の回りから見直せばいいと思う。	女性	50歳代	豊野町
ここ数年でいくつかの職場で仕事をしていましたが、あるところでは、男女関係なくお茶を入れていたり、片づけたり、来客へのお茶出しの強要を女性に対してしていない。あるところでは、どんなに忙しく、仕事をしていても、コーヒー入れての一言。自分は何をするわけでもなく。時間があるのであればコーヒーぐらい自分でいれてと言いたい。考えが古い男性がたくさんいることにびっくり。また田舎の方では女性の社会への進出を同姓である女性たちが女のくせにという意識を持っている方がたくさんいる。	女性	50歳代	豊野町
子育て支援(親の)支援ではなく、子ども自体の支援。親育てをしてほしい。子どもへの関心が薄れて、子どもをペットにしているところがある。何もかも他人任せ、国任せ。	女性	50歳代	豊野町
何も期待していません。	女性	50歳代	豊野町

年齢的に昔の考え方で生きてきたので、なかなか難しい問題だと思います。しかし、子どもたちが今の社会の中で実際、このようなことの体験をしながら子育てを頑張っています。保育士をしている娘は、職場での上司から言葉によるパワハラにあい自信を失っています。子どもを産んでもすぐ仕事復帰しなければならなく、子どもを産むリスクの大きさを感じたと話をしていました。男性と同じように女性が子育てしながら仕事をすることは本当に難しいと思います。	女性	50歳代	豊野町
まだ男女間の作業などに昔からの考えがあるが、多く残っている作業内容は違っても協力して生活することを皆が意識することが大事では。	男性	50歳代	豊野町
セクハラは受け手の感じ方であり、男から女だけでなく、女から男もある。共同＝平等と思え。平等は男だけの社会でもない。会社でもないと思っています。同じ仕事をしていても、評価は違う。社会は差別するところである。同じ仕事をしていても、給料やボーナスに差は出るし、あえて出させる(調査)。民主主義ではやむを得ないのではないか。社会主義にするならこのような問題はないのでは。	男性	50歳代	豊野町
セクハラ、パワハラ、DV 等相談件数を公表してほしい(宇城市、町別)。	男性	50歳代	豊野町
男女平等とは思いません。重いものを女性に持たせることはできないし、女子会と書いてあることもおかしくなるのでは。男は男らしく、女は女らしくがうまくいくのでは。	男性	50歳代	豊野町
過度な男女平等推進がかえって不平等感を煽るのでは。男らしさ、女らしさが大切。	男性	50歳代	豊野町
政策を目に見えるように実現してください。	男性	50歳代	豊野町
男性、女性がそれぞれの立場で十分に能力を発揮できるのであれば、様々な状況があるけれども、それは共同参画を捉えているのではないかと。男性であれ、女性であれ個としての人間にそれぞれ得意とする分野があるのではないでしょうか。男女差別をすることになり、違和感があります。今回のアンケートもそのような誘導を感じる。	男性	50歳代	豊野町
男女共同参画について男性の関心が薄いと思う。	女性	50歳代	不知火町
今後宇城市発展のために、ご活躍を期待、希望します。	女性	50歳代	不知火町
よく分からないことが多い。特に 14 ページ(調査票)は分からない。	女性	50歳代	不知火町
男女の性別による役割分担があるのは、父性、母性によるので自然なことで悪いと思わない。だが、それを強要するのはよくない。無理をしすぎるとどこかに歪みが出てくるからだ。理想は男性も女性もお互いが助け合い、支えあう家庭、男性にとっても女性にとっても個性や特性を発揮し働きやすい職場や会社だと思う。口で言うのは簡単ですが。	女性	50歳代	小川町
昔よりも女性の地位も上がってきているように思う。農業、漁業の女性の経済(小遣い)が多くなると嬉しい。	女性	60歳代	三角町
男女、職業、学歴、地域等の差別感を取り除く。	男性	60歳代	三角町

少しずつ変わっていくと思います。生活に余裕のある人は減り始めましたが、国の借金は拡大し続けている。ギリシャみたいに減った時どうするのか。	男性	60歳代	三角町
男女共同参画社会は理想的な社会であるが、女性自身が自分は無理に参画しなくてもよいと考えている人もいる。参画の土俵に引き上げるのではなく、登りたい人が登りやすいようにしてあげることが大事。	男性	60歳代	松橋町
私は高校を卒業して 38 年間勤めた仕事場の経営者が変わり新しい経営者から言葉の暴力、賃金カット(半分)をされ本当にひどいいじめにあいました。市の人権相談、労働基準監督署(女性が対応)に相談しましたが、なんの解決にもなりませんでした。	女性	60歳代	豊野町
町、行政区ごとに区、役員等を入れて研修会を実施してほしい。人権啓発、男女共同、男女共生は何をすればいいか分からない一般市民として。	女性	60歳代	豊野町
アンケートはよいと思う。役にたってほしいと思う。	女性	60歳代	豊野町
言葉だけの取り組みではなく、実行に移してほしい。会議等では何も起きないし、変わらない。地域の生の実情に即した対策をとにかくやってほしい。駄目だったら次を考えればいい。実行あるのみ。	女性	60歳代	豊野町
理解できない用語もたくさんあり、質問に対する答えを考えることが難しい項目があり、自分の勉強不足、意識の低さを感じた。	女性	60歳代	豊野町
まだまだ女だから、といった風潮が強く、同じようなことを女性が言っても相手にされないことでも、男性に言ってもらうと受け入れられたり、考えてもらえるようなことがあります。性別を大切にしつつ、個人としての平等が保証される社会に早くなってほしいと思う。	女性	60歳代	豊野町
家庭ではまだ男は仕事、女は家事が多いのですが、若くて家を建てるため、生活費が上がり女性も働く必要があります。しかし男性で家事を手伝う人は少ないようです。小、中学校の家庭科などで調理や木工などしているので、もう少し進めて将来実際に生かせるようになればと思う。社会ではまだまだ男性が有利にあります。女性も大学進学者が増えて専門分野に就業していますが、結婚、出産などで生かし切れていない場合も多いので社会が支えてくれたらと思う。	女性	60歳代	豊野町
私たちの子育てと変わって今のお父さんたちも頑張っているなと思います。でも女性の職場や地域での活躍はまだまだ男性にはかないません。男女共同参画社会が少しずつでも実現できるように期待しています。	女性	60歳代	豊野町
男女平等な扱いは必要と思うが、すべて男女同じにできることは難しいし、無理だと思う。例えば、長時間の残業危険な部分での仕事等。お互いを認め、尊重し、甘えのない考え、気持の持ち方が必要かと。	女性	60歳代	豊野町

家事は女性がやるものと思っている男性。特に中高年に多い気がします。もし、妻がいなくなればどうするのか考えているのだろうか。そのために少しずつ家事慣れしておく必要があると。共同参画の男性リーダーを養成して、実践している家庭の内容を男同士で話すことで家事をすることへの抵抗をなくし、お互いの実践後の話題を共有し周囲へ広げていければいいなと思う。まずできるところから。ちなみに我が家は主人が協力的で助かっていますが、それだけに周囲の人たちにも男女共同参画を推進しています。	女性	60歳代	豊野町
現在も社会的に男性が優遇されていると思います。この市民意識調査を機に、10 年、20 年後の男女平等社会に期待します。	男性	60歳代	豊野町
男女の家事講座を開くことが女性の役割分担を少なくすることと思います。	男性	60歳代	豊野町
自由に男性、女性の意見が出し合える社会になり、女性の目、男性からの目で明るい宇城市づくりができれば。	男性	60歳代	豊野町
長い慣行を正すためには、息の長い啓発活動が大切。どんな行動も意志のなせる技です。したがって、個人の考え方、特に古い感性に沿ったものの考え方を変えていくことが大切だと思います。	男性	60歳代	豊野町
女性が学べる環境づくりが一番大切だと思う。公民館、図書館の有効活用で女性が主体的な生き方ができるようになると思う。地域の中での学びあいが大事。	男性	60歳代	豊野町
男女共同参画社会の推進は必要。しかし、男女間に体力の差、生理的な違いがあり。すべてに平等とはいかないと思う。お互いに思いやりの心が大切。	男性	60歳代	豊野町
人間みな平等。孫がいじめにあって命を落としたら困ります。飲酒運転で事故に遭遇。これも大変です。人間性の向上、人格レベルアップ。終生勉強。ありがとうございました。	女性	60歳代	不知火町
以前勤めていた職場で経営者(男性)が毎日大声で人をばかにした言動や、中間管理職に対しリーダーシップがないなどとパワハラがあり、何人も所属長は辞めました。負けずに訴えればいいのにと言いましたが、誰も泣き寝入り。まだまだ男性が多い(役員等)職場では隠れパワハラが横行しています。女性は訴える勇気がないのが現状です。ぜひ平等な社会になってほしい。ちなみに私は強いのでちゃんと仕事もこなし、毅然とした態度をとってきました。今の職場は定年後に勤めていますが上司が平等に扱ってくれます。	女性	60歳代	不知火町
男女共同参画について一つひとつの質問も具体的に書かれてしっかり受け止められました。	女性	60歳代	不知火町
公務員の場合、男女共同参画の取り組みができますが、大体の場合は制度があっても取り入れがない。	女性	60歳代	不知火町

宇城市議会議員の女性議員数(1 人)を見て分かるように、まだ地域に女性の社会進出、参加に対する、認識、理解が全体的に不足している。一朝一夕に改善できるものではないので、学校教育等での地道な啓発が必要と感じる。	男性	60歳代	不知火町
女性が管理職になって帰りが遅くなった時に旦那が子どもの面倒を見たり、ご飯の支度をするでしょうか。まだまだ難しいと思える。	女性	60歳代	小川町
介護でも育児でもお互い協力し合い積極的に相手を支えていくことができればいい。	女性	60歳代	無回答
生物はどうして雄と雌がいるのか。人間の男と女でもどうして体の構造が違うのか。どうして男は子どもを産めないのか。種の保護のためにどうしたらいいのか。その他については男女平等である。個性を尊重すべきである。	男性	60歳代	無回答
男女共同参画に関する取り決めが決定されて 20 年近くになるのに、いまだに基本的な調査が行われているのは、この取り組みの遅れだと思う。	女性	70歳代	三角町
女は男を全てにおいて「立てて」いくと何も問題は起きない。今の日本はそれを忘れている。	女性	70歳代	松橋町
各個人の能力希望にあった場で活動できる家庭社会であればいい。	女性	70歳代	松橋町
男女平等に意見を言ったり、仕事をしたり、物事を行うことはとても大事なことですが、男は男らしく、女は女らしく生きることも男女共同参画だと思います。	女性	70歳代	松橋町
私の年齢になると、仕事もなく後何年かの命。自分を大事に、病気をしないよう、子どもたちに迷惑をかけないように生活するだけです。今後を担う世代の方、考えをしっかりもって一度の人生を頑張ってください。	女性	70歳代	豊野町
私たちの年齢に対し質問が分かりにくい。	女性	70歳代	豊野町
女性が必要以上にえらくなると上からの物言いをする人が多い。熊本市議の例もあるように、全員ではないかもしれない。	女性	70歳代	豊野町
すべての政策の企画、実現に至る過程の中で、性差別、区別されない社会の現実を望みます。宇城市は政策決定の場に女性登用が消極的すぎると思います。もっと積極的な登用を望みます。	女性	70歳代	豊野町
男女共同参画について自分が認識不足だったとこのアンケートを書きながら思いました。男女が真に平等という意味は性差を十分考慮した上で考えていかなければならないと思う。女性、男性の特色を生かしながら人としては平等という視点に立つべきだと思います。	女性	70歳代	豊野町
幼、保、小、中と名簿は男女混合名簿になっているのでしょうか。そうでなければ考えてほしいものです。男女共同参画になってあらゆる機会を捉えていただき啓発してほしい。	女性	70歳代	豊野町
法は施行されているが、一般的な意識はまだ男性中心でないかと思う。女性の意識向上も大切だと思う。職場における育児休暇取得の実態はどうですか。	女性	70歳代	豊野町

基本的な人権による男女は全て平等である。職場、家庭ではこのような考え方でいいと思う。ただし、平等だから同じことをしなければ平等ではないと主張する声も聞かれるが、これは違うと思う。男、女はそれぞれの身体的な違いがあるので特性があった仕事を分け合ってスムーズにやっていくことが本来の共同作業だろう。	男性	70歳代	豊野町
男女共同参画社会の実現は地域社会、国全体で活性化させる基盤である。男と女の性別役割、意識を変える。適性、能力、体力に応じそれぞれが自分の生きがいを持って実行すること。意見決定の場に女性の視点、考え方を多く受け入れる。議員、団体職員等、女性の登用率を50パーセントにする。	男性	70歳代	豊野町
男女共同と謳っていますが私の考えではこの調査は女性優先に思いました。私は後期高齢者で社会のことは分かりません。	男性	70歳代	豊野町
男女仲よく助け合い、元気で暮らしましょう。宇城市に住んで良かった。幸せです。ありがとう。	女性	70歳代	不知火町
昔は少々行動していたこと(体をそっと触る)といったことでも、前は問題にもなりませんでしたが、今はやかましくなって私はいいことだと思います。子どもも今の子どもは成長が早くて事件が多いので、周りの大人が大切に見守ってやらないといけないと思います。	女性	70歳代	不知火町
理解できない単語が多かった。歳をとれば聞いたような言葉でも忘れてしまう。	女性	70歳代	不知火町
高齢者の介護強化に力を出してほしい。	男性	70歳代	不知火町
若い人たちがよく仲よく家事に協力していると思う。それに比べると中年以上の夫婦は夫の協力がない。	女性	70歳代	小川町
1 人暮らしの老人の意見を聞くより、このアンケートはこれから未来のある人間に聞いたほうがいい。	女性	70歳代	小川町
男性の良さ、女性の良さを生かしてお互いに支えあう社会。まずは家庭から。	女性	70歳代	小川町
現実的でない。	女性	70歳代	小川町
昔から男性は仕事、女性は家事、子育て、仕事をしていましたが、今の男性は割りと子育て、炊事など手伝う気がします。男女共同参画をある程度自覚していると思います。	女性	80歳代以上	三角町
要望や意見ではないのですが、アンケート調査の人選について。年齢等を考えてからピックアップしたほうがいい。	女性	80歳代以上	三角町
無作為の3,000名の中から81歳の私がその中の１人に選ばれて。ほかに子育て中のご家庭があるのでは。勉強になりました。	女性	80歳代以上	松橋町
80歳越えの人にとっては内容が難しい。今後、啓発活動を各集落の公民館などで実施してほしい。	男性	80歳代以上	松橋町
カタカナ、横文字が分かりません。辞典を見ながら覚えました。時代の波についていけません。	無回答	80歳代以上	松橋町

年齢によっていろいろな考え方の相違がある。育ってきた年代で違うと思う。昔の女性は我慢強くがモットーとされて育ってきたので、急に変わらない人が多いと思う。メディアや行政が力を入れてくれることで、今後は若い人のためにどんどん取り入れて女性がのびのびと社会に出られる環境をつくってほしい。	女性	80歳代以上	豊野町
女は積極的に社会に出ていくことと思う。	女性	80歳代以上	豊野町
時勢は力ありの世の中。男性を立ててください。男という字は田の下に力と書きますね。生きるためには男女なくして、女性の力では世の中口ばかりでは暮らせません。男性を立ててください。	女性	80歳代以上	豊野町
男女共同参画推進条例や基本法等の PR をお願いします。	男性	80歳代以上	豊野町
万時に当事者にならんとする者の意欲、周囲の理解、よりいい環境づくりの 3 点が必要。	男性	80歳代以上	豊野町
なぜ進まないのでしょうか。高齢、少子化の現在。今のままでいいはずがありません。ジェンダーがもっと政治課題として印象付けできれば本当の変革が起きるのでは。女性の活躍促進も生きてくるのでは。	女性	80歳代以上	不知火町
男性のために家事能力を高める講座を開く。男女共同参画社会づくりの拠点施設の設置。	男性	80歳代以上	不知火町
男女共同参画に関する講演を聞きたい。	女性	80歳代以上	小川町
子どもの人口を増やす企画を提唱したい。	無回答	無回答	無回答
熊本市議(女性)がある調印式に関して、自分の職務権限を利用し暴言を吐き、職員に威圧感を与えて職務を妨害を行うという記事があった。男性議員、女性議員に関わらず職員を叱責することは許されることではない。特にこの件については市議のパワーハラスメントになると感じている。慎むべきである。	無回答	無回答	無回答

資 料 編

男女共同参画に関する市民意識調査

【調査ご協力のお願い】

市民の皆様には、日頃から市政に対し、ご理解とご協力をいただきまして厚く御礼申し上げます。

さて、宇城市では、「女（ひと）と男（ひと）で築く、やさしく住みよいまちづくり」を基本理念として、男女共同参画社会の実現に向けての取り組みを進めています。

この調査は、皆様の日常生活の実態や考えをお伺いすることで、男女共同参画に関する意識や現状を把握し、今後の男女共同参画行政に反映させていく基礎資料にするために行うものです。

なお、このアンケートは市内に在住する２０歳以上の男女３，０００人の方を無作為に選ばせていただきお送りしています。

お答えいただいた内容については、すべて統計的に処理し、調査の目的以外には使用いたしませんし、個別の内容を公表することはありませんので、ありのままを回答していただきますようお願いします。また、調査票、返信用封筒にお名前を記入する必要もありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成27年7月

宇城市長　守田　憲史

【ご記入に当たってのお願い】

- 記入に当たっては、原則として封筒のあて名のご本人がお答えください。
- 質問ごとに当てはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。○をつける数は、質問中の指示に従ってください。
- えんぴつまたはボールペンではっきりと記入してください。
- 各質問で「その他」にお答えいただいた方は、なるべく具体的にその内容をご記入ください。
- **調査票を記入後は、同封の返信用封筒に入れて７月　２７日（月）までにポストに投函してください。　※その際、切手を貼る必要はありません。**

【 お問い合わせ先 】

宇城市役所　総務部　人権啓発課・男女共生係（喜津木・古澤）
ＴＥＬ：３２－１１１１（内線１２５１）　ＦＡＸ：３２－０１１０
E-mail : jinkenkeihatsuka@city.uki.lg.jp

ご自身のことについて

問１　次の(1)～(6)の項目について、それぞれ1つを選んでください。

(1)	性　　別	１．女性　　２．男性
(2)	年　　齢	１．２０歳代　３．４０歳代　５．６０歳代　７．８０歳代以上 ２．３０歳代　４．５０歳代　６．７０歳代
(3)	お住まい	１．三角町　３．松橋町　５．豊野町 ２．不知火町　４．小川町
(4)	婚姻の有無	１．結婚をしている（配偶者有り、事実婚を含む） ２．結婚したが死別又は離別した ３．結婚していない
(5)-1	職　　業（本人）	１．自営業主 ２．家族従事者 （１．２はア～ウのいずれかにも○） ア　農林漁業 イ　商工サービス業 ウ　自由業（特別な技能・技術・知識に基づく専門的職業のこと。医師、弁護士、作家等） ３．正規雇用者：会社員、公務員などの給与所得者 ４．非正規雇用者：嘱託、臨時職員、パート、アルバイト、派遣社員等 ５．主婦・主夫 ６．学生 ７．無職 ８．その他（具体的に：　　）
(5)-2	職　　業（配偶者）	**※(４)で「１　結婚をしている」と回答した方は、こちらもお答えください。** １．自営業主 ２．家族従事者 （１．２はア～ウのいずれかにも○） ア　農林漁業 イ　商工サービス業 ウ　自由業（特別な技能・技術・知識に基づく専門的職業のこと。医師、弁護士、作家等） ３．正規雇用者：会社員、公務員などの給与所得者 ４．非正規雇用者：嘱託、臨時職員、パート、アルバイト、派遣社員等 ５．主婦・主夫 ６．学生 ７．無職 ８．その他（具体的に：　　）
(6)-1	家族構成	１．ひとり暮らし（単身世帯）　４．親と子と孫（３世代世帯） ２．夫婦だけ（１世代世帯）　５．その他（具体的に：　　） ３．親と子（２世代世帯）
(6)-2	世帯で最年少の方の年齢	**※(６)-１で「３」「４」「５」と回答した方は、こちらもお答えください。** １．乳幼児（0歳～小学校入学前）２．小学生　３．中学生　４．高校生以上

男女平等について

問２　あなたは、男性と女性は平等であると思いますか。(1)～(9)のそれぞれについて、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

	女性の方が非常に優遇されている	どちらかというと女性が優遇されている	平等である	どちらかというと男性が優遇されている	男性の方が非常に優遇されている	わからない
⑴ 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
⑵ 就職・採用では	1	2	3	4	5	6
⑶ 職場では	1	2	3	4	5	6
⑷ 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
⑸ 地域活動・社会活動の場では	1	2	3	4	5	6
⑹ 政治・政策決定の場では	1	2	3	4	5	6
⑺ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑻ 社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
⑼ 社会全体では	1	2	3	4	5	6

結婚観について

問３　次に掲げる⑴～⑷のそれぞれについて、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
⑴ 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
⑵ 精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい	1	2	3	4	5
⑶ 結婚したら、離婚すべきでない	1	2	3	4	5
⑷ 夫婦が別々の姓（別姓）を名乗ってよい	1	2	3	4	5

家庭生活全般について

問４　あなたのご家庭では、次に掲げることは、主にどなたの役割ですか。(1)～(11)のそれぞれについて、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

	主に自分	主に配偶者	自分と配偶者が同じくらい	その他※	家族全員で分担している	特に決まっていない	該当無し
(1) 家計を支えるための収入を得る	1	2	3	(4)	5	6	
(2) 家計の管理	1	2	3	(4)	5	6	
(3) 掃除	1	2	3	(4)	5	6	
(4) 洗濯	1	2	3	(4)	5	6	
(5) 食事の準備	1	2	3	(4)	5	6	
(6) 食事のあとかたづけ	1	2	3	(4)	5	6	
(7) 育児、子どものしつけ	1	2	3	(4)	5	6	7
(8) 子どもの教育方針の決定	1	2	3	(4)	5	6	7
(9) 親の世話(介護)	1	2	3	(4)	5	6	7
(10) 家庭の問題における最終的な決定	1	2	3	(4)	5	6	
(11) 地区の行事などの地域活動	1	2	3	(4)	5	6	

※　その他（具体的に：例：父、母、祖父、祖母など）

問５　あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○は1つ）

1．賛成である　　3．どちらかといえば反対である　　5．わからない
2．どちらかといえば賛成である　4．反対である

問６　あなたが家事（育児・介護を含む）に費やす時間は1日どれくらいですか。次のA・Bについて、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

	全くしていない	30分未満	30分以上1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上3時間未満	3時間以上
A 平　日	1	2	3	4	5	6
B 休　日	1	2	3	4	5	6

子育て・教育について

問７　最近、子どもの数が減少傾向にありますが、その理由は何だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○は3つまで）

1．子育てにお金がかかるから
2．結婚年齢が上がっているから
3．出産や育児に対する男性(夫)の理解や協力が少ないから
4．出産・育児には女性の肉体的・精神的な負担が大きいから
5．女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないから
6．出産すると仕事を辞めなくてはならないから
7．生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから
8．子どもを少なく産んで、大切に育てようとする人が増えたから
9．子育てに望ましい環境が整備されていないから
10．雇用の不安など、将来のくらしに希望が持ていないから
11．結婚を望んでいても、相手が見つからずに結婚できない人が増えているから
12．その他（具体的に：　　）
13．わからない

問８　あなたは、子どものしつけや教育について、どのように思いますか。(1)～(5)のそれぞれについて、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

※子どもがいない方、またすでに養育が終了している方も、仮に「子どもをもつとしたら」として、お答えください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
(1) 女の子も男の子も、経済的な自立を目指した教育が必要だ	1	2	3	4	5
(2) 女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術が必要だ	1	2	3	4	5
(3) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい	1	2	3	4	5
(4) 学校での出席簿など、男女混合にした方がよい	1	2	3	4	5
(5) 男の子も女の子も、生まれもった個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい	1	2	3	4	5

女性の社会参画について

問９　あなたは、女性が職業を持つことについて、どう思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○は1つ）

１．経済的自立のため、ずっと職業をもっている方がよい
２．結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい
３．子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい
４．子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい
５．女性は職業をもたない方がよい
６．その他（具体的に：　　）
７．わからない

問１０　女性が職業を持ち続けるうえでの問題はどのようなことだと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○は3つまで）

１．育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある
２．育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない
３．男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある
４．労働時間が長い
５．転勤がある
６．短期契約（１年更新の嘱託契約など）等の不安定な雇用形態がある
７．教育・訓練を受ける機会が少ない
８．女性の能力が正当に評価されない
９．女性が長く勤め続けにくい雰囲気がある
10．セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）がある
11．仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である
12．男性の側に、男女平等な立場で就労していこうとする意識が欠けている
13．女性自身に職業を持ち続けようという意識がない
14．その他（具体的に：　　）
15．特に問題はない

市木「桜」

問１１　自治会・PTAの会長など、地域の団体の代表や政治・行政・職場等の企画立案、決定の場に女性が少ない原因は何だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

１．社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため
２．家事が忙しく時間がないから
３．家庭の支援、協力が得られないから
４．女性が代表だと組織が運営できるか不安であるため
５．女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため
６．地域において女性が代表となった前例が少ないため
７．女性の積極性が不十分だから
８．その他（具体的に：　　）
９．わからない

仕事、家庭、地域活動等の両立について

※問 12 は、現在職業をもっている人、以前職業を持っていた人におたずねします。それ以外の方は、問 13 にお進みください。

問１２－①　男女が働きやすい職場をつくるため、「育児休業」や「介護休業」という制度があります。あなたは、育児休業や介護休業を取得したことがありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。

１．ある　　２．　ない　→　問 13 へ

▶※問 12－①で、「１．ある」と答えた方におたずねします。

問１２－②　どの制度を取られましたか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○は1つだけ）

１．育児休業　　２．介護休業　　３．両方

問１３　育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由は、何だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

１．昇進や昇給に影響する恐れがある
２．育児・介護休業は女性がとるものだ
３．休業補償が少なく、家計に影響する
４．仕事の量や責任が大きい
５．職場の理解が得られないと思う
６．女性の方が育児・介護に向いている
７．男性は仕事を優先するべきだと考えているから
８．その他（具体的に：　　）
９．わからない

市花「コスモス」

問１４　あなたは現在、地域でどのような活動に参加していますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

	町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動	PTAや子ども会などの活動	趣味・スポーツ・学習などの活動	消費生活や環境保護などの住民活動	福祉ボランティアなどの活動	審議会などの政策決定にかかわる活動	※その他の活動（　　）	参加していない・参加したくない
(1) 現在参加している	1	2	3	4	5	6	7	8
(2) 今後参加したい	1	2	3	4	5	6	7	8

問１５　あなたが地域活動へ参加する際に支障となること、または参加しない理由は何ですか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

1．活動団体や活動内容を知らない
2．参加するきっかけがない
3．仕事が忙しい
4．家事や育児、介護で忙しい
5．健康・体力に不安がある
6．地域活動に関心がない
7．参加することに家族が協力的ではない
8．経済的余裕がない
9．人間関係がわずらわしい
10．その他（具体的に：　　）
11．特にない

問１６－①　あなたが生活を送るうえで、希望に最も近い番号を選び、○で囲んでください。（○は1つだけ）

1．「仕事」を優先したい
2．「家庭生活」を優先したい
3．「地域・個人の生活」を優先したい
4．「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5．「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6．「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7．「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8．　わからない

用語の説明
「家庭生活」：家族と過ごすこと、家事、育児、介護など
「地域・個人生活」：地域活動（ボランティア活動、社会参加活動など）、趣味・娯楽など

問１６－②　あなたの生活で、現実（現状）に最も近い番号を選び、○で囲んでください。
（○は1つだけ）

1．「仕事」を優先している
2．「家庭生活」を優先している
3．「地域・個人の生活」を優先している
4．「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5．「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6．「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7．「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8．　わからない

用語の説明
「家庭生活」：家族と過ごすこと、家事、育児、介護など
「地域・個人生活」：地域活動（ボランティア活動、社会参加活動など）、趣味・娯楽など

問１７　男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。
（○はいくつでも）

1．男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと
2．男性が家事などに参加することへの、女性の抵抗感をなくすこと
3．夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
4．まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること
5．社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること
6．労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
7．男性自身が参加への関心を高めるよう、啓発や情報提供を進めること
8．市が開催するセミナー等で、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
9．男性の参加のための仲間（ネットワーク）づくりを進めること
10．その他（具体的に：　　）
11．特に必要なことはない

三角西港

配偶者などからの暴力について

問１８　「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（通称：※DV防止法）が平成13（2001）年10月に施行されましたが、あなたはこの法律を知っていますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○は1つだけ）

1．法律の内容まで知っている
2．名前は聞いたことがあるが内容は知らない
3．知らない

※ ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）

親しい間柄にある男女（夫婦や元夫婦、パートナー）間におきる暴力のこと。身体的、精神的、経済的、性的、子どもを利用した暴力がある。

問１９－①　あなたは、これまでに恋人や配偶者（事実婚や別居中、離婚後を含む）などの親しい間で、次のA～Nについて、あてはまるようなことをしたりされたりしたことがありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

		されたことがある	したことがある	どちらもある	どちらもない
身体への攻撃	A　手でたたく・突き飛ばす、足でける	1	2	3	4
	B　身体を傷つける可能性のあるもので殴る	1	2	3	4
	C　命の危険を感じるほどの暴力	1	2	3	4
威嚇・おどし	D　暴力をふるうふりをしておどす	1	2	3	4
	E　ものを投げたり壊したりしておどす	1	2	3	4
	F　大声でどなって威嚇する	1	2	3	4
精神的・経済的暴力	G　何を言っても、長時間無視し続ける	1	2	3	4
	H　「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をする	1	2	3	4
	I　「誰のおかげで生活できるんだ」とか「安月給」「甲斐性なし」「死ね」などとののしる	1	2	3	4
	J　社会活動や就職などを許さない	1	2	3	4
	K　交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する	1	2	3	4
	L　生活費を渡さないなど、経済的に押さえつける	1	2	3	4
性的暴力	M　嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4
	N　避妊に協力しない	1	2	3	4

※問 19－①で１つでも「されたことがある」とお答えの方にお聞きします。該当しない方は次ページの問 20 へお進みください。

問１９－②　あなたはそのような行為を受けた時、どうしましたか。次の中で、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

１．警察に連絡・相談した
２．女性相談所・役所の相談窓口・人権擁護委員などに相談した
３．家族・親族・友人に相談した
４．民間の機関（弁護士会など）に相談した
５．医師に相談した
６．家を出た（別居した）
７．離婚した
８．我慢した
９．その他（具体的に：　　）
10．どこ（だれ）にも相談しなかった

※問 19－②で「8．我慢した」や「10．どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお たずねします。該当しない方は次ページの問 20 へお進みください。

問１９－③　それはなぜですか。次の中からあてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

１．どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから
２．恥ずかしくて、だれにも言えなかったから
３．相談しても無駄だと思ったから
４．相談したことが分かると、仕返しをされたり暴力がさらにひどくなると思ったから
５．相談担当者の言動により、不快な思いをすると思ったから
６．自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから
７．他人を巻き込みたくなかったから
８．被害を受けたことを忘れたかったから
９．自分にも悪いところがあると思ったから
10．相談するほどのことではないと思ったから
11．その他（具体的に：　　）

市鳥「うぐいす」

男女間のセクハラについて

問２０－①　次のような行為はセクハラ（性的嫌がらせ）ですが、あなたは職場の上司や同僚・学校・地域などで、したりされたりしたことがありますか。
次のA～Jについて、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

	したことがある	されたことがある	見たり聞いたりしたことがある	まったくない
A　「男のくせに・・」「女のくせに・・」など差別的な言葉を言う	1	2	3	4
B　「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う	1	2	3	4
C　性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う	1	2	3	4
D　異性関係が派手だなどと、性的な噂(うわさ)を流す	1	2	3	4
E　異性の同僚をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする	1	2	3	4
F　ヌード写真やわいせつな本を飾ったり見せびらかしたりする	1	2	3	4
G　接待や宴席で、酌やデュエット、ダンスを強要する	1	2	3	4
H　触る、抱きつく、しつこく付きまとう	1	2	3	4
I　地位や権限を利用して、性的関係を迫る	1	2	3	4
J　携帯電話やパソコンのメールでしつこく誘う	1	2	3	4

※問 20－①で１つでも「されたことがある」と答えた方にお尋ねします。該当しない方は次ページの問 21 へお進みください。

問２０－②　そのことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

1．上司・同僚に相談した
2．職場内の相談窓口に相談した
3．労働局雇用均等室に相談した
4．家族・友人・知人に相談した
5．その他（具体的に：　　）
6．だれ（どこ）にも相談しなかった

宇城市は「男女共同参画宣言都市」です

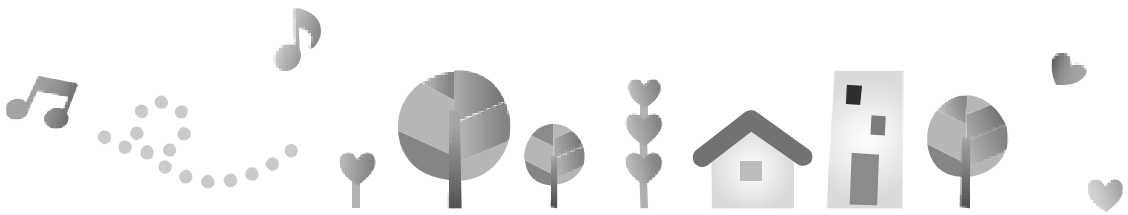
人権の尊重について

問２１　DVやセクハラなどの人権侵害をあらゆる分野からなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

１．相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発
２．不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり
３．ＤＶやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備
４．苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実
５．警察や医師及び職場の役職者といった被害者を発見しやすい人たちへの研修・啓発、ネットワークの強化
６．学校での男女平等教育の推進
７．メディアの性・暴力表現の倫理強化
８．その他（具体的に：　　）
９．特に必要なものはない

問２２　あなたが、男性および女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

１．配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む）
２．セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）
３．ストーカー行為（つきまとい）
４．売春・買春
５．痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪
６．風俗営業
７．容姿を競うミスコンテストなどの開催
８．ヌード写真やポルノ雑誌など
９．職場や仲間による言葉の暴力
10．就職の機会や賃金・昇進など男性との格差
11．その他（具体的に：　　）



メディアにおける性・暴力表現に関する意識について

問２３　メディア（テレビや映画、出版物）における性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○はいくつでも）

１．性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ
２．社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている
３．社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある
４．子どもの目に触れないような配慮が足りない
５．女性や男性のイメージに偏った表現であらわしている
６．その他（具体的に：　　）
７．特に問題とは思わない

男女共同参画に関するご意見やご要望

問２４　あなたは、男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○は1つだけ）

１．非常に関心がある　　３．あまり関心がない　　５．全く関心がない
２．まあまあ関心がある　　４．ほとんど関心がない

問２５　農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なことは何だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○は3つまで）

１．農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること
２．委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること
３．休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること
４．女性が農林漁業経営者として能力を向上させること
５．家族経営協定等により女性が責任を持って経営に参画すること
６．加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくること
７．その他（具体的に：　　）
８．特に必要なものはない

問２６　次の言葉のうち、あなたは見たり聞いたりしたことがありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

	よく知っている	内容(意味)を多少は知っている	名称(言葉)は知っている	全く知らない
※アンペイド・ワーク	1	2	3	4
※ワーク・ライフ・バランス	1	2	3	4
育児・介護休業法	1	2	3	4
家族経営協定	1	2	3	4
※ジェンダー	1	2	3	4
宇城市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
男女雇用機会均等法	1	2	3	4

※以下の用語の解説をご参照ください。

※アンペイド・ワーク

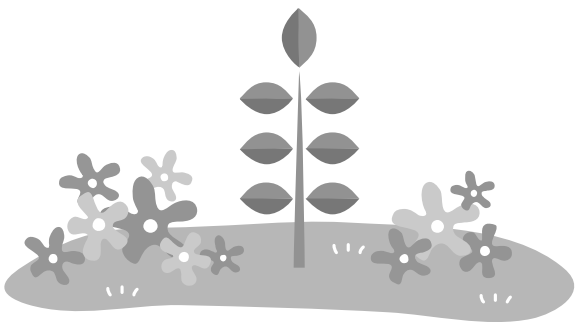
無償労働と訳され、賃金、報酬が支払われない労働、活動を意味します。無償労働の範囲は、サービスを提供する主体とそのサービスを享受する主体が分離可能で、かつ市場でそのサービスが提供されうる行動とされ、具体的には、家事、介護・看護、育児、買物、社会的行動を無償労働の範囲とされています。

※ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和。仕事と生活の調和が実現した社会とは、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」とされています。

※ジェンダー

人間には生まれついての生物学的性別がある一方で、社会通念や慣習の中で社会によってつくりあげられた「男性像」「女性像」があります。このような男性、女性の別を「ジェンダー（社会的性別）」といいます。



問２７　「男女共同参画社会」を実現していくために、宇城市の施策に望むものは何ですか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。（○は3つまで）

１．性別による役割分担の意識を是正するための啓発・広報
２．市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する
３．リーダー養成など女性の人材育成の推進
４．女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する
５．職場における賃金・女性の管理職登用など、男女均等な取扱いについての周知徹底
６．育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める
７．子育て支援サービスの充実
８．広報誌や講演会などによる男女の平等と相互の理解や協力についての啓発
９．男性のために、家事能力を高める講座を開く
10．国際交流による理解や強調の促進
11．ＤＶ、セクハラ、※パワハラ防止への広報等での啓発
12．男女共同参画社会づくりの拠点施設の設置
13．農林漁業の分野における男女共同参画の推進
14．学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実
15．その他（具体的に：　　）
16．特にない

※パワハラ
会社や学校などで、職権や地位などの差を背景に、継続的に人格と尊厳を傷つける言動。そのような言動により、就労・就学環境を悪化させる、あるいは就労・就業の継続に対し不安を与える行為のこと。

男女共同参画に関するご意見やご要望をご自由にお書きください。

質問はこれで終了です。お忙しい中調査にご協力いただき、ありがとうございました。
この結果につきましては、広報うきおよび宇城市ホームページ
（http://www.city.uki.kumamoto.jp/）に掲載予定です。

男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

平成 28 年 1 月

発　　行	宇城市　総務部　人権啓発課　男女共生係
	〒869－0592 熊本県宇城市松橋町大野 85 番地
電　　話	0964－32－1111内線（1251）
Ｆ　Ａ　Ｘ	0964－32－0110
Ｅメール	jinkenkeihatsuka@city.uki.lg.jp